Panasonic

パーソナルコンピューター 取扱説明書

品番 CF-L1 シリーズ

Let's note

98

活用編

便利・通信・モバイル・拡張

説明書の構成

取扱説明書

セットアップ編

コンピューターを使うための準備作業をするときに。また、初めてのかたを対象に、Windows（ウィンドウズ）の基本操作を、具体例を通して説明しています。

活用編（本書）

安全上のご注意など、取り扱いについての説明に始まり、便利な機能や通信のしかた、省電力機能、周辺機器の拡張のしかた、困ったときの対処方法などについて説明しています。

オンラインマニュアル

画面上で参照できるマニュアルです。
「オンラインマニュアル」の見かたについては、取扱説明書『活用編』（本書）をご覧ください。

困ったときの Q&A

本機が思ったように動かないなど困ったときの対処方法をQ&A方式で説明しています。

パソコン・サポートとつきあう方法

初めてのかたを対象に、お客様のご相談窓口を上手に利用する方法や、コンピューターの専門的な用語・略語などについて説明しています。
（編集：社団法人 日本電子工業振興協会）

内蔵モデムコマンド一覧

ATコマンドを使って通信する場合にご利用ください。

上手に使って上手に節電

保証書別添付

このたびはパナソニックパーソナルコンピューターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- 取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

もくじ

本書の読みかた 4

ご使用前に
（5ページ）

安全上のご注意 6
使用上のお願い 9
各部の名称と働き 12

使いかた
（15ページ）

便利

CD-ROMドライブについて 16
スマートポインターの操作 18
クイックラウンチャー機能 20
「スタンバイ」と「休止状態」機能 36

必要なときに
（105ページ）

セットアップユーティリティー 106
オンラインマニュアルの見かた 117
キーボードの操作 118
起動設定ユーティリティー 120

困ったときは
（121ページ）

困ったときのQ&A 122
エラーコード一覧 128
DMIビューアー 129
再インストールのしかた 130

（135ページ）

ソフトウェア使用許諾書 136
仕様 137
別売り商品 138
さくいん 139
保証とアフターサービス 142

コミュニケーション

通信を行う前に 38
通信機器を準備する 39
プロバイダーに加入し､通信の設定をする .. 42
新しく接続先を設定する 47
インターネットに接続する 50
ホームページを幅広く閲覧する
（ウェブナビゲーター） 55
電子メールを送受信する 63
イラストメールを送信する 71
赤外線通信をする 80

モバイル

省電力機能を使う 83
バッテリーパックを使う 87

拡張

周辺機器を拡張する 97

Windows 98関連ファイルのインストール .. 134

ご使用前に
使いかた
必要なときに
困ったときは

本書の読みかた

本書の表記上の約束

- キーの文字は、説明や操作に必要な文字だけを四角で囲んでいます。
  （例） N み は N や み と表記します。
- あるキーを押しながら、別のキーを押すときは、次のように「＋」を使って表記します。
  （例） Fn ＋ F6
- 「スタート」→[Windowsの終了]などは、[スタート]をクリックした後、[Windowsの終了]をクリックすることを意味します。
  （内容によっては、ダブルクリックが必要であったり、ポインターを置くだけでいい場合もあります。）
- 本書中の画面例は、一部実際と異なる場合があります。

ご使用前に

「安全上のご注意」は、必ずご覧ください。

本機をご使用になる前に、知っておいていただきたい「安全上のご注意」や「使用上のお願い」について説明しています。また、「各部の名称と働き」についても説明しています。

もくじ

安全上のご注意 6

使用上のお願い 9

ハードディスクのデータ保護 9

コンピューターウィルス 9

フロッピーディスクのデータ保護 10

LCDパネル（ディスプレイ）の取り扱い 11

お手入れのしかた 11

補足説明について 11

各部の名称と働き 12

前面 12

右側面 13

底面 14

背面 14

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や障害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物質的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で、説明しています。（下記は、絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

本機を改造しない また、本書に記載のない方法で分解しない

分解禁止

高電圧に注意
本機を分解・改造しない

[本体に表示した事項]

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。また、改造や間違った方法での分解は火災の原因にもなります。

上に水などの入った容器や金属物を置かない

水などがこぼれたり、クリップ、コインなどの異物が中に入ったりすると、火災・感電の原因になります。

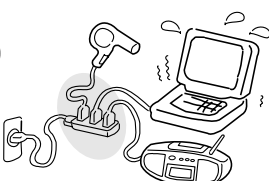
- 内部に異物が入った場合は、すぐに電源を切って電源プラグとバッテリーパックを抜き、販売店にご相談ください。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

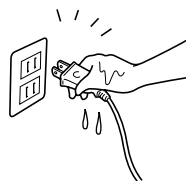
プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

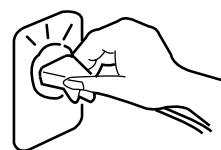
- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100V以外での使用はしない

禁止

たこ足配線等で定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠警告

異常が起きたらすぐに電源プラグとバッテリーパックを抜く

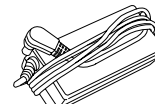
電源プラグを抜く

・本体が破損した
・本体内に異物が入った ・異臭がする
・煙が出ている ・異常に熱い
などの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。

● 異常が起きたらすぐに電源を切って電源プラグとバッテリーパックを抜き、販売店にご相談ください。

電源コード・電源プラグ・AC アダプターを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない）

禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

● コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

安全上のご注意

必ずお守りください

⚠注意

不安定な場所に置かない

禁止

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

炎天下の車中に長時間放置しない

禁止

高温により、キャビネットが変形したり、内部の部品が故障または劣化したりすることがあります。このような状態のまま使用すると、ショートや絶縁不良等により火災・感電につながることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

禁止

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

ひび割れたり変形したりしたCDは使用しない

禁止

高速で回転するため、飛び散ってけがの原因になることがあります。

● 円形でないCDや、接着剤などで補修したCDも同様に危険ですので、使用しないでください。

本機の上に重いものを置かない

禁止

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

通風孔をふさがない

禁止

内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

電源プラグを接続したまま移動しない

禁止

電源コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

● 電源コードが傷ついた場合は、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご相談ください。

1時間ごとに10～15分間の休憩をとる

長時間続けて使用すると、目や手などの健康に影響を及ぼすことがあります。

CD-ROMドライブの内部をのぞきこまない

禁止

内部のレーザー光源を直視すると、視力障害の原因になることがあります。

● 内部の点検・調整・修理は、販売店にご相談ください。

湿気やほこりの多い場所に置かない

禁止

火災・感電の原因になることがあります。

電源コードは、プラグ部分を持って抜く

電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

必ず指定のACアダプターを使用する

指定以外のACアダプターを使用すると、火災の原因になることがあります。

長時間直接触れて使用しない

禁止

本機やACアダプターの温度の高い部分に長時間、直接触れていると、低温やけど※の原因になります。

※低温やけどについて
体温より少し高い温度のものでも、皮膚の同じ個所に、長時間、直接触れていると、低温やけどを起こすおそれがあります。

使用上のお願い

・お客様の使用誤り、その他異常な条件下での使用により生じた損害、および本機の使用または使用不能から生ずる付随的な損害について、当社は一切の責任を負いません。
・本機は、医療機器、生命維持装置、航空交通管制機器、その他人命に関わる機器・装置・システムでの使用を意図しておりません。本機をこれらの機器・装置・システムなどに使用され生じた損害について、当社は一切責任を負いません。
・お客様または第三者が本機の操作を誤ったとき、静電気等のノイズの影響を受けたとき、または故障・修理のときなどに、本機に記憶または保存されたデータ等が変化・消失する恐れがあります。大切なデータおよびソフトウェアを思わぬトラブルから守るために、以下のことに注意してください。

ハードディスクのデータ保護

●コンピューターに衝撃を与えない。また、電源が入っている状態でコンピューターを持ち運ばない。
ハードディスクは衝撃に弱く、破損するとデータやアプリケーションソフトが使えなくなることがあります。コンピューター本体の取り扱いには十分注意してください。
●Windows*やアプリケーションソフトの動作中およびHDDアクセスランプ（ ）の点灯中は、電源を切らない。
●ハードディスクに保存している必要なデータは、万一の場合（故障・変化・消失など）に備えて定期的にバックアップをとる。
●データの機密保護としてセキュリティ機能を活用する。（→111ページ）

* 正式名称は、
Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating systemです。
本書ではWindowsまたはWindows 98と表記します。

コンピューターウィルス

●最新のウィルスチェックプログラム（市販）を入手し、チェックを行う。
特に以下の場合、ウィルスチェックを行うことをおすすめします。
・コンピューターを起動するとき
・データを入手したとき
フロッピーディスクなどの外部メディアから、またネットワーク、パソコン通信、電子メールなどから入手したデータ（圧縮されている場合は、圧縮解凍後のファイル）を使用または実行する前にウィルスチェックを行ってください。

フロッピーディスクのデータ保護

●フロッピーディスクドライブのランプが点灯中に、電源を切ったり、フロッピーディスクドライブの取り出しボタンに触れたり、フロッピーディスクドライブを取り外したりしない。
フロッピーディスクの破損の原因になり、データやアプリケーションが使えなくなることがあります。

●一度使用したフロッピーディスクをフォーマット（初期化）する場合はその前に内容を確認する。
フォーマットを行うとそのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えてしまいます。あらかじめ必要なデータがないか確認することをおすすめします。

●書き込み禁止タブ（ライトプロテクトタブ）を使う。
重要なデータを保存している場合におすすめします。
これにより、データの削除や上書き保存を禁止することができます。

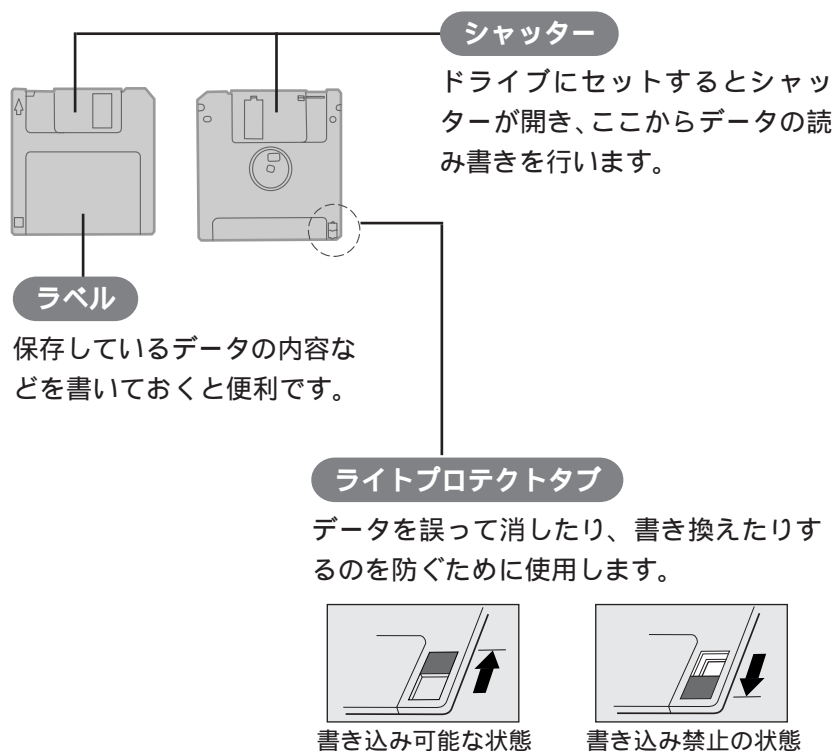
●フロッピーディスクの取り扱いに注意する。
データの破損やフロッピーディスクが取り出せなくなるようなトラブルを避けるために次の点に注意してください。
・シャッターを手で開けない
・磁気を帯びたものを近づけない
・高温・低温になりやすいところ、湿気やほこりの多いところに保管しない
・ラベルを重ねて貼らない

シャッター
ドライブにセットするとシャッターが開き、ここからデータの読み書きを行います。

ラベル
保存しているデータの内容などを書いておくと便利です。

ライトプロテクトタブ
データを誤って消したり、書き換えたりするのを防ぐために使用します。

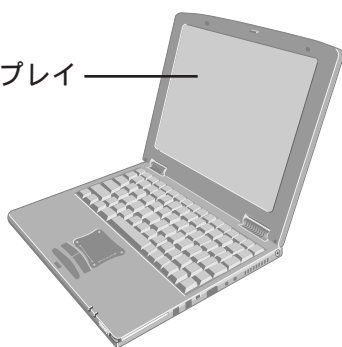
書き込み可能な状態

書き込み禁止の状態

◀フロッピーディスクを使用する場合は、フロッピーディスクドライブ（付属）が必要です。

LCDパネル（ディスプレイ）の取り扱い

●LCDパネルは衝撃や振動に弱く、破損しやすいため、持ち運びの際には十分ご注意ください。また、LCDパネル部を持って、持ち運ばないでください。
●カラー液晶ディスプレイは精度の高い技術で製造されていますが、ちょっとした環境変化等で点灯しなかったり、常時点灯したりする画素ができることがあります。これらの画素が0.002%以下（有効画素が99.998%以上）のものは故障ではありません。あらかじめご了承ください。

お手入れのしかた

・ディスプレイ部分
ガーゼなどの乾いたやわらかい布で、軽く拭いてください。
・ディスプレイ以外の部分
水または、水で薄めた台所用洗剤（中性）に浸したやわらかい布をかたくしぼって、やさしく汚れを拭き取ってください。
中性の台所用洗剤以外の洗剤（弱アルカリ性洗剤など）を使用すると、塗装がはげるなど、塗装面に影響を与えることがあります。

お願い

・ベンジンやシンナー、消毒用アルコールなどは使わないでください。塗装がはげるなど、塗装面に影響を与える場合があります。また、市販のクリーナーや化粧品の中にも、塗装面に影響を与える成分が含まれている場合があります。
・水や洗剤を直接かけたり、スプレーで噴きかけたりしないでください。液が内部に入ると、誤動作や故障の原因になります。

補足説明について

補足説明（[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[オンラインマニュアル]→[補足説明]）には、本製品についての最新情報などが記載されています。あわせてご覧ください。

各部の名称と働き

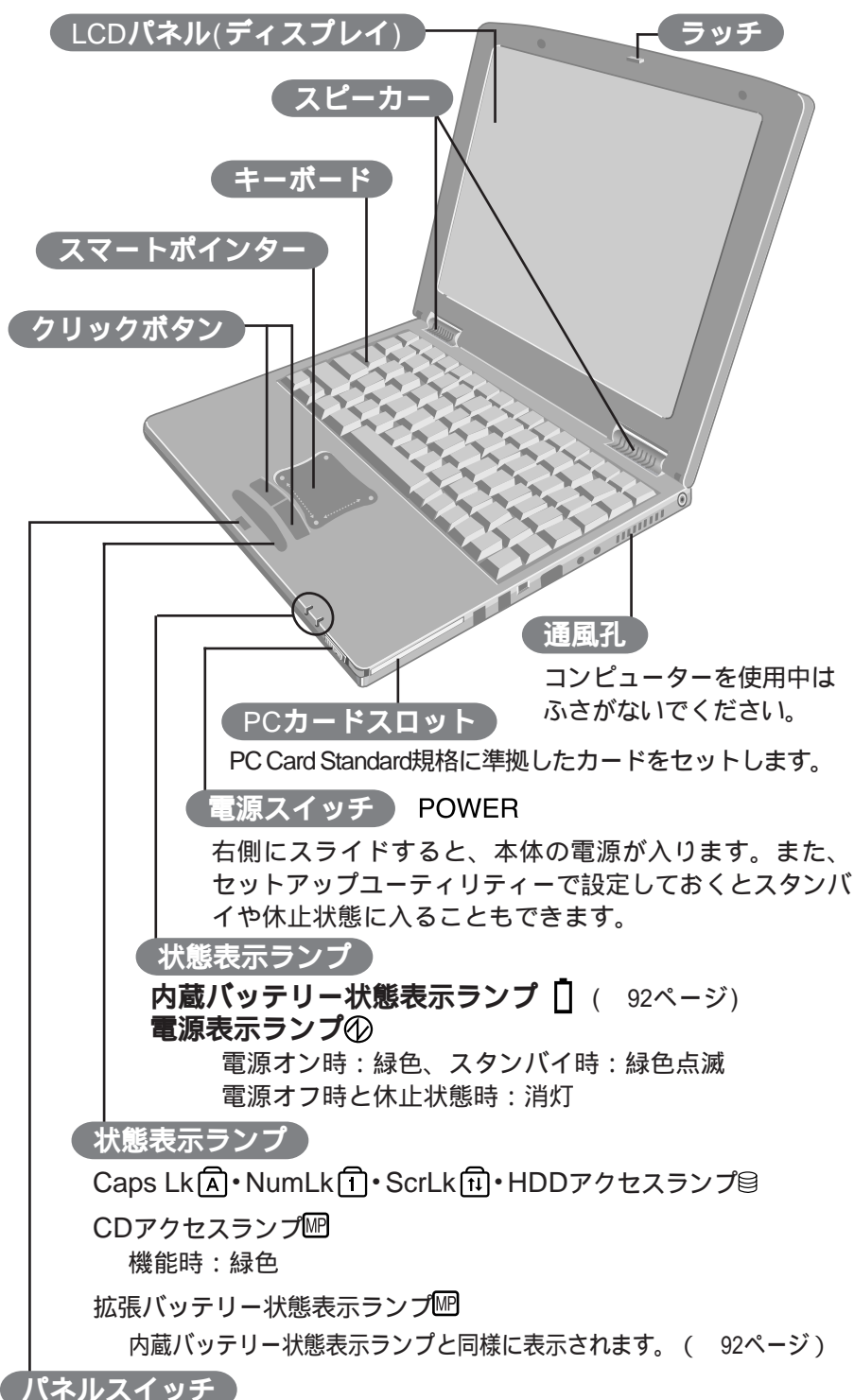
前面

通風孔
コンピューターを使用中はふさがないでください。

PCカードスロット
PC Card Standard規格に準拠したカードをセットします。

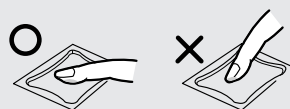
電源スイッチ POWER
右側にスライドすると、本体の電源が入ります。また、セットアップユーティリティーで設定しておくとスタンバイや休止状態に入ることもできます。

状態表示ランプ
内蔵バッテリー状態表示ランプ (→92ページ)
電源表示ランプ
電源オン時：緑色、スタンバイ時：緑色点滅
電源オフ時と休止状態時：消灯

状態表示ランプ
Caps Lk Ⓐ・NumLk ①・ScrLk ⇅・HDDアクセスランプ
CDアクセスランプ MP
機能時：緑色
拡張バッテリー状態表示ランプ MP
内蔵バッテリー状態表示ランプと同様に表示されます。（→92ページ）

パネルスイッチ
LCDパネルを閉じLCD上部のラッチがロック状態になると、セットアップユーティリティーの「パネルスイッチ」の設定に従い「LCDオフ」、「スタンバイ」（サスペンド）または「休止状態」（ハイバーネーション）になります。

◀ ディスプレイの画面領域・色数の変更のしかた
→109ページ

◀ スピーカーの音量調整のしかた
→119ページ

◀ スマートポインターは指先で操作してください。ペンやつめなどでは反応しません。→18、20ページ

◀ クリックボタンの操作については取扱説明書『セットアップ編』をご覧ください。

お願い

電源スイッチを４秒以上スライドしたままにしないでください。４秒以上スライドし続けると、ピーという連続音が鳴り、スタンバイや休止状態に入らず自動的に電源が切れます。ただし、Fn + F4 でスピーカーをオフに設定している場合、音は鳴りません。→119ページ

◀ MPはCD-ROMドライブ装着時にはCDアクセスランプとして、拡張バッテリー装着時には拡張バッテリー状態表示ランプとして機能します。

◀ 操作を再開するとき
- パネルスイッチを「LCDオフ」にしているときは、LCDパネルを開ける。
  「PowerPanel」のビデオオフ機能が働いているときは、Ctrl を押してください。→84ページ
- パネルスイッチを「サスペンド」や「ハイバーネーション」にしているときは、LCDパネルを開け、電源スイッチをスライドする。

右側面

電源端子

付属のACアダプターのDCプラグを接続します。

マイク入力端子

市販のミニジャックタイプのコンデンサー型モノラルマイクロホンを接続します。

オーディオ出力端子

市販のオーディオ用ヘッドホン、スピーカーなどを接続します。

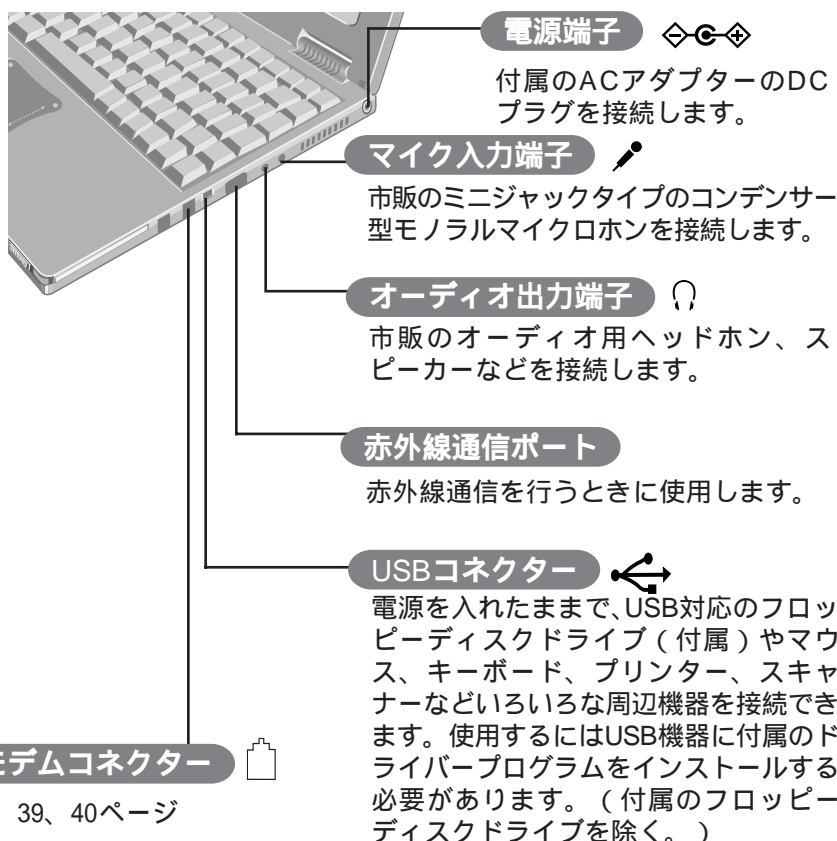
赤外線通信ポート

赤外線通信を行うときに使用します。

USBコネクター

電源を入れたままで、USB対応のフロッピーディスクドライブ（付属）やマウス、キーボード、プリンター、スキャナーなどいろいろな周辺機器を接続できます。使用するにはUSB機器に付属のドライバープログラムをインストールする必要があります。（付属のフロッピーディスクドライブを除く。）

モデムコネクター

→39、40ページ

◀ 音量調整のしかた
→119ページ

お願い

マイク入力端子では、コンデンサー型モノラルマイクロホンの2極プラグタイプまたは3極プラグタイプを使用してください。それ以外を使用すると、音の入力ができなかったり、故障の原因になったりする場合があります。

お願い

USB機器には、スタンバイや休止状態機能に対応していないものがあります。対応していない機器をご使用の場合は、スタンバイや休止状態機能を使用する前に、その機器を取り外してください。
また、設定、接続のしかたについては、USB機器に付属の説明書をご覧ください。

マイクの音量調整について

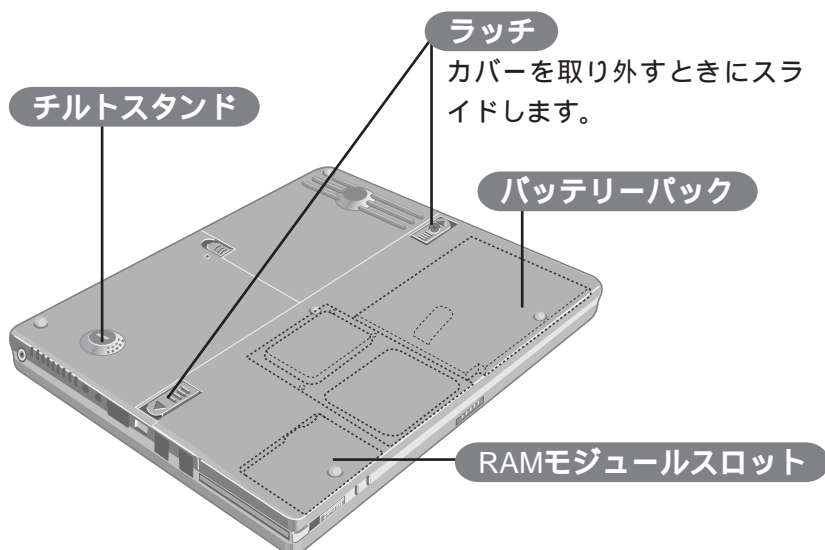
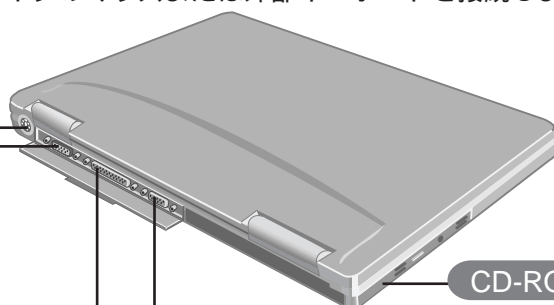
＜録音時の入力レベルが小さい場合＞

①「マスタ音量」画面*で[オプション]→[プロパティ]をクリックする。
②「音量の調整」で「録音」を選び、「表示するコントロール」で[マイク]にチェックマークを付ける。
③[OK]をクリックした後、音量を調整する。
それでも入力レベルが小さい場合は、以下の操作を行ってください。
④[オプション]をクリックし、[トーン調整]にチェックマークを付ける。
⑤[トーン]をクリックし、「2 マイク　ブースト」の左側の□にチェックマークを付ける。
⑥[閉じる]をクリックし、「マイクの詳細設定」の画面を終了する。

＜ハウリングについて＞

マイクをスピーカーに近づけた場合など、ハウリングを起こすことがあります。その場合は、以下のようにしてください。
①マイクをスピーカーから離してください。
②「マスタ音量」画面で[オプション]→[プロパティ]をクリックし、「音量の調整」で「再生」を選び、「表示するコントロール」で「マイク」にチェックマークを付けた後、[OK]をクリックして、「マイク」をミュートにするようにしてください。
③マイクとスピーカーの音量を適度に調節してください。

*「マスタ音量」画面を開くには
タスクバーの「音量」アイコンをダブルクリックしてください。タスクバーに「音量」アイコンが表示されていないときは、「コントロールパネル」の「マルチメディア」で、「音量の調節をタスクバーに表示する」の左側の□にチェックマークを付けてください。

各部の名称と働き

底面

背面

マウスとスマートポインターを併用する場合

マウスまたはドライバーの種類によっては、マウスやスマートポインターが正しく動作しない場合があります。

インテリマウス™とスマートポインターを併用する場合

インテリマウスのホイールスクロール機能は使用できません。ホイールスクロール機能を使用する場合はセットアップユーティリティーの「メイン」メニューで「スマートポインター」を[無効]に設定してください。ただしスマートポインターは使用できなくなります。

使いかた

スマートポインターのクイックラウンチャー機能やスタンバイ・休止状態機能など、本機を操作するうえで便利な機能について説明しています。また、通信のしかた、省電力機能やバッテリーパックの使いかた、周辺機器の拡張のしかたなどについて説明しています。

もくじ

便利

CD-ROMドライブについて 16
（ディスク取り扱い上のお願い・CD-ROMドライブ取り扱い上のお願い・CD-ROMドライブを使う）
スマートポインターの操作 18
（スマートポインターのキープスクロール機能・スマートポインターとインテリマウス™）
クイックラウンチャー機能 20
（スマートポインター連携・ラウンチャー）
「スタンバイ」と「休止状態」機能 36
（「スタンバイ」や「休止状態」機能を使って終了する・操作を再開する）

コミュニケーション

通信を行う前に 38
通信機器を準備する 39
（電話回線に接続する・モデムのプロパティを設定する）
プロバイダーに加入し、通信の設定をする（初回のみ） 42
（準備するもの・Hi-HOに加入し、通信の設定をする・正式な会員証が届いたら・設定内容を変更するとき）
新しく接続先を設定する 47
インターネットに接続する 50
（「Internet Explorer」を起動する・「Internet Explorer」を終了する・雑誌で見つけたホームページを見る・ホームページの見かた・見たいページを探す・気に入ったページを登録する）
ホームページを幅広く閲覧する（ウェブナビゲーター） . 55
（ウェブナビゲーターを使用する前に・ウェブナビゲーターを起動する・ウェブナビゲーターの画面を見る・「Internet Explorer」で詳しく見る・「おまかせ」「お知らせ」のホームページを残しておく・お気に入りのホームページを集める・表示するジャンルやホームページを変更する（設定）・ホームページの更新・表示スピードや更新時の条件を変更する（詳細設定））
電子メールを送受信する 63
（電子メールを送信する・アドレス帳を利用する・メールにファイルを添付して送る・電子メールを受信する・メールの自動送受信機能を使う）
イラストメールを送信する 71
（イラストメールを送信する・自分専用のテキストイラスト集を作る）
赤外線通信をする 80

モバイル

省電力機能を使う 83
（省電力機能のコツ・PowerPanel™で省電力設定をする）
バッテリーパックを使う 87
（取り扱い上のお願い・使用温度についての留意点・取り付けかた／取り外しかた・充電のしかた・バッテリー状態表示ランプについて・バッテリー残量の確認・バッテリー容量を正確に表示させるために）

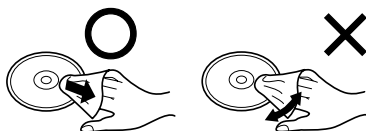
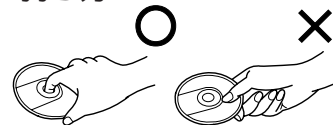
拡張

周辺機器を拡張する 97
（CD-ROMドライブの取り付け/取り外し・USB機器（フロッピーディスクドライブなど）を使う・デュアルディスプレイモードを使う・RAMモジュールを使う・PCカードを使う）

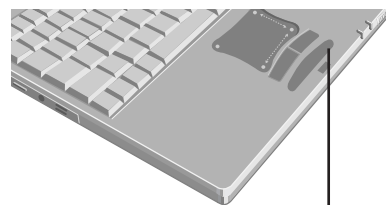
CD-ROMドライブについて

ディスク取り扱い上のお願い

- 汚したり、傷つけたりしないでください。
- ゴミやほこりの多い場所、温度、湿度の高い場所、直射日光の当たる場所に置かないでください。
- 表面に字を書いたり、紙を貼ったりしないでください。
- 落としたり、曲げたり、重い物をのせないでください。
- 変形したディスク（曲がったり、円形でないもの）は使用しないでください。
- 温度差の激しい場所に置かないでください。（結露が生じます。）
- 急に暖かい室内に持ち込んだときなどに露がついたら、乾いた柔らかい布でふいてください。
- ディスクの汚れや損傷の原因になりますので、再生面（タイトルのない面）に触れないでください。
- 2～3か月に1回程度、ディスクのクリーニングをしてください。クリーニングには、CDディスククリーナー*を使用してください。

＜汚れをとるには＞
柔らかい乾いた布で、中心から外の方向へ軽くふきます。

＊ 品番： LF-K200DCJ
お問い合わせ先
P³カスタマーサポートセンター
電話：03-5821-3180
ファクス：03-5821-3140
受付日および時間：
10:00～12:00、12:45～17:00
土日・祝日は除く

CD-ROMドライブ取り扱い上のお願い

- トレイにディスク以外のものを載せないでください。
- トレイを開けたままで放置したり、レンズ部分に手を触れたりしないでください。
- トレイが開いているときに、トレイに無理な力をかけないでください。
- トレイを閉じた後、CDアクセスランプ（MP）が消えるまで、CD-ROMドライブにアクセスしないでください。
- CDアクセスランプ（MP）点灯中は、次のことに注意してください。
  - ・トレイを引き出さない。（→次ページ）
  - ・コンピューターを動かさない。
  - ・電源を切ったり、スタンバイや休止状態にしない。
  - ・ディスク取り出しボタン（→次ページ）に触れない。
- 油煙やたばこの煙の多いところでは使用しないでください。
- CD-ROMドライブのすき間部分にゼムクリップなどの異物が入らないようにしてください。
- CD-ROMドライブのクリーニングにはCDレンズクリーナー(クリーニング液を使用するものを除く)を使用してください。

CDアクセスランプ（MP）

自動実行のディスクの場合

・スタンバイや休止状態からのリジューム後、自動実行のディスクを挿入しても実行されない場合は、15秒以上時間をあけてディスクを入れ直してください。正しく実行されます。
・ディスクの状態によっては、ファイルへのアクセス中に自動実行が開始されることがあります。

動画を再生するようなディスク（ビデオCDやMPEGデータを再生するCDなど）

なめらかに再生できないことがあります。あらかじめご了承ください。

使いかた 便利

CD-ROMドライブを使う

1 本体の電源が入っていることを確認し、ディスク取り出しボタンを軽く押す。

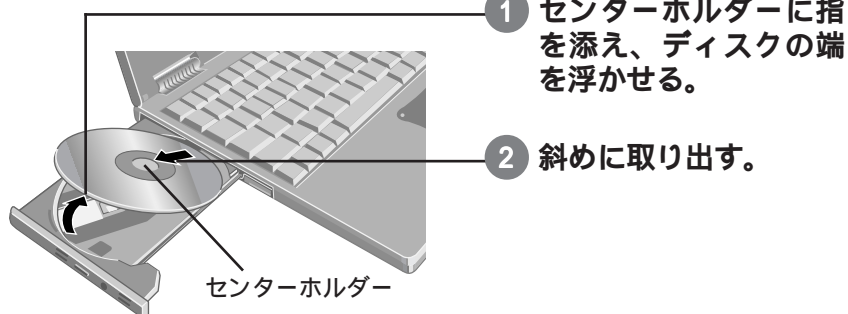
2 手でゆっくり引き出す。

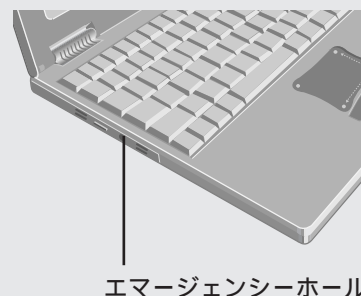
3 ディスクをセットする/取り出す。
<セットする場合>

<取り出す場合>

4 手でトレイを閉じる。

お願い

CDアクセスランプ（MP）点灯中は、トレイを開けないでください。
アプリケーションソフトが入ったディスクの場合は、アプリケーションソフトを起動した後、そのアプリケーションソフトを終了するまでトレイを開けないでください。

トレイが引き出せないときは

トレイが引き出せないときや、電源を入れないでディスクを取り出したいときは、ゼムクリップを引き伸ばしたものなどをエマージェンシーホールに差し込んでトレイを引き出してください。

CD-ROMドライブ速度（→115ページ）を「中速」に設定していると

アプリケーションソフトによっては正しく動作しないことがあります。この場合、「高速」に設定してから実行してください。それでも正しく動作しない場合は、他のアプリケーションソフトを終了してください。

スマートポインターの操作

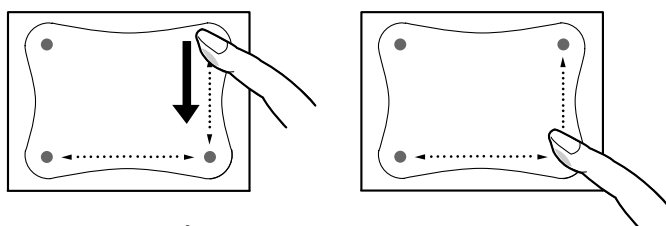
ここでは、スマートポインターのキープスクロール機能やインテリマウスと比較した操作の違いについて説明します。
タップやダブルタップなどスマートポインターの基本的な操作については、取扱説明書『セットアップ編』をご覧ください。

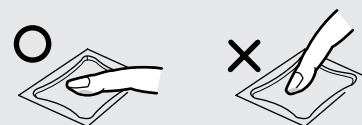
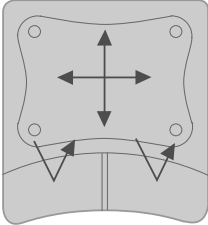
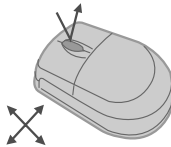
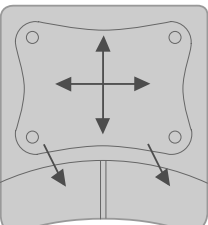
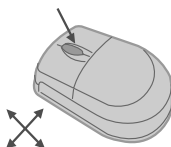
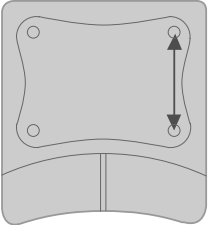
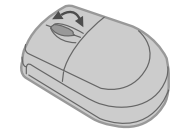
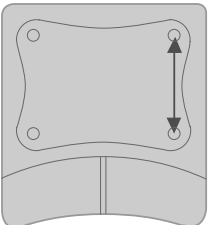
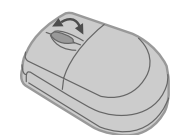
スマートポインターのキープスクロール機能

キープスクロール機能とは、スマートポインターのコーナーの●を押し続けることで、画面をスクロールさせる機能です。

・スマートポインター右側の縦矢印を、上（下）方向にこすった後、そのまま右上（右下）コーナーを押し続けると、画面がスクロールし続けます。
・スマートポインター下側の横矢印を、左（右）方向にこすった後、そのまま左下（右下）コーナーを押し続けると、画面がスクロールし続けます。

キープスクロール機能使用時のコツ

指の腹を使って、ゆっくりと矢印部をこすり、コーナーの●で指を止める。

（下方向へのキープスクロール例）

◀指を立てた状態で操作すると、うまくスクロールすることができません。（ペンやつめなどでは反応しません。）

◀コーナーの●以外の部分で指を止めると、スクロールが止まってしまいます。
◀早くこすりすぎると、コーナーの●で指を止めてもスクロールが止まってしまいます。

スマートポインターとインテリマウス™

ここでは、スマートポインターとインテリマウスのスクロール操作を比較して説明します。各機能の動作はアプリケーションによって異なることがあります。

機能	デバイスの操作	
	スマートポインター	インテリマウス
スクロール 文書を縦方向または横方向にスクロールします。		ホイールを動かす

◀文中の「原点」とは、ボタンやホイールを押した位置のことを言います。

機能	デバイスの操作	
	スマートポインター	インテリマウス
オートスクロール 文書を自動的にスクロールします。 スマートポインターから手を離しても、カーソルの形状が示す方向にスクロールします。	②スクロールしたい方向に操作面をなぞって手を離す ①２つのボタンを同時にクリックした後	①ホイールをクリックした後 ②マウスを動かす
パン 文書をさまざまな方向にスクロールします。ボタンまたはホイールを押している間、スクロールが続きます。	②操作面をなぞる ①２つのボタンを押しながら	①ホイールを押しながら ②マウスを動かす
ズーム 文書の表示を拡大/縮小します。	Ctrl＋	Ctrl＋
データズーム 文書を表示したり隠したりなど、エクスプローラーの操作を実行します。	Shift＋	Shift＋

◀オートスクロール機能

- 長い文書を読むときやデータを拾い読みするときなどに便利です。
- スクロールの速度は、カーソルを原点から遠くへ移動させるほど速くなります。
- オートスクロール機能を解除するには操作面を1回タップしてください。

◀パン機能

スクロールの速度は、カーソルを原点から遠くへ移動させるほど速くなります。

クイックラウンチャー機能

クイックラウンチャー機能を使用すると、スマートポインターを使って、より簡単にコンピューターの操作を行うことができます。
クイックラウンチャー機能には、大きく分けて次の3つがあります。

＜スマートポインター連携1＞

スマートポインターのコーナーの●をダブルタップするだけで、以下のことを行うことができます。

- Outlook Expressの起動
- Internet Explorerの起動
- ウィンドウを閉じる、最大化するなど設定されているウィンドウ操作
- Enter、Tab、Esc キーの押下操作
- 登録しておいたアプリケーションの起動

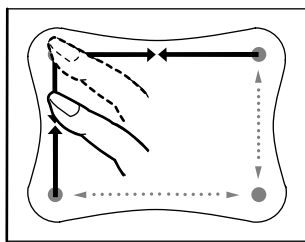
◀アクションポイント機能
詳しくは→21ページ

＜スマートポインター連携2＞

スマートポインターの左上コーナーの●から右にこする、下にこする、また、左下コーナーの●から上にこする、右上コーナーの●から左にこするなどといった動作で、スマートポインター連携１と同様にウィンドウ操作を行ったり、登録しておいたアプリケーションを起動したりすることができます。

コーナーの●に指の腹を置き、ゆっくりと中央部まで水平または垂直にこすってください。

◀アクションライン機能
詳しくは→22ページ

◀力を入れすぎたり、早くこすりすぎたりすると、正しく動作しない場合があります。

＜ラウンチャー＞

ラウンチャー画面から操作を選ぶだけで、ウィンドウを閉じる、最大化するなど登録されているウィンドウ操作を行ったり、Enter、Tab、Esc キーの押下操作を行ったり、またアプリケーションを起動したりすることもできます。
ラウンチャー画面には、最大24個の操作を登録できます。いろいろな操作を登録しておきたいときに便利です。

◀詳しくは→29ページ
アプリケーションによっては、登録されているウィンドウ操作が動作しないものもあります。

クイックラウンチャー機能が動作しない場合

タスクバーにクイックラウンチャーアイコン が表示されていない場合は上記の3つのクイックラウンチャー機能は動作しません。
[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックラウンチャー]をクリックして、クイックラウンチャーアイコンが表示されたことを確認してください。

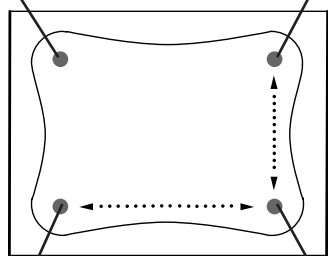
スマートポインター連携

スマートポインター連携1 （アクションポイント機能）

スマートポインターのコーナーにある4つの●をダブルタップするだけで、登録されているアプリケーションを起動したり、ウィンドウ操作を行ったり、Enter 、Tab 、Esc キーの押下操作を行ったりすることができます。

（例）工場出荷時

ここをダブルタップすると、Outlook Expressが起動します。（→63ページ）

ここをダブルタップするとアクティブウィンドウが最大化されます。または元の大きさに戻ります。

ここをダブルタップすると、Internet Explorerが起動します。（→50ページ）

ここをダブルタップするとアクティブウィンドウが閉じられます。どのウィンドウもアクティブでない場合は、「Windowsの終了」画面が開きます。

スマートポインター連携1、2を使用するには

- タスクバーにクイックラウンチャーアイコンが表示されていることを確認してください。→前ページ
- ラウンチャーを起動しているときには、この機能は働きません。ラウンチャーを終了させてください。→31ページ

◀スマートポインター上の4コーナーの各●をダブルタップしたときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携1」で変更することができます。→23ページ

各コーナーごとにスマートポインター連携1、2の機能を一時的に中止したい場合

タスクバーのクイックラウンチャーアイコンをクリックし、プルダウンメニューから該当するメニューを選んでチェックマークを付けてください。

パッドボタンを使わない ： 4コーナーの動作を中止します。
左上を使わない ：左上コーナーの●の動作を中止します。
右上を使わない ：右上コーナーの●の動作を中止します。
左下を使わない ：左下コーナーの●の動作を中止します。
右下を使わない ：右下コーナーの●の動作を中止します。

スマートポインター連携1と2を中止したコーナーは、通常の基本操作領域（クリックやスクロールなどを行う領域）として機能します。（→18ページ）

クイックラウンチャー機能

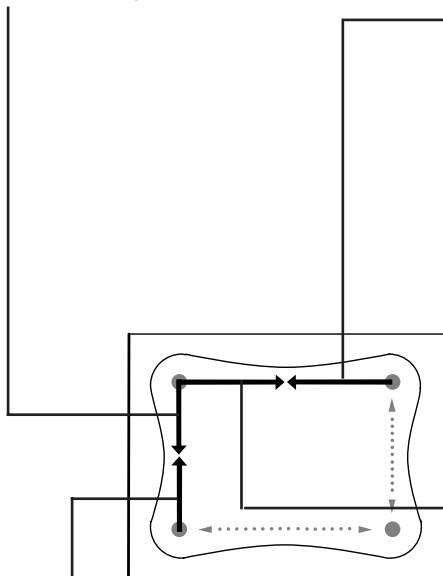
スマートポインター連携2（アクションライン機能）

スマートポインターの左上コーナーの●から右にこする、下にこする、また、左下コーナーの●から上にこする、右上コーナーの●から左にこするなどといった動作で、スマートポインター連携１と同様にウィンドウ操作を行ったり、登録しておいたアプリケーションを起動したりすることができます。

（例）工場出荷時

左上コーナーから下方向に中央部までこすると、カーソル位置のショートカットメニュー（右ボタンをクリックしたときに表示されるメニュー）が表示されます。*1

右上コーナーから左方向に中央部までこすると、開かれているすべてのウィンドウが最小化されます。（全最小化操作）
開かれているウィンドウがない場合は、上記の全最小化操作で最小化されたウィンドウを元の大きさに戻します。*2

左上コーナーから右方向に中央部までこすると、アクティブウィンドウのメニューが表示されます。
どのウィンドウもアクティブでない状態では、Windowsのスタートメニューが表示されます。*3

左下コーナーから上方向に中央部までこすると、Windowsのスタートメニューが表示されます。

スマートポインター連携1、2を使用するには→前ページ

◀3コーナーの●をこすったときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携2」で変更することができます。→次ページ

*1 指の腹で押さえながらゆっくりとこすってください。軽く速くこすると、カーソル位置がずれて、希望するショートカットメニューが表示されないことがあります。

*2 他の方法（タイトルバー上の▭をクリックするなど）で最小化されたウィンドウは、この操作では元に戻すことはできません。また、全最小化操作を続けて行った場合は、最後の操作で最小化されたウィンドウのみを元に戻します。

*3 アプリケーションによっては、メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウでは、動作しないことがあります。

各コーナーごとにスマートポインター連携1、2の機能を一時的に中止したい場合
→前ページ

環境設定（スマートポインター連携1、2）

スマートポインター上の4コーナーの各●をダブルタップしたときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携1」で変更することができます。また、3コーナーの●をこすったときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携2」で変更することができます。

1 「環境設定」プログラムを起動する。

クイックラウンチャーアイコンを ダブルクリック

2 「スマートポインター連携1」タブまたは「スマートポインター連携2」タブをクリックする。

画面上の各◎または⇨をクリックすると、選択ボックスと登録ボックスが切り換わります。

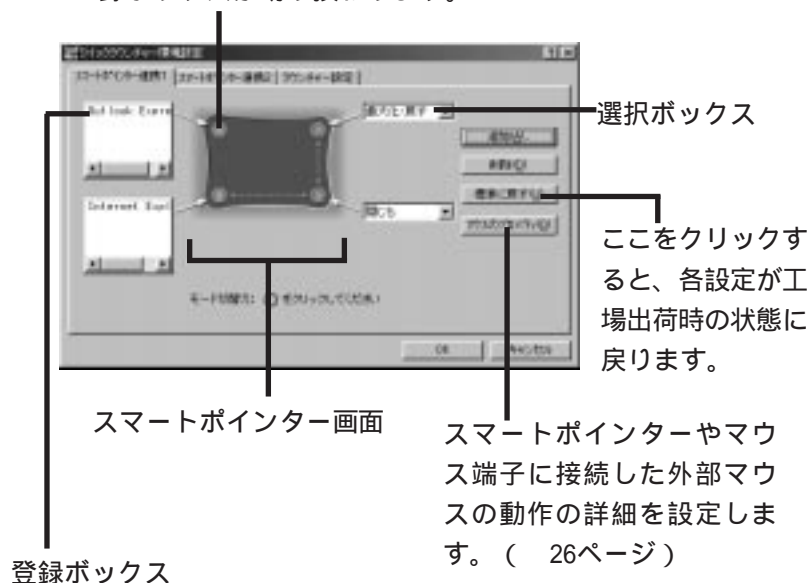
選択ボックス

ここをクリックすると、各設定が工場出荷時の状態に戻ります。

スマートポインター画面

スマートポインターやマウス端子に接続した外部マウスの動作の詳細を設定します。（→26ページ）

登録ボックス

◀クイックラウンチャーアイコンをクリックし、[環境設定] をクリックしても起動できます。

◀選択ボックス
画面上の◎または⇨が緑色の場合（選択ボックス表示時）は、
すでに登録されている項目（ウィンドウの操作・キー押下操作・ランチャー起動）の中から、ひとつを選んで設定することができます。

◀登録ボックス
画面上の◎または⇨が黄色の場合（登録ボックス表示時）は、
ひとつの◎または⇨に対して複数のアプリケーションを任意に登録できます。一連の操作に必要なアプリケーションをまとめて登録しておくと便利です。

3 登録ボックスにアプリケーションを登録・削除する。
または、選択ボックスからひとつの操作を選んで設定・解除する。

◀以降の画面は、右上コーナーの●を例にしています。

＜登録ボックスにアプリケーションを登録する場合＞

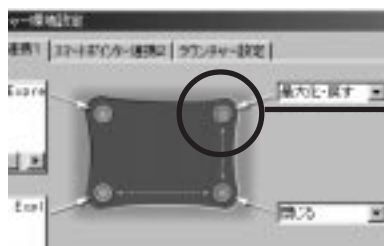
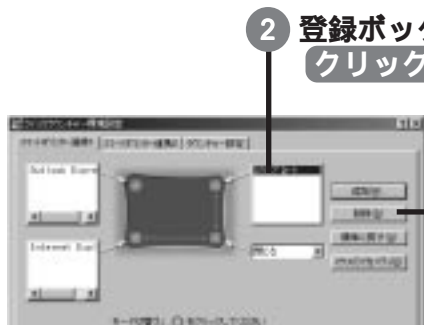
2 登録したいアプリケーションのプログラムアイコンを、登録ボックスにドラッグ＆ドロップする。

◀ドラッグ＆ドロップで登録する方法と[追加]ボタンで登録する方法の2とおりがあります。（→下記）

登録できるファイル
ショートカットファイルまたは実行ファイル（拡張子：EXE）です。
ただし、上記形式であっても、ファイルによっては登録できないものもあります。

[追加]ボタンで登録する方法

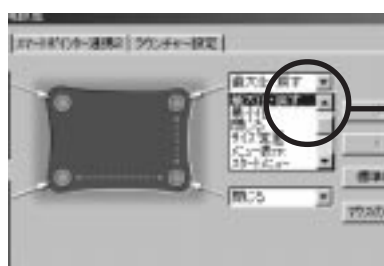
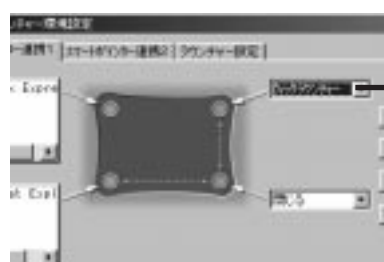
登録ボックスの項目のいずれかをクリックして反転表示させてから、

<登録ボックスからアプリケーションソフトを削除する場合>

1 スマートポインター画面上の◎または⇨を クリック （◎または⇨を黄色にする）

2 登録ボックスの削除したい項目を クリック

3 クリック

◀選んだ項目が、反転表示されます。

<選択ボックスから操作を選択する場合>

1 スマートポインター画面上の◎または⇨を クリック （◎または⇨を緑色にする）

2 選択ボックスの右端の▼を クリック

3 項目の中から設定したい操作を選ぶ。

選んだ操作の動作について

- どのウィンドウもアクティブでない状態で「メニュー表示」機能を動作させると、「スタート」メニューが開きます。
- アプリケーションによっては、メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウに対して「メニュー表示」機能を動作させた場合、先頭のメニューに移動しないことがあります。
- どのウィンドウもアクティブでない状態で「閉じる」機能を動作させると、「Windowsの終了」画面が開きます。
- 「サイズ変更」機能を実行後に、アクティブウィンドウの選択が解除される場合があります。

◀「なし」を選択すると、そのコーナー部は指で触れても反応しなくなります。キー入力時に右上や左上コーナーを「なし」に設定しておくと便利です。ただし、その際には、タスクバーのクイックラウンチャーアイコンのメニューで「パッドボタンを使わない」や「左上を使わない」「右上を使わない」にチェックマークを付けないでください。（→21ページ）

4 設定内容を確認して、[OK]をクリックする。

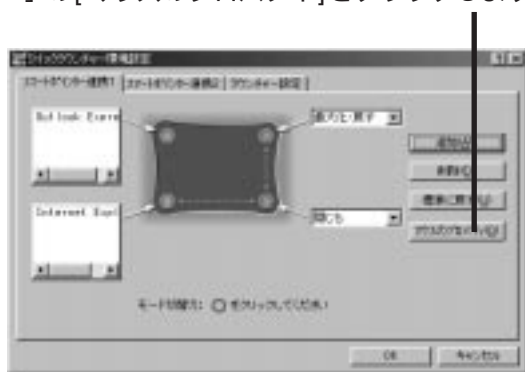
◀設定内容を保存して、環境設定を終わります。
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、環境設定を終わります。

マウスのプロパティ

マウスのプロパティではスマートポインターや別売りのマウスの動作の詳細を設定できます。
ここでは、マウスのプロパティの主な設定について説明します。

1 「マウスのプロパティ」画面を開く。

「環境設定」プログラムの「スマートポインター連携1」または「スマートポインター連携2」の[マウスのプロパティ]をクリックします。

「マウスのプロパティ」の開きかた
下記の方法でも「マウスのプロパティ」画面を開くことができます。
- タスクバーのAlps Pointアイコンをダブルクリックする。
- 「コントロールパネル」の[マウス]をダブルクリックする。

2 各設定を行う。

＜ボタン設定画面＞

左ボタンを押したときの機能を設定します。

ボタンまたは操作面をダブルクリックしたときの速度を調節できます。（ラウンチャー使用時のダブルタップ速度もここで調節されます。）

右ボタンを押したときの機能を設定します。

（→次ページ）

左ボタンと右ボタンを同時に押したときの機能を設定します。

「ボタン」設定画面のすべての設定（オプション設定の内容も含む）を標準の状態（＝工場出荷状態）に戻します。

◀スクロール機能（オートスクロール機能を含む）は、アプリケーションによって動作しない場合があります。
また、すばやく繰り返し動作させると、反応が遅くなる場合があります。

各設定画面の「デフォルト」ボタン
各画面ごとに、設定を標準の状態（＝工場出荷状態）に戻します。

<ボタンのオプション設定画面>

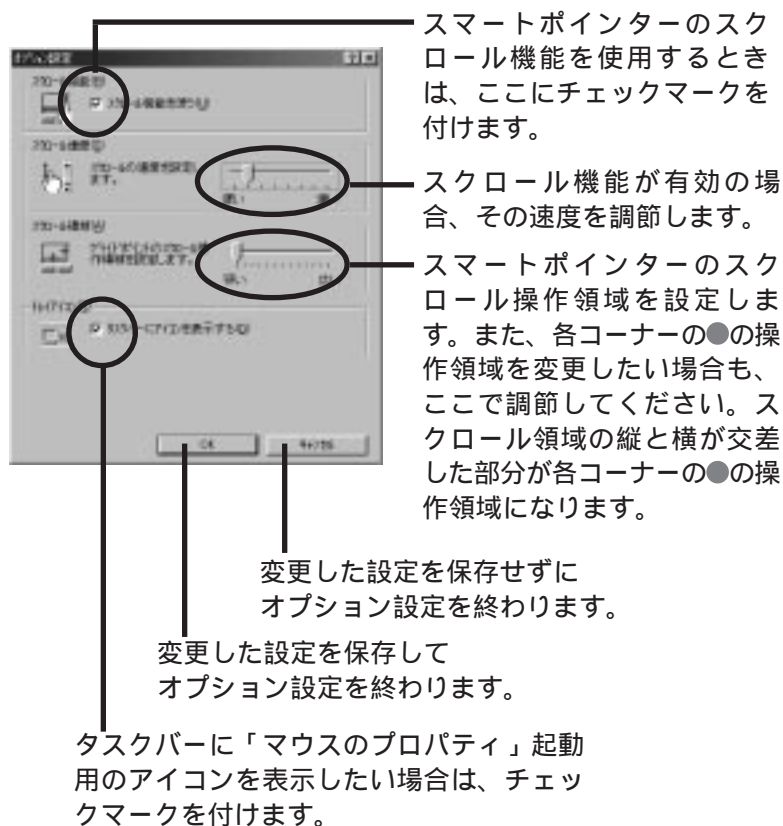
スマートポインターのスクロール機能を使用するときは、ここにチェックマークを付けます。

スクロール機能が有効の場合、その速度を調節します。

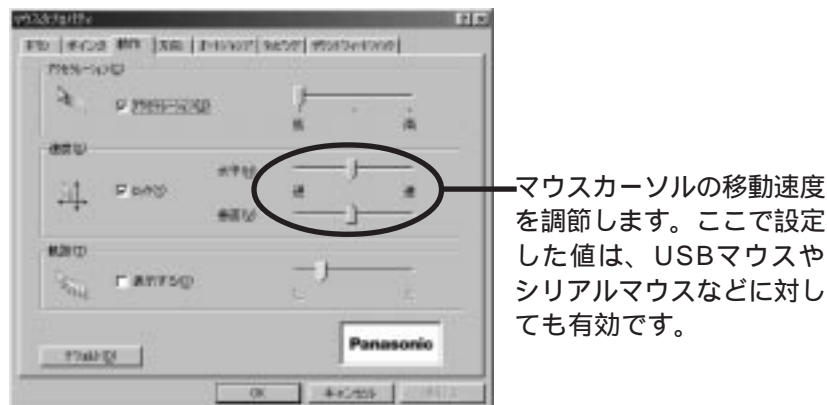
スマートポインターのスクロール操作領域を設定します。また、各コーナーの●の操作領域を変更したい場合も、ここで調節してください。スクロール領域の縦と横が交差した部分が各コーナーの●の操作領域になります。

変更した設定を保存せずにオプション設定を終わります。

変更した設定を保存してオプション設定を終わります。

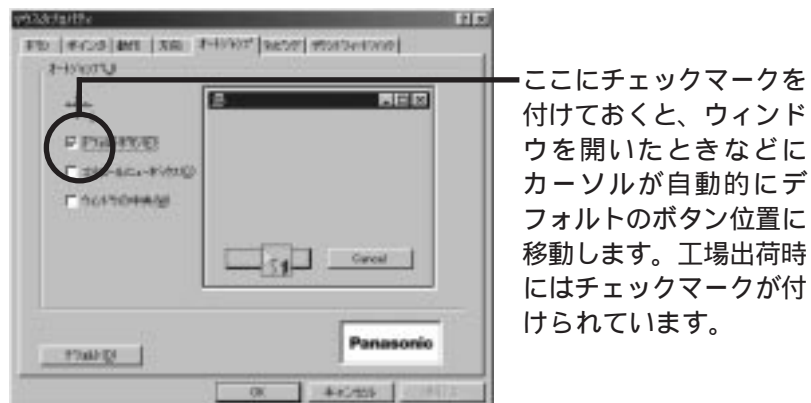
タスクバーに「マウスのプロパティ」起動用のアイコンを表示したい場合は、チェックマークを付けます。

◀「マウスのプロパティ」の「ボタン」設定画面で、[オプション]ボタンをクリックすると、左記の画面が表示されます。

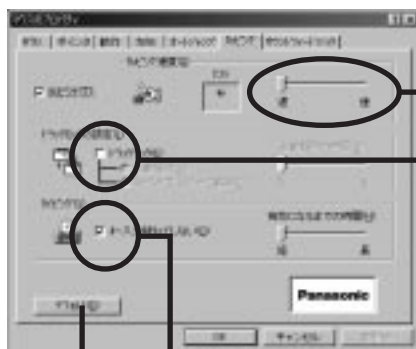
<動作設定画面>

マウスカーソルの移動速度を調節します。ここで設定した値は、USBマウスやシリアルマウスなどに対しても有効です。

◀「マウスのプロパティ」の[動作]タブをクリックすると、左記の画面が表示されます。

◀マウスによっては、移動速度を調節しても、有効にならない場合があります。

<オートジャンプ設定画面>

ここにチェックマークを付けておくと、ウィンドウを開いたときなどにカーソルが自動的にデフォルトのボタン位置に移動します。工場出荷時にはチェックマークが付けられています。

◀「マウスのプロパティ」の[オートジャンプ]タブをクリックすると、左記の画面が表示されます。

<タッピング設定画面>

操作面をタップする速度を調節できます。

ここにチェックマークを付けると、タップ操作でドラッグした後、手を離してもドラッグ状態を保持するように設定できます。また、保持状態の解除方法を「自動解除」と「タッピング又はクリックで解除」から選ぶことができます。「自動解除」を選んだ場合は、その時間を設定できます。

ここにチェックマークを付けると、キー入力時はスマートポインターをタップしても反応しません。「有効になるまでの時間」で、キー入力後、タップ機能を有効な状態に戻すまでの時間を「短⟷長」の間で設定します。工場出荷時には「短」に設定されています。必要に応じて調節し直してください。

「タッピング」設定画面のすべての設定を標準の状態に戻します。

◀「マウスのプロパティ」の[タッピング]タブをクリックすると、左記の画面が表示されます。

お願い

「タッピング又はクリックで解除」に設定している場合は、ドラッグロック中には、スタンバイや休止状態に入らないでください。リジューム後にディスプレイに何も表示されなくなります。その場合は操作面をタップまたはボタンをクリックしてください。

3 設定を終了する。

[適用]をクリックすると、変更内容を保存します。マウスのプロパティ設定は終了しません。

[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、マウスのプロパティ設定を終わります。

[OK]をクリックすると、変更内容を保存して、マウスのプロパティ設定を終わります。

◀終了操作は、「ボタン」「タッピング」などの各設定画面から行うことができます。
（左記画面は一例です。）

ラウンチャー

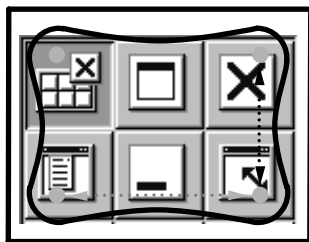
ラウンチャー画面（下記）から操作を選ぶだけで、登録されているウィンドウ操作を行ったり、Enter、Esc、Tab キーの押下操作を行ったりすることができます。また、あらかじめ登録しておいたアプリケーションを起動したりすることもできます。
ラウンチャー画面には、最大24個の操作を登録できます。いろいろな操作を登録しておきたいときに便利です。
ラウンチャーには、次の２種類の操作モードがあります。

◀各操作モードは環境設定（ラウンチャー設定）（→32ページ）で切り換えることができます。工場出荷時には、パッド操作モードに設定されています。

＜パッド操作モード＞

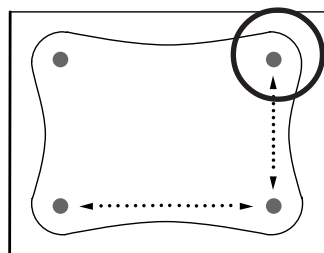
パッド操作モード時には、スマートポインターは6区画または9区画に分けて管理されています。スマートポインターの各区画は、ラウンチャー画面の各区画に対応しています。スマートポインターの各区画をダブルタップすると、その区画に対応したラウンチャー画面の区画に表示されている操作を行うことができます。

◀何区画に分けるかは、環境設定（ラウンチャー設定）（→32ページ）で切り換えることができます。工場出荷時には、6区画に設定されています。

スマートポインターとラウンチャー画面の対応図（一例）

＜マウス操作モード＞

マウス操作モード時には、スマートポインターは区画管理されていません。通常どおりスマートポインターやキーボードを使ってラウンチャー画面のアイコンの位置にカーソルを移動してからダブルクリックすると、登録されている操作を行うことができます。

1 スマートポインター連携1でスマートポインター上の右上の●をダブルタップすると、ラウンチャーが起動するように設定しておく。（→23ページ）

2 ラウンチャーを起動する。

スマートポインターの右上コーナーの●をダブルタップする。

ラウンチャーを起動するときは
タスクバーにクイックラウンチャーアイコンが表示されていることを確認してください。（→20ページ）

ラウンチャー起動時は

スマートポインター連携1や2の機能は働きません。（→21ページ）

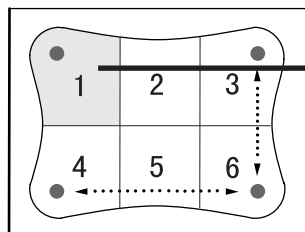
使いかた

便利

クイックラウンチャー機能

3 登録されている操作を実行する。

＜パッド操作モード時＞

スマートポインター

スマートポインターの区画１をダブルタップする。

ラウンチャー画面の区画１に表示されている操作が実行されます。操作実行後、ラウンチャー画面は自動的に閉じられます。

ラウンチャー画面

◀パッド操作モード時には、カーソルをラウンチャー画面の外に移動できません。また、ラウンチャー画面上でのカーソルの位置は、操作の対象と一致しません。例えば、区画１のアイコンが選ばれていても、スマートポインター上の区画６をダブルタップすると、区画６に表示されている操作が実行されます。

ダブルタップ時のお願い

・２回目のタップ時にも、すばやく手を離してください。操作面に触れたままにするとうまく動作しません。

・スマートポインター上の各区画の中央部をタップしてください。各区画の境界部をタップするとうまく動作しないことがあります。

ラウンチャー画面のスクロール

スマートポインター上の縦矢印をこすると、ラウンチャー画面をスクロールさせることができます。また、カーソルキーを使ってスクロールすることもできます。

＜マウス操作モード時＞

ラウンチャー画面

ここを選んで（紫色表示させて）ダブルクリック

選ばれたアイコンの操作が実行されます。操作実行後、ラウンチャー画面は自動的に閉じられます。

◀選択したいアイコンをクリックすると、紫色表示されます。また、カーソルキーを使ってアイコンを選ぶ（紫色表示させる）こともできます。

ラウンチャー画面のサイズ

必要に応じて変更できます。

画面のサイズにより、縦スクロールバーが表示されます。また、その際に、アイコンが半分隠れて表示される場合がありますが、動作には問題ありません。

4 ラウンチャーを終了する。

＜パッド操作モード時＞

ラウンチャー画面にを表示させた状態で、そのアイコンに対応したスマートポインターの区画をダブルタップする。

＜マウス操作モード時＞

ラウンチャー画面のを選んで（紫色表示させて）、ダブルクリックする。

◀パッド操作モード時は、右ボタンをクリックしてラウンチャーを終了することもできます。

◀マウス操作モード時は、通常のウィンドウ終了操作（タイトルバー上のをクリックするなど）でラウンチャーを終了することもできます。

各アイコンの機能一覧

ラウンチャー画面のアイコン上にカーソルを置くと、そのアイコンの機能説明が、画面上に数秒間表示されます。

ラウンチャーを閉じる	スタートメニューを開く
ウィンドウを最大化する/戻す	Windowsの終了メニューを開く
ウィンドウを閉じる	メール自動送受信機能を起動する
ウィンドウのメニューに移動する	Outlook™ Express 5を起動する
ウィンドウを最小化する	ワードパッドを起動する
ウィンドウのサイズを変更する	ダイヤルアップネットワーク画面を開く
Esc キー	アクセスポイント設定画面を開く
Tab キー	クイックラウンチャー環境設定画面を開く
Enter キー	

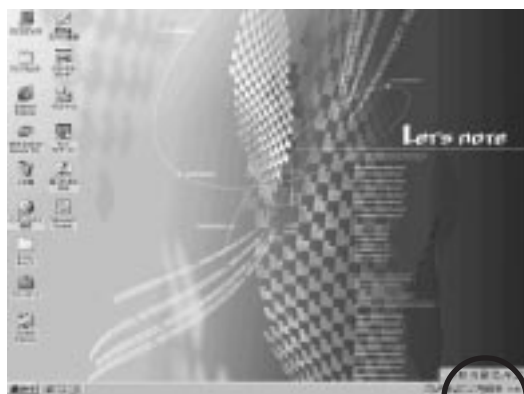
・どのウィンドウもアクティブでない状態でを実行した場合、「スタート」メニューが開きます。
・どのウィンドウもアクティブでない状態でを実行した場合、「Windowsの終了」画面が表示されます。
・メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウに対してを実行した場合、先頭のメニューに移動しないことがあります。
・実行後に、アクティブウィンドウの選択が解除される場合があります。
・アプリケーションによっては、メニューを表示中に、やなどサイズを変更するような機能を動作させた場合、メニュー表示が残ることがあります。
また、各ウィンドウ操作機能が動作しない場合があります。

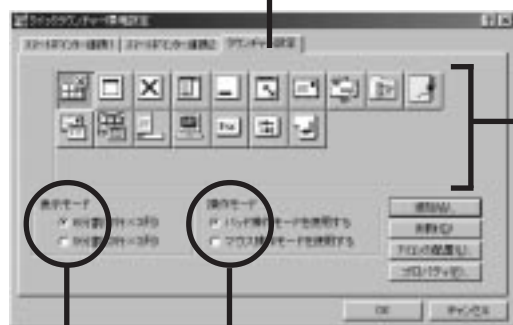
クイックラウンチャー機能

環境設定（ラウンチャー設定）

環境設定で、ラウンチャー画面に新しく操作を登録したり、すでに登録されている操作を削除したりします。

1 「環境設定」プログラムを起動する。

クイックラウンチャーアイコンを ダブルクリック

◀クイックラウンチャーアイコンをクリックし、[環境設定] をクリックしても起動できます。

2 「ラウンチャー設定」タブをクリックする。

登録されている操作に対応したアイコンが表示されています。

操作モードを切り換えます。
工場出荷時は、パッド操作モードに設定されています。

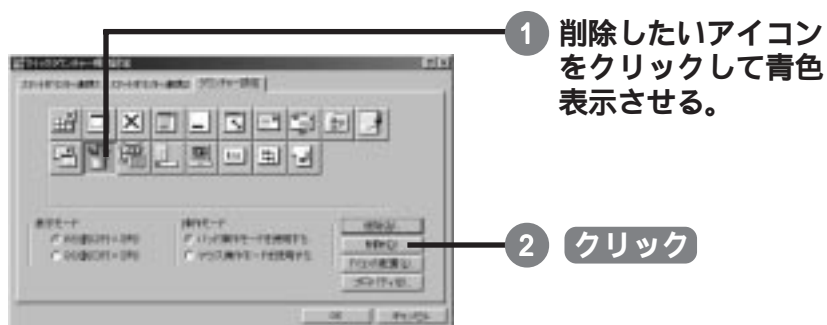
パッド操作モード時に、スマートポインターを６分割して管理するか、９分割して管理するかを切り換えます。

各操作モードについて
詳しくは→30、31ページ

◀工場出荷時には６分割に設定されています。

3 ラウンチャー画面への登録を変更する。

<アプリケーションを登録する場合>

登録したいアプリケーションのプログラムアイコンを、登録ボックスにドラッグ＆ドロップする。

◀ドラッグ＆ドロップで登録する方法と[追加]ボタンで登録する方法の2とおりがあります。（→下記）

登録できるファイル

・ショートカットファイルまたは実行ファイル（拡張子：EXE）です。ただし、上記形式であっても、ファイルによっては登録できないものもあります。

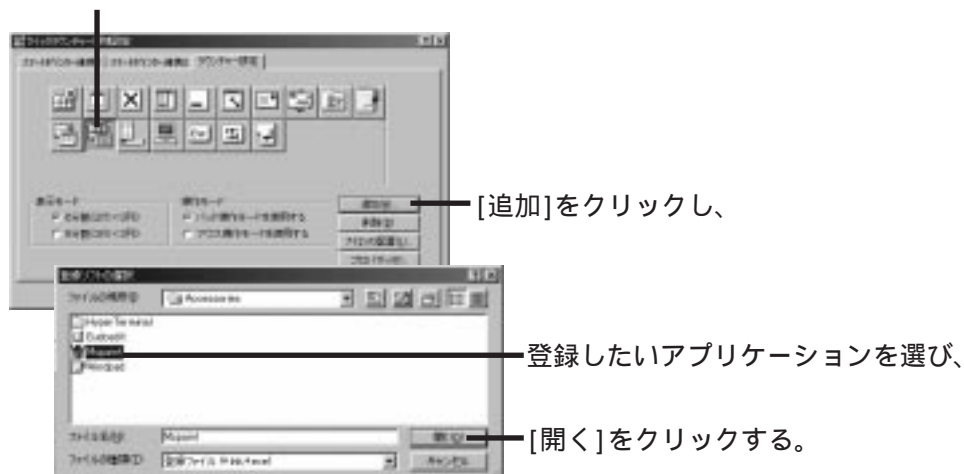
・最大24個まで登録できます。

<アプリケーションを削除する場合>

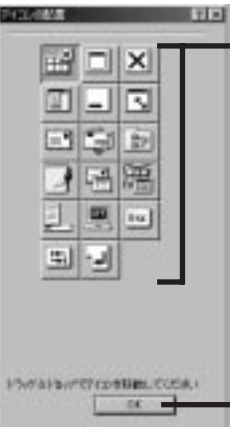
削除できないアイコン

使いかた

便利

[追加]ボタンで登録する方法

クイックラウンチャー機能

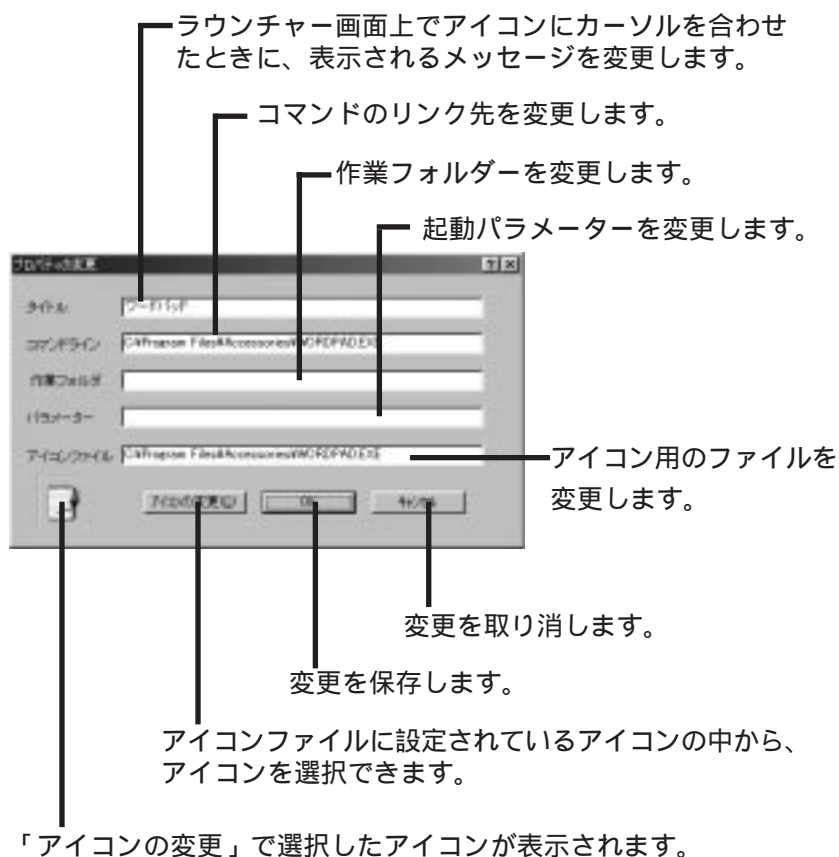
＜ラウンチャー画面のアイコンの順番を並べ替える＞

使う頻度の高い順に並べ替えておくと、ラウンチャー操作がしやすくなります。

アイコンの移動順序

アイコンは右記のように順番付けられています。
例えば、１を４の位置に移動すると、
２が１の位置へ、
３が２の位置へ、
４が３の位置へと
いうように、順に
空いた個所を埋めるように移動します。

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13	14	15
16	17	18
19	20	21
22	23	24

<プロパティを変更する>

下記の「プロパティの変更」画面が表示されます。

4 設定内容を確認して、[OK]をクリックする。

◀[OK]をクリックすると、設定内容を保存して、環境設定を終わります。
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、環境設定を終わります。

「スタンバイ」と「休止状態」機能

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使って終了すると、アプリケーションソフトを終了することなく、電源の入/切を行うことができます。電源を入れると、電源を切る前に使用していたアプリケーションソフトやファイルが画面に表示されるので、すぐに操作を始めることができます。

＜スタンバイと休止状態の違い＞

	状態の保存先	立ち上がり速度	電源の供給
スタンバイ	メモリー	速い	必要
休止状態	ハードディスク	やや遅い	不要

お願い

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使う前に、必要なデータは保存してください。

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使って終了する

1 スタンバイまたは休止状態を設定する。

❶ [スタート]→[Windowsの終了]をクリックし、[再起動する]を選んで[OK]を クリック

❷ 「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに F2 を押す。

❸ ← → を押して「省電力管理」メニューを表示する。

❹ 「パワースイッチ」を「サスペンド」または「ハイバーネーション」に設定する。

❺ ← → を押して「終了」メニューを表示する。

❻ 「設定を保存して終了」を選んで Enter を押す。

◀設定はセットアップユーティリティーで行います。セットアップユーティリティーでは「スタンバイ」を「サスペンド」、「休止状態」を「ハイバーネーション」と呼びます。工場出荷時には、「スタンバイ（サスペンド）」に設定されています。

◀ F2 を押すタイミングが遅いとセットアップユーティリティーは起動しません。
その場合、Windowsを終了してやり直してください。

◀パワースイッチの行にカーソルをあわせて Enter を押し、「サスペンド」または「ハイバーネーション」を選びます。

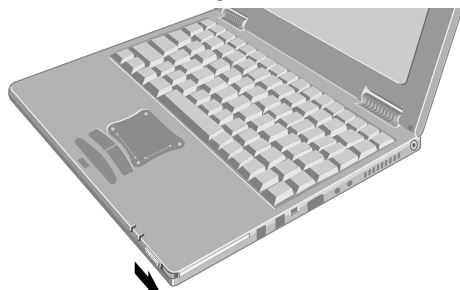
2 スタンバイまたは休止状態を使って終了する。
電源スイッチを右へスライドし、ピッという確認音が鳴ってから手を離す。

◀ Fn + F4 でスピーカーをオフにしている場合、音は鳴りません。→119ページ

お願い

電源スイッチを４秒以上スライドしたままにしないでください。４秒以上スライドし続けると、ピーという連続音が鳴り、スタンバイや休止状態に入らず自動的に電源が切れます。

操作を再開する

電源スイッチをスライドする。

◀バッテリー容量が少ない状態でスタンバイや休止状態に入るとリジュームできない場合があります。その場合はACアダプターをつないでから電源を入れてください。

用 語

リジューム　：スタンバイや休止状態から、次に電源を入れたときに元の状態に戻ることを言います。

以下の場合は、スタンバイ（タイムアウト機能を含む）や休止状態に入らないでください

これらの機能や周辺機器が正常に動作しない場合があります。

- 通信ソフト動作中・ネットワーク使用中
- オーディオの録音・再生中
- PCカード（SCSI・ATAカード）などの周辺装置の使用中
- フロッピーディスクドライブ・ハードディスクドライブの使用中
- CD-ROMドライブ・USB機器などの使用中

「スタンバイ」や「休止状態」の処理中およびリジューム時にしてはいけないこと

- 処理中はキーボード、スマートポインターなどを操作しないでください。
  リジューム後、それらのデバイスが操作できなくなることがあります。そのようなときには、本体を再起動してください。
- リジューム時は、Windowsが完全に起動するまで、キーボード、スマートポインターなどを操作しないでください。

「スタンバイ」や「休止状態」に入れない

- WindowsやMS-DOS以外のオペレーティングシステム（OS）ではディスプレイの電源が正常に復帰しなかったり、スタンバイや休止状態に入れないことがあります。
- 常駐ソフトウェアがある場合は、スタンバイや休止状態に入れないことがあります。

他の方法で「スタンバイ」や「休止状態」に入るには

<スタンバイへの入りかた>

- Fn + F10 を押す。
- [スタート]→[Windowsの終了]をクリックして「スタンバイ」を選ぶ。
- タスクバーの を右クリックして「スタンバイ」を選ぶ。

<休止状態への入りかた>

- Fn + F7 を押す。

外部ディスプレイを接続している場合、休止状態からリジュームするときの処理画面は、セットアップユーティリティーで設定されている表示先に表示されます。

使いかた

便利

通信を行う前に

インターネットに接続したり、電子メールの送受信を行ったりするためには、まず、通信環境を整える必要があります。
以下に通信を行うための操作の流れについて説明します。

通信機器を準備する（接続・設置） →39ページ

まず、通信機器を電話回線に接続する、適当な場所に設置するなどの準備を行います。
内蔵モデムと電話コンセントを接続する方法について説明します。

プロバイダーに加入し、通信の設定をする →42ページ

インターネットを行うためには、いずれかのプロバイダー（接続サービスを行う会社）に加入する必要があります。
「インターネットスターター」を使用すると、プロバイダーHi-HOにフリーダイヤルでダイヤルアップ接続し、オンライン上で加入手続きを行うことができます。また、手続き終了後、自動的にインターネットへの接続設定やメールアカウントの設定が行われます。
複雑な通信設定を自分で行う必要がないのでとても便利です。

◀Hi-HO以外のプロバイダーに加入される場合は、各プロバイダーにお問い合わせのうえ、加入手続きを行ってください。また、加入後の通信設定も各プロバイダーの指示に従って行ってください。

新しく接続先を設定する →47 ページ

複数のアクセスポイントを使い分けたり、通信機器を使い分けたりする場合、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成します。

通信を行う

インターネットに接続したり、電子メールを送受信したり、また、専用のアプリケーションソフトを使用するとファクスの送受信を行ったりすることができます。

用 語

アクセスポイント　：プロバイダーへの接続ポイントです。あなたの使用場所に一番近いところを選びます。

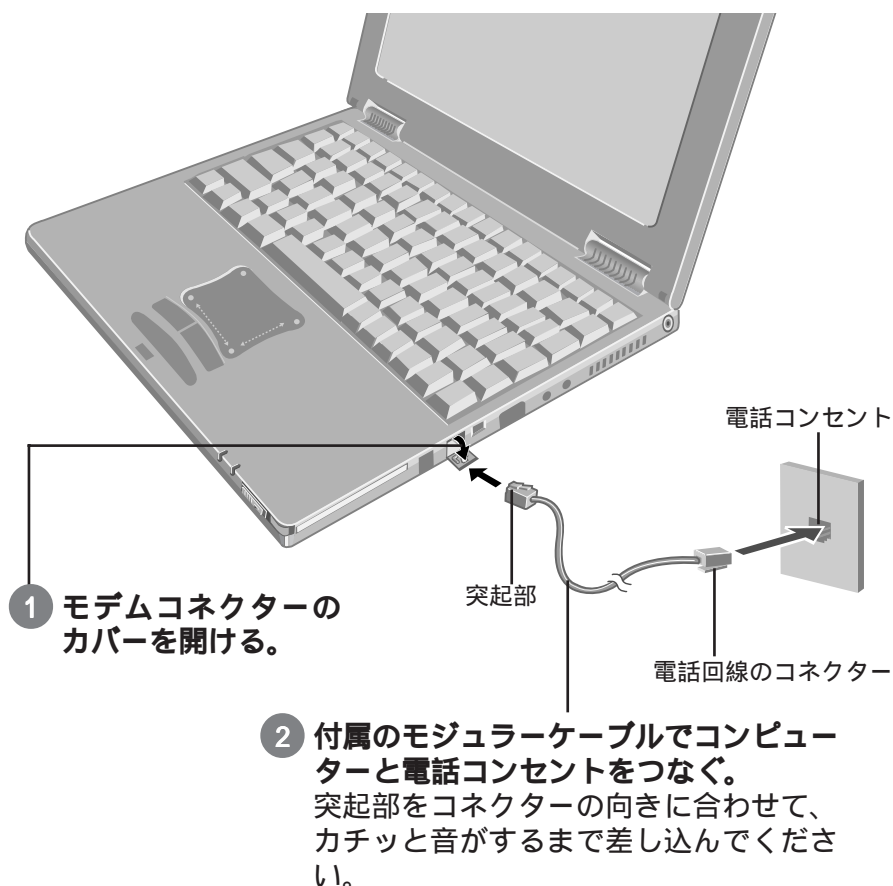
通信機器を準備する

ここでは、内蔵されているモデムと電話コンセントを接続する方法について説明します。

電話回線に接続する

1 内蔵モデムと電話コンセントを接続する。

1 モデムコネクターのカバーを開ける。

2 付属のモジュラーケーブルでコンピューターと電話コンセントをつなぐ。
突起部をコネクターの向きに合わせて、カチッと音がするまで差し込んでください。

◀「インターネットスターター」を使って自動的に通信設定を行うためには、内蔵モデムをご使用ください。携帯電話やPHS電話からでは、「インターネットスターター」はご使用になれません。

◀取り外すときは、突起部を押さえながら引き抜いてください。

◀日本国内の一般電話回線で使用してください。また、電話コンセントの形状によっては工事が必要な場合があります。
→41ページ

⚠注意

モデムは日本国内の一般電話回線で使用する

会社、事務所等の内線電話回線（構内交換機）やデジタル公衆電話のデジタル側コンセントに接続したり、海外で使用したりすると、火災・感電の原因になることがあります。

モデムのプロパティを設定する

「インターネットスターター」を使うと、自動的に通信設定を行いますので、下記の操作は必要ありません。42ページから始めてください。

1 [コントロールパネル]の[モデム]をダブルクリックする。

2 電話回線の種類を設定する。

「ダイヤルのプロパティ」を クリック

1 必要な項目を入力する

2 [OK]を クリック

[OK]を クリック

◀「国名/地域」では「日本」を選んでください。

◀「市外局番」には使用場所の市外局番を入力してください。
携帯電話やPHSをお使いになる可能性がある場合は、「0」を入力してください。「市外局番」に何も入力しなければ、画面を閉じることができません。

◀「ダイヤル方法」では、回線の種類を正しく選んでください。
- トーン：ダイヤル時にピッポッパッと音がする回線
- パルス：ダイヤル時にピッポッパッと音がしない回線
- 携帯電話をご使用時は、どちらに設定しても通信できます。
- PHS電話でFAX送信を行う場合などPTEサービスを利用するときは「パルス」を、それ以外は「トーン」を選んでください。
- ご使用中の電話回線の種類がわからない場合、お近くのNTTにお問い合わせください。

内蔵モデムの通信時の音量を調節するには

「マスタ音量」画面（タスクバーの「音量」アイコンをダブルクリック）の「電話線」を使ってください。

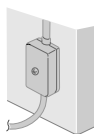
使用する電話回線について

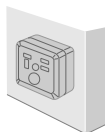
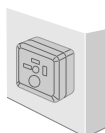
モデムは、日本国内の一般電話回線で使用してください。

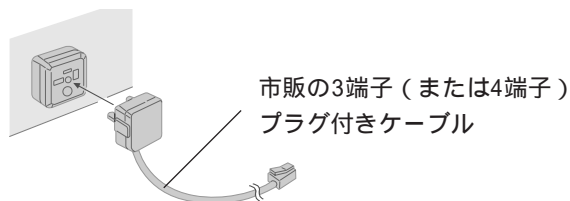
- 会社、事務所等の内線電話回線等には、接続しないでください。
  （→39ページの警告表示）
- 以下の特性が異なる回線に接続すると、本機が故障する恐れがあります。
  - NTTのピンク電話の回線
  - ホームテレホン（接続ボックス）
  - 玄関ドアホン等
  - 日本国外の回線

電話コンセントの種類

電話コンセントの種類は、モジュラージャック、ローゼット、3端子（または4端子）ジャックなどがあります。電話回線とのつなぎかたは、端子の種類によって異なります。モジュラージャックの場合、付属のモジュラーケーブルをそのままつなぎます。

＜ローゼットの場合＞

最寄りのNTTに連絡して、モジュラージャックの取り付け工事を依頼してください。
資格のない方が工事をすることは認められていません。

＜３端子（または４端子）ジャックの場合＞

以下の2とおりの方法があります。

- 最寄りのNTTに連絡して、モジュラージャックの取り付け工事を依頼してください。
  資格のない方が工事をすることは認められていません。
- 一方がモジュラープラグで、他方が3端子（または4端子）プラグのケーブル（市販品）を用意し、以下のようにつなぎます。

本機のご使用にあたって、NTTのレンタル電話機が不要となる場合は、NTTへご連絡ください。ご連絡いただいた日をもって、「機器使用料」は不要となります。詳しくは、局番なしの116番（無料）へお問い合わせください。

まいと～く FAX V3 Liteについて

まいと～く機能を使うと、コンピューター上でファクスの送受信を行うことができます。受信したFAXは印刷したり、そのまま他の人へ送信したりすることができます。詳しくは、付属の別紙『まいと～く FAX V3 Liteのご案内』をご覧ください。

プロバイダーに加入し、通信の設定をする(初回のみ)

インターネットに接続するにはプロバイダー（接続サービス会社）に加入する必要があります。
「インターネットスターター」を使うと、プロバイダーHi-HO（以後、Hi-HO）への加入手続きが画面上で簡単にできます。また、手続き終了後、インターネット接続やメールの送受信のための複雑な設定が自動的に行われるので、すぐにインターネットが使えて便利です。
ここでは「インターネットスターター」を使ってHi-HOに加入する方法について説明します。

◀Hi-HOに加入される場合は必ず、「インターネットスターター」をご利用ください。Hi-HO以外のプロバイダーに加入する場合は、デスクトップの「インターネットへ接続」を使用してください。

準備するもの

Hi-HOに電話をかけるために電話回線と接続します。（→39ページ）
入会の前に、あらかじめ次の準備をしておきましょう。

＜申し込みコースを決める＞
「Hi-HOのご案内」のパンフレット（付属）を見て決めておきます。

＜ご本人名義のクレジットカードを準備する＞
カードの会員番号や有効期限を入力する必要があります。

Hi-HOで利用できるクレジットカード
JCB・VISA・MASTER・DC・UC・ミリオン・NICOS・AMEX・ダイナース・Panaカード・松下カード（1999年11月現在）

＜希望するメールアカウントを決める＞
電子メールをやり取りするときに必要な「メールアカウント」（利用者を示す名称）の希望を決めておきます。
（「松下太郎」さんのメールアカウントの例）

Matsushita_Taro
Matsushita
M-Taro
Taro_chan

◀希望のメールアカウントが、すでに誰かに割り当てられている場合、そのメールアカウントは登録できません。

メールアカウントとして使用可能な文字
英数字とハイフン（-）、アンダーバー（_）を使い、4文字以上、16文字以下で決めます。

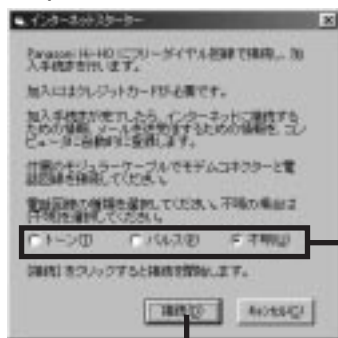
◀メールアカウントは、メールアドレスの一部として使用されます。
（例）
Matsushita_taro@dab.hi-ho.ne.jp

「インターネットスターター」による加入、設定について

- Hi-HOにフリーダイヤルで接続するため、加入手続き中の電話料金はかかりません。
- 加入・設定時は、内蔵モデムから通常のアナログ電話回線を使って操作してください。携帯電話やPHS電話は使用できません。また、ISDN回線の場合は、アナログポートを使用してください。
- ホームページ閲覧ソフトとして「Internet Explorer 5.0」、メールソフトとして「Outlook Express 5」を使用することを前提として、自動的に通信設定を行います。その他のソフトウェアをご使用になる場合は、別途、通信設定を行ってください。

Hi-HOに加入し、通信の設定をする

設定が終わるまでに、約15～20分かかります。
下記手順に従って、続けて操作してください。

1 デスクトップの[インターネットスターター]アイコンをダブルクリックする。

Hi-HOへ自動ダイヤルし、回線に接続します。

（次ページへ続く）

お願い

[コントロールパネル]→[パスワード]でWindows起動時のパスワードを設定している場合は、必ずWindows起動時にパスワードを入力しておいてください。

◀電話回線の種類について

・トーン：ダイヤル時にピッポッパッと音がする回線。
・パルス：ダイヤル時にピッポッパッと音がしない回線。
・不明　：トーンかパルスかが不明な場合に選んでください。まず、トーンで接続を開始し、つながらなければ、パルスで接続し直すかどうかの確認メッセージが表示されます。

◀このとき、[終了]をクリックすると、接続を切断し、「インターネットスターター」が終了します。

回線がつながらないときは

・話し中の場合（回線が混雑しているとき）は、少し待ってから「インターネットスターター」の操作をし直してください。
・電話回線の種類の設定が正しいか確認してください。

1 ▼をクリックし、会員規約を、よく読む。

2 [会員規約に同意し…]をクリック

2 「加入申込書」に必要事項を入力する。

各欄の入力例や説明をよく読んで入力してください。

1 ▼をクリック

2 使用場所に一番近いアクセスポイントをクリック

1 Tab を押すとカーソルが表示されるので、入力する。

2 ▼をクリックし、最後まで入力する。

入力内容をよく確認し、[登録]をクリック

お願い

加入申込書には「ご自宅ファックス」、「お勤め先・学校名」、「お勤め先電話番号」以外は必ずご記入ください。「ご自宅住所」には、ビル名や部屋番号など郵便物が届くのに必要な情報をきちんと入力してください。きちんと入力していないと、Hi-HOから資料などを郵送できない場合があります。

全角と半角（ローマ字・数字）

各項目とも、指定の通りに入力してください。Alt ＋ 半角/全角 を押すごとに全角入力モードと半角入力モードが切り換わります。

項目間のカーソル（I）移動

Tab を押す：　次の項目へ

Shift ＋ Tab を押す：　一つ前の項目へ

「性別」

該当する方の○をクリックし、◉にします。

数字を入力する項目

「生年月日」やクレジットカードの「有効期限」など、１桁の数字を入力する場合、「03」のように数字の前に0を付けてください。

入力を間違えたら

間違えた文字の右側をクリックすると、カーソルが表示されます。Back space を押すと、カーソルの左となりの文字を消すことができます。

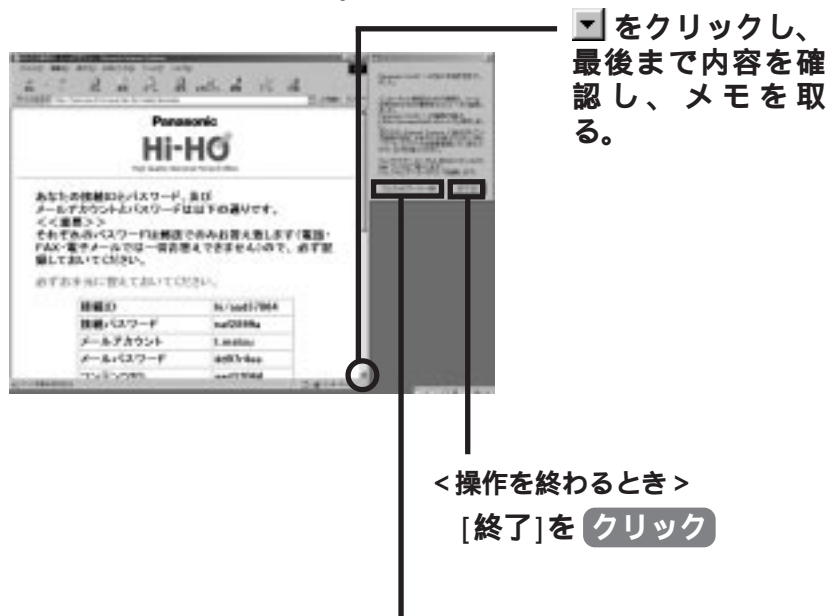
お願い

[登録]ボタンは、ダブルクリックしないでください。2重に登録される場合があります。

加入手続きが終わると、Hi-HOに登録された情報が表示され、その情報がコンピューターに自動で設定されます。

3 登録内容をメモに取る。

▼をクリックし、最後まで内容を確認し、メモを取る。

<操作を終わるとき>
[終了]を クリック

<ウェブナビゲーターを操作するとき>
[ウェブナビゲーター]を クリック
55ページへ進んでください。
（フリーダイヤルによる接続は、上記の画面までです。ウェブナビゲーターでインターネットに接続する場合は、料金が発生します。）

お願い

接続ID、パスワード、メールアカウントなどは忘れないように必ずメモを取って残しておいてください。（→下記）

◀「ウェブナビゲーター」では、どのようなホームページがあるのか、幅広いジャンルのホームページを一覧表示してご紹介します。

必ずメモしておいてください

接続ID	
接続パスワード	
メールアカウント*1	
メールパスワード*2	
メールサーバー	
電子メールアドレス	

この情報は、「My Documents」フォルダーに「hi-ho.txt」というファイル名で保存されています。このファイルを開いて、参照することもできます。（→『セットアップ編』「文書の呼出（ファイルを開く）」）

*1 メールアカウントが使えるようになるまで約3時間かかります。
*2 メールパスワードは、電子メール操作時に入力する必要があります（→63ページ）ので特に気をつけてメモしてください。
その他の情報は、インターネットスタータが自動で設定してくれます。

用 語

接続ID　：プロバイダーへの接続時に会員を識別するためのものです。
接続パスワード　：他人が自分の接続IDを使ってプロバイダーに接続するのを防ぐためのパスワードです。
メールアカウント：電子メールをやり取りするときに、利用者を示します。（→63ページ）
メールパスワード：メールサーバー上の電子メールを他人に無断で読み出されるのを防ぐためのパスワードです。
電子メールアドレス：電子メールの宛先（実際はプロバイダーが設置している「メールサーバー」というコンピューターの中の番地）です。

プロバイダーに加入し、通信の設定をする（初回のみ）

正式な会員証が届いたら

加入後、約10日後に、正式な会員証や説明書などの書類が郵送されます。
加入時にメモした登録情報と郵送された書類に違いがないか確認してください。
セキュリティやサーバーの管理のため、まれに「接続パスワード」などが変更されていることがあります。そのような場合は、下記を参照して設定を変更してください。

お願い

郵送された書類は、大切に保管してください。

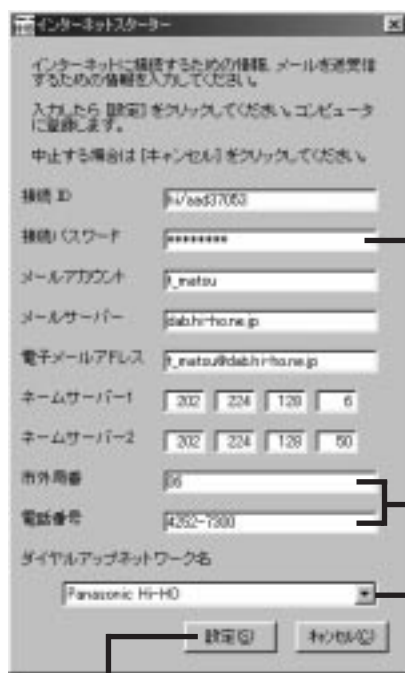
設定内容を変更するとき

接続パスワードが変更になったときやコンピューターの再インストール後、通信の設定を再度行いたいときには、「インターネットスターター」を使用して再設定することができます。

1 デスクトップの[インターネットスターター]アイコンをダブルクリックする。

◀再インストール後、再設定する場合は、まず「ダイアルアップネットワーク」で新しい接続を作成してから（→47ページ）、左記の操作を行ってください。

[再設定]を クリック

2 設定内容を変更する。

1 変更する項目を クリック し、入力し直す。

セキュリティ保護のため「*」で表示されます。

アクセスポイント電話番号

「インターネットスターター」によって、自動設定されたダイヤルアップネットワーク名

2 内容の変更が終わったら[設定]を クリック
その後、メッセージに従って操作してください。

ダイヤルアップネットワーク名
ダイアルアップネットワークとは、プロバイダーに接続する際のアクセスポイントとアクセスポイントへの接続方法（電話回線の種類、モデムなど）を設定したものです。
「インターネットスターター」では「Panasonic Hi-HO」という名前で自動設定されます。

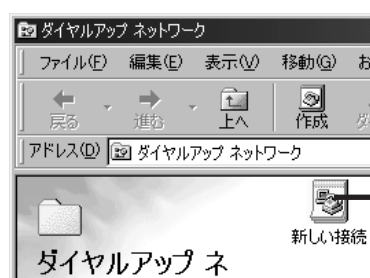
◀再インストール後の再設定時には、▼をクリックして、新しく作成したダイヤルアップネットワーク名を選んでください。

新しく接続先を設定する

複数のアクセスポイントを使い分けたり、通信機器を使い分けたりする場合、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成します。ここでは、その方法について説明します。

通信機器の使い分け
携帯電話やPHS電話を専用ケーブルに接続して通信する場合などに必要です。

1 [スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ダイヤルアップネットワーク]をクリックする。

2 新しく接続を作成する。

① 新しく作成する接続先に名称を付ける。

② 使用する機器にあったモデムを選択する。

③ [次へ]を クリック

◀初めて「新しい接続」を作成するときには、「ダイヤルアップネットワークへようこそ」画面が表示されるので、[次へ]をクリックしてください。

◀MINI PCI type 3B Data Fax Modem by 3Com：
内蔵のモデムを使用する場合に選ぶ。

① アクセスポイントの電話番号を半角数字で入力する。

② [次へ]を クリック

PHS電話を使ってデータ通信をする場合
PIAFS対応のアクセスポイントを選んでください。

（次ページに続く）

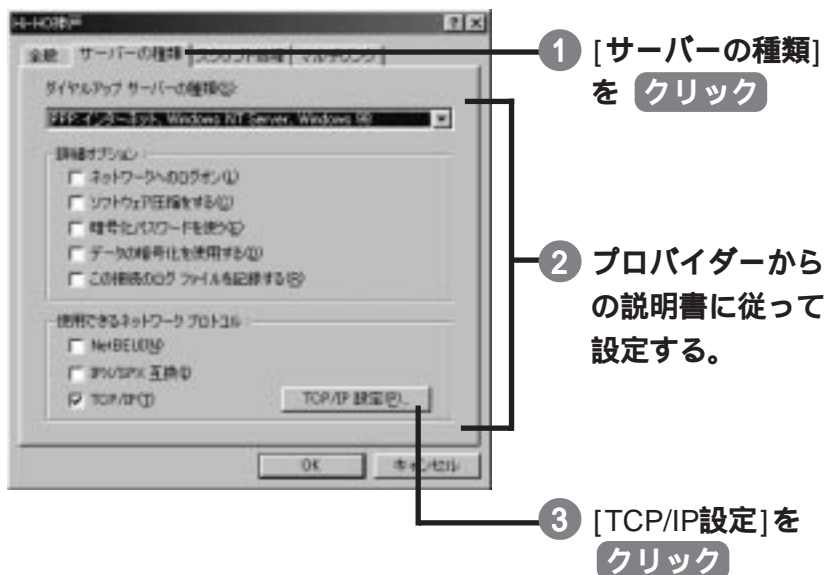
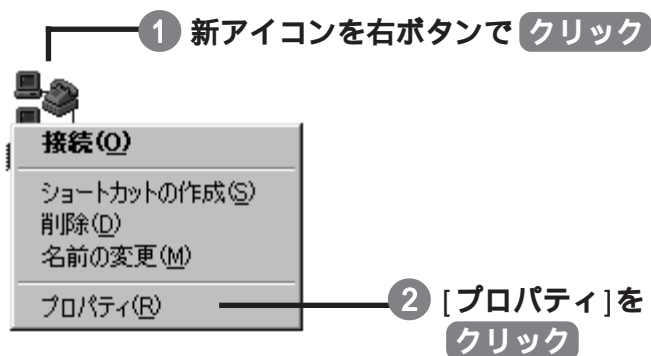
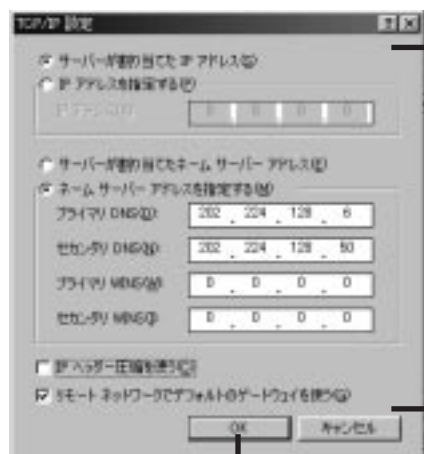
新しく接続先を設定する

設定した接続名を持つアイコンが追加されます。

3 サーバー情報を設定する。

（次ページに続く）

使いかた

コミュニケーション

回線の種類の設定

使用する通信機器によって、電話回線の種類を設定し直す必要があります。

＜設定のしかた＞

①「コントロールパネル」の[モデム]をダブルクリックする。

②[ダイヤルのプロパティ]をクリックする。

③「ダイヤル方法」で回線の種類を選ぶ。

トーン：ダイヤル中「ピッポッパ」と音がする回線

パルス：ダイヤル中「ピッポッパ」と音がしない回線

- ご使用中の電話回線の種類がわからない場合は、お近くのNTTにお問い合わせください。
- 携帯電話をご使用時は、どちらに設定しても通信できます。
- PHS電話でファクス送信を行う場合などPTEサービスを利用するときは「パルス」を、それ以外は「トーン」を選んでください。

＜留意点＞

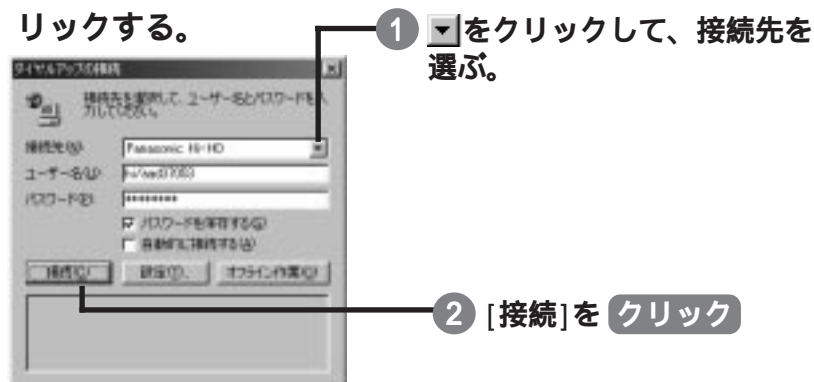
- 「ダイヤルのプロパティ」の設定は、すべての接続先（モデム）に対して共通です。「ダイヤル方法」が使用環境により異なる場合は、その都度、変更する必要があります。
- 携帯電話やPHS電話をお使いになる場合は、「ダイヤルのプロパティ」の設定で「市外局番」には「0」を入力してください。

インターネットに接続する

通信機器を接続し、プロバイダーへの加入と通信の設定（→39〜46ページ）が終わったら、「Internet Explorer（インターネットエクスプローラー）」を使ってインターネットに接続してみましょう。

◀「Internet Explorer」は、ホームページを見るためのソフトウェア（ブラウザー）の一つです。

「Internet Explorer」を起動する

1 デスクトップの[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックする。

プロバイダーへの接続が始まります。接続が終わると、Internet Explorerで、最初に表示するページとして設定されているホームページが表示されます。

◀自分で新しく設定したダイヤルアップ接続を選ぶこともできます。その接続を初めて使用する場合には、ユーザー名とパスワードに何も表示されませんので、自分で入力してください。パスワードはセキュリティ保護のため「*」で表示されます。
（ダイヤルアップ接続の作成方法→47ページ）

◀左記は、「インターネットスタータ ー」により自動作成された「Panasonic Hi-HO」を使用する場合を例にしています。

メールの自動送受信機能を使用してメールを送受信したい場合
必ず「パスワードを保存する」にチェックマークを付けておいてください。

◀ホームページの内容は随時、変更されています。左記の画面は一例で、実際の内容と異なる場合があります。

「Internet Explorer」を終了する

次のようにして、確実に接続を切断します。

◀接続終了の確認
接続を終了すると、画面右下のタスクトレイにある次のアイコンの表示が消えます。（接続時）

◀ウィンドウ右上の☒をクリックしても、「Internet Explorer」を終了することができます。

◀この画面は、他の画面の後ろに隠れてしまうことがあります。その場合、タスクバーの「自動切断」をクリックしてください。

雑誌で見つけたホームページを見る

雑誌やカタログ、あちこちで目にする「http://」で始まるURL（ホームページの番地）を入力すると、見たいページをすぐに表示することができます。ここでは、Hi-HOのホームページを表示します。

1 「Internet Explorer」を起動する。（→前ページ）

2 URLを入力する。

しばらくすると、指定したホームページが表示されます。

◀ Hi-HOのURLは、「http://home.hi-ho.ne.jp」です。（1999年11月現在）

◀ 必ず半角の英数字で入力します。半角の英数字にならないときは Alt ＋ 半角/全角 を押して、英数字入力モードに切り換えます。

◀ ホームページの内容は随時、変更されています。左記の画面は一例で、実際の内容と異なる場合があります。

◀ Internet Explorerを終了するには →前ページ

表示が極度に遅いときには

画像の多いホームページを表示している、メモリーが不足している、または接続しようとした時間帯にホームページが非常に混雑しているなどが考えられます。

URL によく使われている記号の入力方法

・チルダ（～）は Shift ＋ へ

・スラッシュ（/）は め、ピリオド（．）は る、コロン（：）は け

・アンダーバー（＿）は Shift ＋ ろ

用語

URL ：インターネット上でホームページなどのデータの場所を示す番地のようなものです。

インターネットに接続する

ホームページの見かた

現在開いているホームページの番地（URL）が表示されています。

スクロールバー

ポインターが矢印から手の形になる所を クリック
その先のホームページ(リンク先)を表示できます。

[戻る]を クリック
一つ前のホームページに戻ることができます。

◀画面を最大にする
□をクリックすると、ホームページのウィンドウを最大にすることができます。（→『セットアップ編』）

◀スクロールバーをドラッグ、または▼▲をクリックすると、下または上に続いているホームページを見ることができます。

◀戻る と 進む
いくつかのホームページを開いたときに、簡単に前に戻ったり、次に進んだりすることができます。いろいろなページを開いてみましょう。

◀Internet Explorer を終了するには
→50ページ

オフライン(回線断)の状態でホームページの内容を読む

ホームページをじっくり見るときは、[ファイル]→[オフライン作業]をクリックする（ウィンドウ上部に「オフライン作業」と表示される）と、回線を切断した状態で[Internet Explorer]を表示することができます。（料金を節約することができます。）別のホームページに進もうとすると、下記のメッセージが表示されますので、[接続]をクリックします。

そのほかの便利な機能

 ：インターネット接続時に最初に表示されたホームページに戻ります。

検索：キーワード（言葉）をもとに、見たいホームページを表示します。（→次ページ）

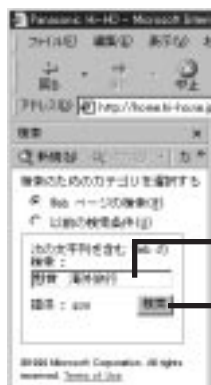
 ：よく見るホームページを登録し、すぐに表示することができます。（→54ページ）

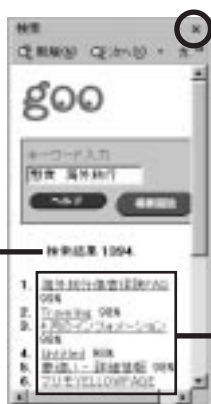
 ：表示したホームページのURLの履歴を見ることができます。

使いかた コミュニケーション

見たいページを探す

「こんなホームページが見たいな」という場合、キーワードを入力して、ホームページを探すことができます。
たとえば、「海外旅行の懸賞に応募したい」ときは「懸賞」「海外旅行」などをキーワードとして見たいページを探せます。

1 「Internet Explorer」を起動する。（→50ページ）

[検索]を クリック

検索条件に合致したホームページの件数が表示されます。

☒をクリックすると、検索を終了することができます。

検索結果が表示されるので、いずれかのホームページタイトルを クリック

2 インターネットへの接続を終わる。（→50ページ）

◀「どんなホームページがあるのかな」という場合には、「ウェブナビゲーター」が便利です。（→58ページ）

◀ Alt ＋ 半角/全角 を押すごとに日本語入力モードを英数字入力モードに切り換えられます。

キーワード入力のコツ
検索されたページが多すぎて探しにくい場合は、複数のキーワードを入力してください。その際、スペースや | で区切るのが一般的です。

◀インターネットへ情報を送信する場合、いくつか、警告のメッセージが表示される場合があります。確認後、[はい] をクリックします。

◀[戻る]をクリックすると、検索を始める前の画面に戻ることができます。
◀Internet Explorerを終了するには→50ページ

気に入ったページを登録する

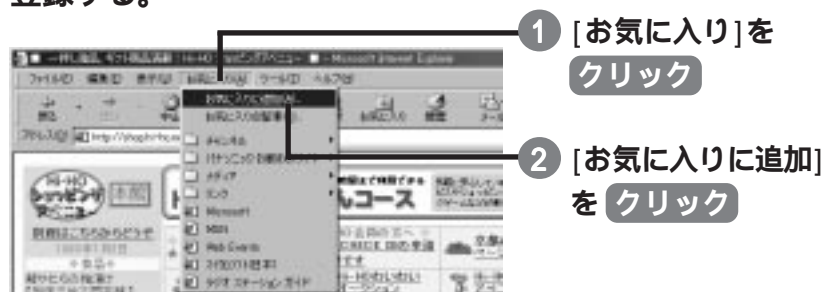
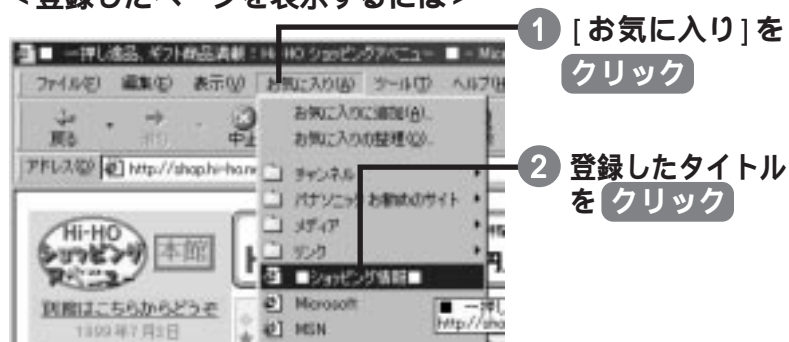
よく利用するホームページは、「お気に入り」に登録しましょう。「お気に入り」に登録しておくと、「URL」を入力することなくメニューから選ぶだけで簡単に表示できます。

1 「Internet Explorer」を起動する。（→50ページ）

2 お気に入りに登録したいホームページを表示させる。

3 登録する。

❶ [お気に入り]を クリック

❷ [お気に入りに追加]を クリック

◀ をクリックして登録することもできます。

❶ タイトルを入力、確定する。

❷ [OK]を クリック

◀名前の欄をクリックすると、文字を入力できるようになります。

<登録したページを表示するには>

❶ [お気に入り]を クリック

❷ 登録したタイトルを クリック

◀「お気に入り」のメニューから削除したいときは
[お気に入りの整理]をクリックし、削除したいタイトル名をクリックして、[削除]→[はい]→[閉じる]をクリックします。

◀「お気に入り」にあらかじめ登録されているホームページは削除することができません。

◀ Internet Explorerを終了するには →50ページ

4 インターネットへの接続を終わる。（→50ページ）

最初に表示するページを設定するには

①最初に表示したいホームページを表示する。
②[ツール]→[インターネットオプション]をクリックする。
③[全般]→[現在のページを使用]をクリックし、[OK]をクリックする。

ホームページを幅広く閲覧する（ウェブナビゲーター）

ウェブナビゲーターを使用する前に

ウェブナビゲーターを使用するには、以下の準備が必要です。

- 通信機器を接続してプロバイダーに加入し、通信の設定をしてください。（→39～46ページ）。
- 画面のプロパティで、画面の領域を1024×768ピクセル、色をHigh Color (16ビット)以上、詳細設定を「小さいフォント」に設定してください。

◀工場出荷時は、1024×768ピクセル、High Color (16ビット)、「小さいフォント」に設定されています。

ウェブナビゲーターの楽しみかた

＜まずは、ネットサーフィン＞

どんなホームページがあるの、 どうしたらもっとホームページを楽しめるの？というときに。

ウェブナビゲーターを起動してホームページ情報を取得します。取得後は、オフラインになるので料金がかかりません*。いろいろなホームページを見てみましょう。

ジャンル別に６分割画面で表示されるので、いろいろなページが一目でわかります。

画面は一例です。

ホームページ取得とは

- 本機にはあらかじめたくさんの厳選されたホームページリスト（URL集）が登録されています。（ホームページリストは更新できます。→下記）
- ホームページリストをもとにインターネットに接続し、最大24個（工場出荷時は18個）のホームページ情報を自動で取得します。

◀登録されているURLが提供者側で休止、終了された場合、そのホームページの内容を取得・表示できなくなることがあります。

＜さらに使い込む＞

好みや趣味に合ったホームページをどうやって探そう？というときや 気に入ったホームページを集めたいというときに。

- ６つの画面の中には、「おまかせ」の画面があります。「おまかせ」の画面では、年齢、性別やどのようなホームページをよく見ているかの記録から、コンピューターがあなたに合ったホームページを抽出して紹介します。
- 「Internet Explorer」（→50ページ）の「アドレス」や「お気に入り」、また「スタート」メニューの「お気に入り」から上記の画面にドラッグ＆ドロップするだけで、お気に入りのホームページをウェブナビゲーターに集めることができます。（→59ページ）

*リンク先のホームページを表示する場合、インターネットに接続するため、料金がかかります。また、オンライン状態からホームページの更新を行った場合などは、取得後もオンライン状態が続きます。その場合は接続を切断し、オフライン状態にしてから閲覧するようにしてください。

＜ホームページの更新＞

必要に応じて簡単にホームページの情報を更新できます（→61ページ）。また、ホームページリスト（URL集）も更新できますので、最新の情報を入手することができます（→62ページ）。

用 語

ネットサーフィン：インターネット上の情報を次々と見ていくこと。

ホームページを幅広く閲覧する（ウェブナビゲーター）

ウェブナビゲーターを起動する

インターネットスターター（48ページの画面）に続けて操作する場合は、手順*2* から操作してください。デスクトップから操作する場合は手順*1* から操作してください。

1 [ウェブナビゲーター]アイコンをダブルクリックする。

<インターネットスターターを使って通信設定を行った場合（初回のみ）>

「ウェブナビゲーターへようこそ」画面で[OK]をクリックする。

<インターネットスターターを使わずに通信設定を行った場合（初回のみ）>

① ▼ をクリックして、性別、年齢を選ぶ。
これらの情報は、本プログラム内でのみ使用されます。

② [OK]を クリック

この後、画面の指示に従って[OK]をクリックする。

2 ホームページの情報を取得する（初回のみ）。

① 取得しないグループがあれば、クリックしてチェックマークを外す。

② 接続方法を選ぶ。

③ [OK]を クリック

「ダイヤル中」の画面が表示された後、画面右側の「ホームページの更新」画面に取得中のホームページが表示されます。１つ取得するごとに、６分割された画面にはめ込まれていきます。

2回目以降は、前回に取得した情報をもとにして、すぐにウェブナビゲーターの画面が表示されます。

3 更新終了のメッセージが表示されたら、[OK]をクリックする。

<ウェブナビゲーターを終了する場合>

ホームページの更新中は、終了できません。

① [ファイル]を クリック

② [終了]を クリック

・ウィンドウ右上の☒をクリックしても、終了することができます。

手順 *2* の接続方法の選択について

Internet Explorerの[ツール]→[インターネットオプション]→[接続]で設定している接続方法によって異なります。

- 「ダイヤルしない」または「通常の接続でダイヤルする」に設定している場合は、手順*2*で接続方法を選択できません。
- 「ネットワーク接続が存在しないときには、ダイヤルする」に設定している場合は、手順*2*で「モデム接続」か「LAN接続」かを選んでください。

◀ ６つのグループをすべて取得するかどうかを選ぶことができます。
表示されているグループ名は、登録されている年齢、性別などにより異なります。

◀ ホームページの取得にはインターネットへ接続するため、接続料金、電話料金がかかります。（オンライン）
接続時間は自分で設定することができます。（工場出荷時は最長約14分間接続します。→62ページ）

お願い

- ホームページ取得中、「ホームページの更新」画面に対して操作をしないでください（スクロールバーを動かす、画像の上に別ウィンドウを表示させる、画面をクリックするなど）。取得後、ホームページを正しく表示できなかったり、正しく動作しなくなることがあります。
- 回線の状況などにより、１つのホームページを１分以内に取得できない場合、そのホームページは表示されません。
- 認証、Javaアプレットのロードなどにより、取得できないホームページや、Javaアプレットやスクリプトなどによって表示内容が自動的に変化するようなホームページは表示されません。

ウェブナビゲーターの画面を見る

実際には、各ジャンルのホームページ情報が表示されます。

グループ名

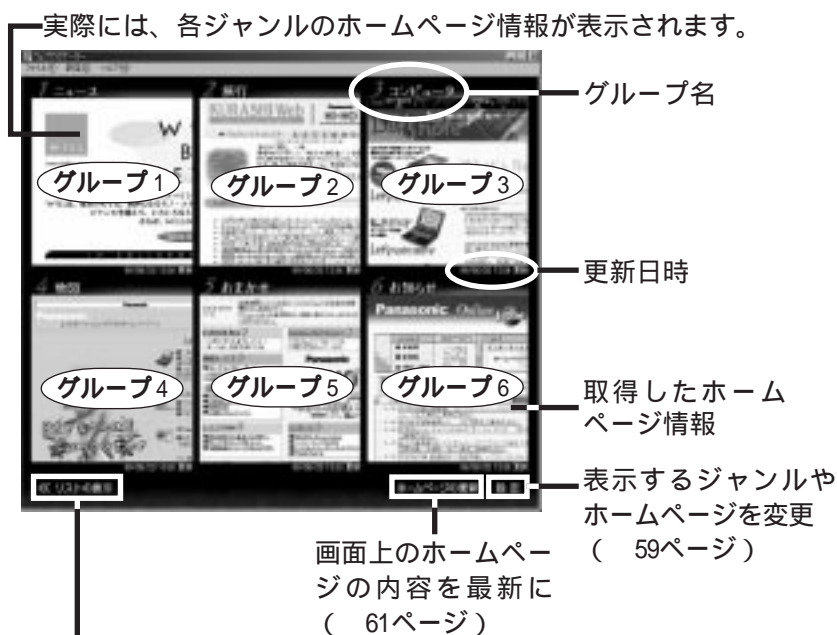
グループ1　グループ2　グループ3

更新日時

グループ4　グループ5　グループ6

取得したホームページ情報

表示するジャンルやホームページを変更（→59ページ）

画面上のホームページの内容を最新に（→61ページ）

クリック

画面上のホームページのリスト（タイトルのみ）を表示します。

リスト

リストの表示をやめるには：［リストを隠す］を クリック

◀ここからは、インターネットに接続していませんので、電話料金、接続料金はかかりません。（オフライン）

お願い

オンライン状態からホームページの更新を行った場合などは、接続を切断し、オフライン状態にしてから閲覧するようにしてください。

◀１つのグループに、ホームページが３種類ずつ、一定間隔で順番に表示されます。（工場出荷時は約１秒間隔に設定されています。→62ページ）

◀ホームページの内容は随時、変更されています。左記の画面は一例で、実際の内容と異なる場合があります。

◀画面に表示されるのは、全ホームページリスト（URL集）のうち、ホームページ情報を取得したもののみです。

◀リスト上のタイトルをクリックまたはダブルクリックすると、「Internet Explorer」（ホームページを見るためのソフト）が起動し、そのホームページを表示します。ホームページによっては一部の画像が表示されない場合があります。

６つのグループについて

＜おまかせ＞

登録した性別、年齢やどのようなホームページをよく見ているかの記録などをもとに、コンピューターがあなたにあったホームページを提案します。「おまかせモード」ともいいます。

＜お知らせ＞

当社の製品情報などをお知らせするホームページを表示します。「お知らせモード」ともいいます。

＜その他＞

グループ名が「おまかせ」「お知らせ」以外のグループでは、グループ名や表示するホームページを変更できます。「設定モード」ともいいます。

- グループ１～３は「設定モード」以外のモードに変更できません。
- グループ４～６は「おまかせモード」、「お知らせモード」、「設定モード」のいずれかに変更することができます。

ホームページを幅広く閲覧する（ウェブナビゲーター）

「Internet Explorer」で詳しく見る

お好みのホームページが表示されたら：
そのホームページ上を ダブルクリック

☒ をクリックすると、「Internet Explorer」を終了します。

ホームページによっては画像が表示されない場合があります。

矢印が 👆 の形に変わった所をクリックすると、その項目に関連する（リンク先の）ページが表示されます。

・画面取得後に、実際のホームページが変更になり、指定したリンク先がない場合があります。その場合は、メッセージが表示されます。必要に応じて、ホームページの更新を行ってください。（→61ページ）
・「データ更新中」と表示されることがあります。これは、どのようなホームページをよく見ているかの情報を集め、次回の「おまかせ」に生かすためです。

◀「Internet Explorer」（ホームページを見るためのソフト）が起動し、その内容が開きます（通常、オフライン）。ホームページによってはインターネットへの接続が必要な場合があります。その場合、接続するかどうかを確認するメッセージが表示されます。また、Internet Explorerなどがすでに起動されていてオンライン状態の場合は、オンライン状態で開きます。

◀リンク先のページを表示する場合、インターネットに接続しますので、電話料金、接続料金がかかります。（オンライン）
インターネットへ接続する際には、電話回線の接続を確認してください。

◀Internet Explorerの使いかたについて詳しくは→52ページ

「おまかせ」「お知らせ」のホームページを残しておく

「おまかせ」「お知らせ」では、更新のたびに違ったホームページを取得し、表示します（ほかのグループでは同一のホームページを更新するのみ）。「おまかせ」「お知らせ」のホームページが気に入った場合、そのホームページをドラッグ＆ドロップするだけで、ほかのグループに移動し、残しておくことができます。

❶ 移動したいページが表示されたときに矢印をあわせ、左ボタンを押す。

❷ 左ボタンを押したまま、移動先のグループ上へドラッグし、左ボタンを離す。
（ドラッグ＆ドロップ）

◀「おまかせ」または「お知らせ」への移動はできません。（「おまかせ」、「お知らせ」からほかのグループへの移動はできます。）

◀一つのグループに登録できるホームページは4つまでです。必要に応じて、ホームページを削除してから登録してください。（→下記）

登録されているホームページを削除する
目的のホームページが表示されたときに右ボタンをクリックし、[削除]を選択します。削除すると、次回の更新時から表示されなくなります。

使いかた　コミュニケーション

お気に入りのホームページを集める

「Internet Explorer」のアドレス欄やお気に入りに登録したホームページから、また「スタート」メニューの「お気に入り」からドラッグ＆ドロップするだけで、お気に入りのホームページをウェブナビゲーターに集めることができます。

❶ 登録したいURLを、目的のグループにドラッグ＆ドロップする。

＜Internet Explorerのアドレス欄からの場合＞

❷ メッセージを確認して、[OK]を クリック

❸ ホームページ情報の更新をする（→61ページ）。

◀「おまかせ」または「お知らせ」へ登録することはできません。

◀一つのグループに登録できるホームページは４つまでです。必要に応じて、ホームページを削除してから登録してください。（→前ページ）

登録されているホームページを削除する
目的のホームページが表示されたときに右ボタンをクリックし、[削除]を選択します。削除すると、次回の更新時から表示されなくなります。

表示するジャンルやホームページを変更する（設定）

画面に表示するジャンルやホームページを、約50ジャンル、約160種類のホームページから選んで、変更することができます。

1 設定 クリック

❶ 変更するグループの○を クリック

❷ 必要に応じて、変更する。
（→次ページ）

変更した設定を元に戻すことができます。

❸ [設定を保存して閉じる]を クリック

◀ウィンドウ左上の[設定]→[ホームページの設定]を順にクリックしても、左記の画面を表示することができます。

グループ名
「モード選択」でおまかせモードやお知らせモードから設定モードに変更した場合は、「新しいグループ」と表示されます。好きな名称に変更してください。（空白にすると、設定を保存できません）。

モード選択
「グループ」で1～3を選んだ場合、設定モードしか選択できません。また、お知らせモードに設定できるのは、4～6の１つのグループのみです。

使いかた
コミュニケーション

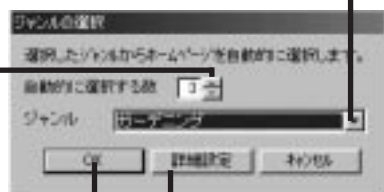
ジャンルの選択について

● 「モード選択」が「設定モード」の場合

<自動設定>

1 前ページの手順1の画面で、[ジャンル選択]を クリック

2 ▼をクリックし、ジャンルを選ぶ。

3 ▼ ▲ をクリックし、自動で選択するホームページの数を選ぶ。

4 [OK]を クリック

<詳細設定>

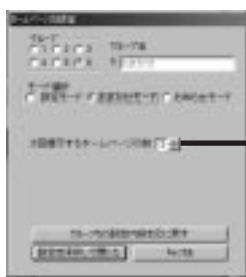
1 上記画面で、[詳細設定]を クリック

2 ▼をクリックし、ジャンルを選ぶ。

3 目的のホームページにチェックマークを付ける。

4 [OK]を クリック

自動設定画面（→上記）に戻ります。

● 「モード選択」が「おまかせモード」または「お知らせモード」の場合

▼ ▲ をクリックして、表示するホームページの数を選びます。

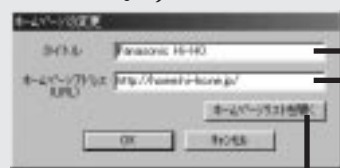
2 ジャンルなどを変更したグループのホームページ情報を更新する（→61ページ）。

◀選択中のグループのジャンルを変えることができます。

自動設定
選んだジャンルのホームページをコンピューターに自動的に選択させる場合に、その数を設定します。

詳細設定
自分でホームページを選択したい場合は、「詳細設定」を選択します。１～４個までお好みのホームページを選択できます。

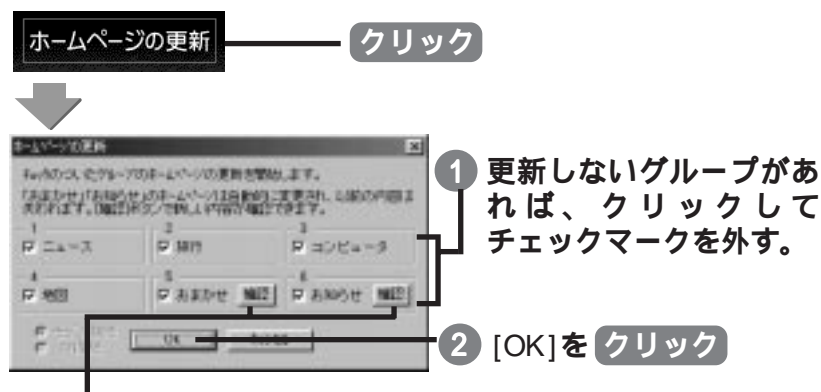
ホームページの変更と追加
前ページ手順1の画面で[変更]または[追加]をクリックすると次の画面が表示されます。

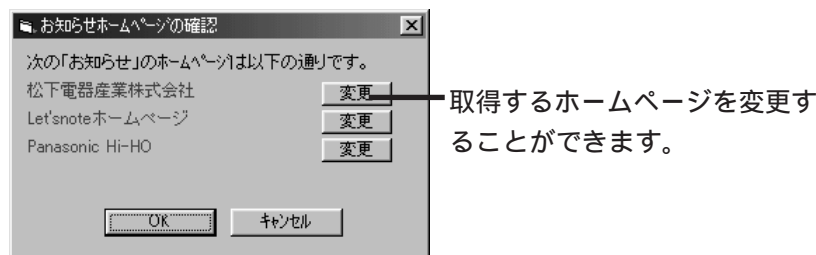
タイトルやURLを変更できます。（空白のままでは設定を終了できません。）

ここをクリックすると、あらかじめ登録されているホームページリストの中から選ぶことができます。

ホームページの更新

インターネットに接続し、画面上のホームページ情報を更新することができます。本ソフトの２回目以降の起動時に、必要に応じて更新してください。
（URLがホームページの提供者側で休止、終了された場合、そのホームページを取得できなくなる場合があります。）

以下のような場合には、エラーメッセージが表示されます。必要に応じてホームページの更新を行ってください。

- ホームページが変更になり、リンク先に接続できない場合
- 「Internet Explorer」の[ツール]→[インターネットオプション]で「ファイルの削除」を実行した場合※

２回目以降の更新時、[確認]ボタンが表示されます。クリックすると、コンピューターが「おまかせ」「お知らせ」で新たに取得するホームページを確認できます。

＜[確認]をクリックしたときの画面例＞

3 更新完了のメッセージが表示されたら[OK]を クリック

◀ホームページの更新は、インターネットに接続しますので、電話料金、接続料金がかかります。
インターネットへ接続する際には、電話回線の接続を確認してください。（→39ページ）

※取得したホームページは特別なフォルダーにファイルとして一時的に蓄えられます。これらのファイルを消すとウェブナビゲーターでホームページ情報を見られなくなります。

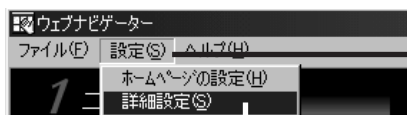
更新について
制限時間内（工場出荷時最長約14分*、１つのホームページあたり最長約１分以内）にすべて更新できなかった場合でも、途中までのデータは蓄えられます。そのため、２回目以降は同じページを速く更新できます。
*次ページの詳細設定で接続時間の制限（時間制限）を変更できます。

◀更新中、スクリーンセーバーは起動しません。

◀更新すると、「おまかせ」「お知らせ」のホームページは変更され、以前の内容は失われます。現状のホームページを残しておきたい場合、そのホームページをほかのグループに移しておいてください。（→58ページ）

ホームページを幅広く閲覧する（ウェブナビゲーター）

表示スピードや更新時の条件を変更する（詳細設定）

画面上でホームページが切り換わる速さを変えたり、ホームページ更新時のさまざまな条件を変更できます。また、最新のホームページリスト（URL集）に更新できます。

1. 「設定」を クリック
2. 「詳細設定」を クリック

設定されている「ダイヤルアップの設定」を変更したり新しい接続を追加したりすることができます。（→47ページ）

をクリックするか、□をドラッグして設定します。

時間制限：3分〜30分

切り換えの速さ：0.5秒〜5.0秒

画面切り換えの表示方法を選びます。お好みに応じて変更してください。

インターネットに接続して、Hi-HOのホームページから最新のホームページリスト（URL集）を取得します。画面の指示に従って操作してください。

[OK]を クリック

お願い

省電力機能「PowerPanel」の「ビデオオフ」は、「オフ」または接続時間よりも長い時間に設定しておいてください。更新中にディスプレイの電源が切れた場合、6分割画面でのホームページの表示が正しく行われません。

◀接続設定が正しくないと、ホームページを更新できません（→56ページ）。「Internet Explorer」などを使って、この設定でインターネットに接続できること確認した後、ウェブナビゲーターを起動してください。

◀ホームページのデータ量や更新時の回線の状態によっては、すべてのホームページを更新するために、インターネットへ接続する時間を延長する必要がある場合があります。

◀<u>ホームページリストの更新は、インターネットに接続しますので、電話料金、接続料金がかかります。</u>URL集は、データ料金なしで取得できます。

電子メールを送受信する

通信機器を接続し、プロバイダーに加入し、通信の設定が終わったら（→39～49ページ）、メールソフトの「Outlook™ Express 5（アウトルックエクスプレス）」を使って、メールを送受信してみましょう。

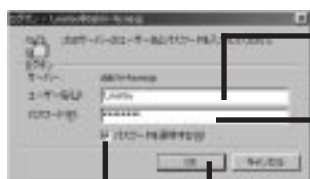
◀以降Outlook Expressと記載します。

電子メールを送信する

1 デスクトップの「Outlook Express」アイコンをダブルクリックする。

① 変更する場合は、▼ をクリックし、接続先を選ぶ。

(→右記)

② 「接続」を クリック

① 登録したメールアカウントになっていることを確認する。

② メールパスワードを入力する。（→45ページ）

(→右記)

③ クリック

◀左記は、「インターネットスタータ－」により自動作成された「Panasonic Hi-HO」を使用する場合を例にしています。

パスワードを保存する

この項目をクリックして、チェックマークを付けておくと、次回からパスワードの入力が不要です。

◀[オフライン作業]を選ぶと、オフライン状態（電話料金がかからない状態）でメールを作成することができます。

◀自分で新しく設定したダイヤルアップ接続を選ぶこともできます。その接続を初めて使用する場合には、ユーザー名とパスワードに何も表示されませんので、自分で入力してください。パスワードはセキュリティ保護のため「*」で表示されます。

（ダイヤルアップ接続の作成方法→47ページ）

2 メッセージを作成する画面を表示する。

<初期画面>

「メッセージの作成」を クリック

3 「宛先」を入力する。

① 「宛先」にポインターをあわせて クリック

<メッセージの作成画面>

② メールアドレスを半角の英数字で入力する。

◀最初は試しに自分宛にメールを送ってみましょう。

◀ Alt ＋ 半角/全角 を押して英数入力モードに切り換えると、英数字を入力できるようになります。

メールアドレスに使われる記号の入力方法

・アットマーク（@）は [@] 、ピリオド（．）は [.] 、ハイフン（-）は [-]

・アンダーバー（＿）やチルダ（～）については→51ページ

使いかた　コミュニケーション

電子メールを送受信する

4 「件名」を入力する。

2 件名（タイトル）を入力する。

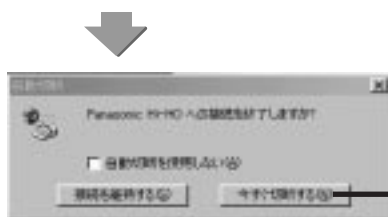
5 「本文」を入力する。

1 ポインターをあわせて クリック

2 本文を入力する。

6 送信する。

メールが送信されます。

<「Outlook Express」を終わるには>

◀電子メールには、半角のカタカナと丸付き数字（①②）などの特殊文字は使わないでください。相手先で読めなくなる場合があります。相手先がHTML形式のメールを受け取れる場合以外は、[ツール]→[オプション]→[送信]で、「テキスト形式」にチェックマークを付けておいてください。

◀オフライン状態で[送信]ボタンをクリックするとメールは[送信トレイ]に入ります。[送受信]ボタンをクリックすると、手順*1*の画面が表示されます。

◀送信と同時にメッセージの作成画面を終了し、「Outlook Express」の初期画面に戻ります。

送信トレイにメールを入れるには
[送信]ボタンをクリックするかわりに、[ファイル]→[後で送信する]をクリックしてください。

[送信トレイ]の中のメールの送信
[送受信]ボタンをクリックすると送信されます。
また、Outlook Express終了時に[送信トレイ]にメールが残っている場合は、送信するかどうかの確認メッセージが表示されます。

◀この画面は、他の画面の後ろに隠れてしまうことがあります。その場合、タスクバーの「自動切断」をクリックしてください。

◀オンライン状態からOutlook Expressを起動した場合は、この画面が表示されません。手動で終了してください。

アドレス帳を利用する

よくメールを送る相手のメールアドレスは、アドレス帳に登録しておくと便利です。

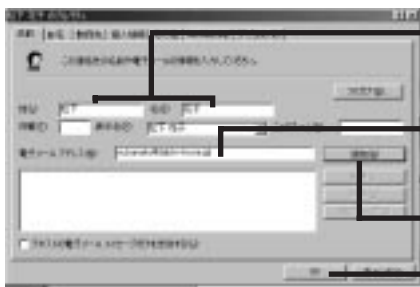
アドレス帳に登録する

1 「Outlook Express」の初期画面を表示する。
（→63ページ）

[アドレス]を クリック

2 アドレス帳に新規登録する。

① [新規作成]を クリック

② [新規の連絡先]を クリック

① 「姓」「名」を入力する。

② メールアドレスを入力する。

③ [追加]を クリック

④ [OK]を クリック

3 アドレス帳を終わる。

☒を クリック

登録したアドレス

◀メッセージの作成画面（→63ページ）からアドレス帳に登録する場合は、「ツール」→「アドレス帳」を順にクリックしてください。

◀受信メール一覧画面（→68ページ）でも[アドレス]をクリックしてアドレス帳に登録することができます。

◀ Alt ＋ 半角/全角 を押すごとに、日本語入力モードと英数字入力モードが切り換わります。

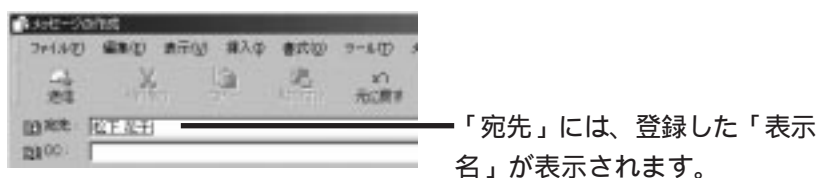
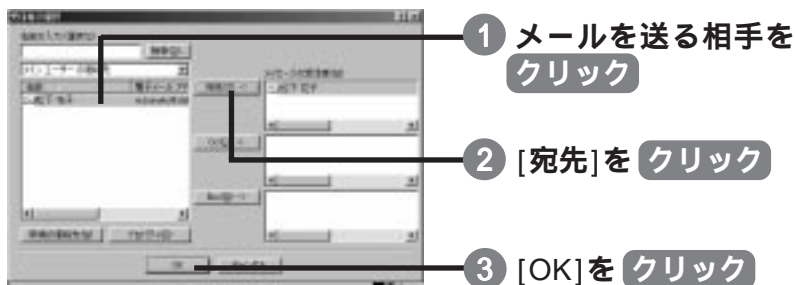
◀表示名
姓名の欄に入力した内容がそのまま「表示名」に表示されます。必要に応じて変更してください。
「表示名」は、アドレス帳からメールアドレスを入力したときに、「宛先」として表示されます（→次ページ）。

電子メールを送受信する

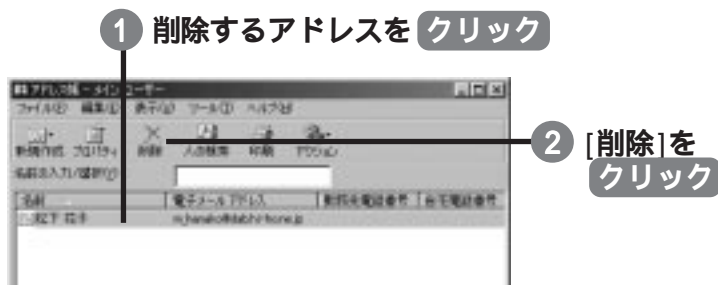
登録したメールアドレスを入力するには

1 「Outlook Express」のメッセージの作成画面を表示する。
(→63ページ)

2 アドレス帳のメールアドレスを宛先に入力する。

「宛先」には、登録した「表示名」が表示されます。

アドレス帳からメールアドレスを削除するには

1 アドレス帳の画面を表示する。(→前ページ、手順*1*)

① 削除するアドレスを クリック

③ 確認メッセージが表示されたら[はい]を クリック

2 アドレス帳を終わる。

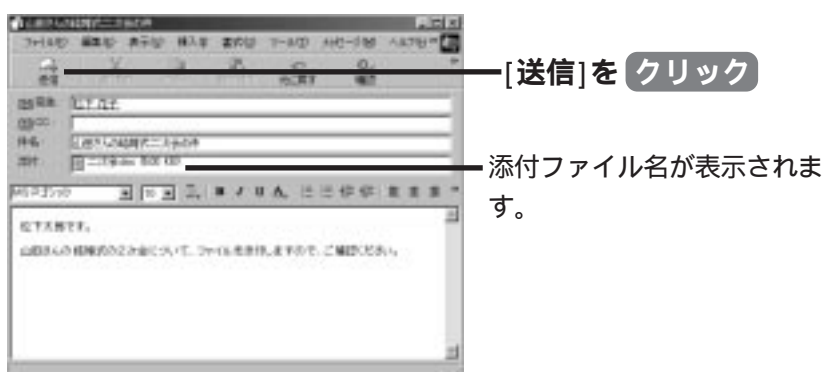
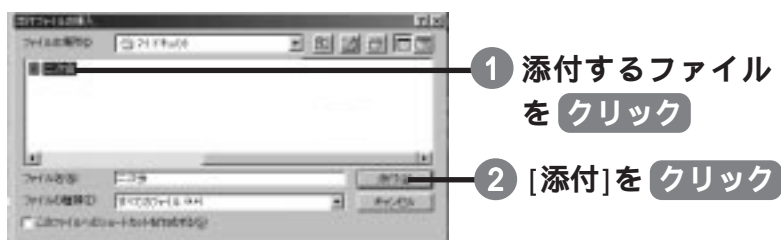
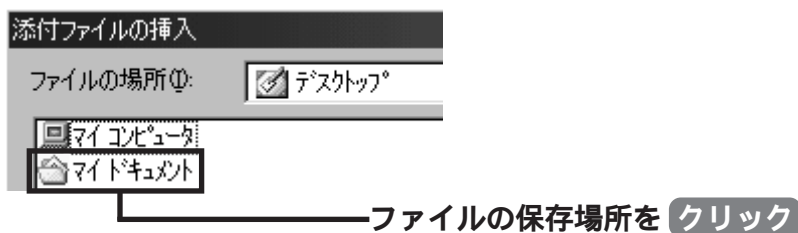
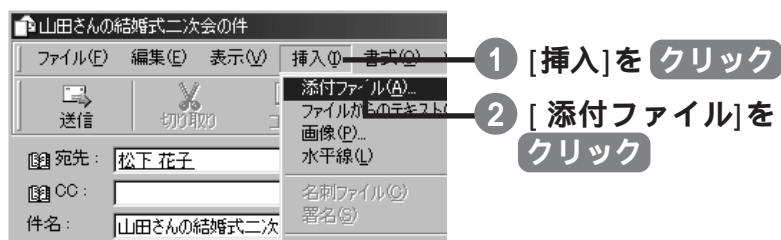
使いかた

コミュニケーション

メールにファイルを添付して送る

まとまった量の文書や画像の入った文書をメールに添付して送ることができます。

1 メッセージの作成画面を表示し、宛先、件名、メッセージを入れる。（→63、64ページ）

2 ファイルを添付する。

◀「マイ ドキュメント」フォルダーに保存したファイルを添付する例で説明します。

◀フォルダーを開く方法について詳しくは→取扱説明書『セットアップ編』

もしも、添付ファイルを受け取ったら

添付ファイルのアイコンをダブルクリックし、画面の指示に従って添付ファイルを開くか、保存するかしてください。その際は、ウィルスチェックプログラムを常駐させておくことをおすすめします。

◀「Outlook Express」を終わるには→64ページ

使いかた

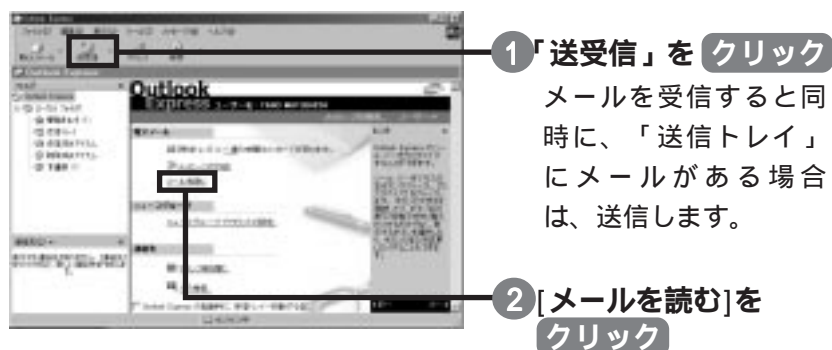
コミュニケーション

電子メールを送受信する

電子メールを受信する

1 「Outlook Express」の初期画面を表示する。
（→63ページ）

❶「送受信」を クリック
メールを受信すると同時に、「送信トレイ」にメールがある場合は、送信します。

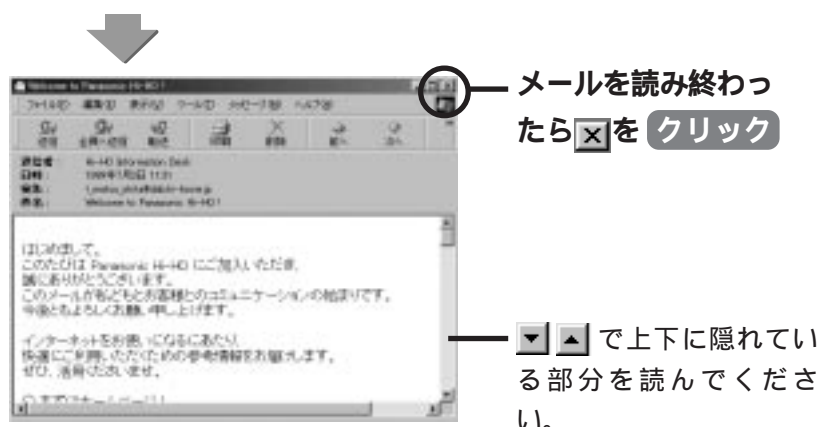
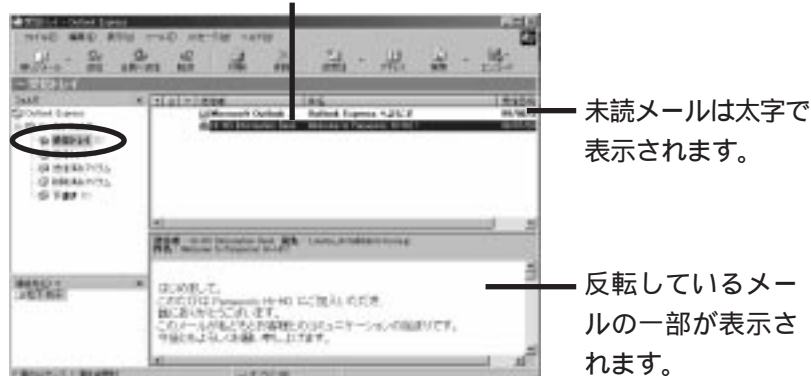
❷[メールを読む]を クリック

2 受け取ったメールを読む。

<受信メール一覧画面>
目的のメールの件名を ダブルクリック

未読メールは太字で表示されます。

反転しているメールの一部が表示されます。

メールを読み終わったら ☒ を クリック

▼ ▲ で上下に隠れている部分を読んでください。

◀表示するトレイ（→下記）を変更する場合、目的のトレイをクリックしてください。

トレイの種類
- 受信トレイ
  受信したメールが保管されます。（左記画面）
- 送信トレイ
  作成したメールを一時的に保管する場所です。複数個のメールが送信トレイにたまったら[送受信]をクリックして、まとめてメールを送信できます。
  （送信トレイにメールを入れるには→64ページ）
- 送信済みアイテム
  送信したメールが保管されます。
- 削除済みアイテム
  削除したメールはここに一時保管されます。（→下記）

受け取ったメールを削除するには

受信メール一覧画面で削除したいメールに矢印をあわせて、 Del を押すか[削除]ボタンをクリックします。その時点で、削除済みアイテムに一時保管されます。
削除済みアイテムからも削除するにはそのメールに矢印をあわせて、 Del を押すか[削除]ボタンをクリックしてください。また、「Outlook Express」終了時にまとめて削除するよう設定することもできます。

受け取ったメールに返事を出すには

受信メール一覧で[返信]ボタンをクリックします。

メールの自動送受信機能を使う

「メールの自動送受信」機能を使うと、自動でメールの送受信を行うことができます。この機能を使用するには、「アクセスポイントの設定」を行った後、「スタート」メニューから「メールの自動送受信」を選んでください。

アクセスポイントの設定

1 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[アクセスポイント設定]をクリックする。

◀ラウンチャーを起動し（→29ページ）、アクセスポイント設定アイコンをダブルタップしても同様の操作をすることができます。

2 「アクセスポイント一覧」から自動接続したいダイヤルアップ接続を選んで、[追加]をクリックする。

LANを使用する場合は、「ダイヤルしない」の左側の□にチェックマークを付けてください。

追加ボタンで選んだダイヤルアップ接続の名称は、「自動接続する優先順位」に移動します。「自動接続する優先順位」の上位に表示されているものから、優先的に接続されます。

「アクセスポイント一覧」には、登録済みのダイヤルアップ接続の名称が表示されています。

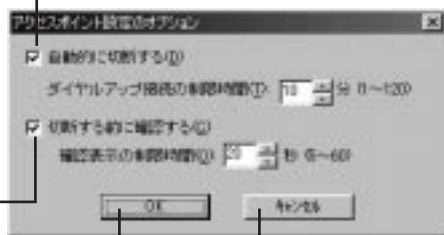
3 「自動接続する優先順位」に表示されているダイヤルアップ接続を選んで、[オプション]をクリックする。

お願い

Outlook Expressの[ツール]→[アカウント]→[メール]→[プロパティ]→[接続]で「このアカウントには次の接続を使用する」のチェックマークを外しておいてください。「インターネットスターター」で自動設定した場合、このチェックマークは外されています。

4 オプション設定をする。

メールの送受信後に回線を切断したい場合は、チェックマークを付けてください。また「...接続の制限時間」で設定した時間が経過すると、メールの送受信中であっても強制的に回線が切断されます。（工場出荷時は10分に設定されています。）

回線を自動的に切断する際に、確認メッセージを表示したい場合は、チェックマークを付けて時間を設定してください。（工場出荷時は20秒に設定されています。）

変更を保存します。

変更を取り消します。

5 アクセスポイント設定画面で[OK]をクリックする。

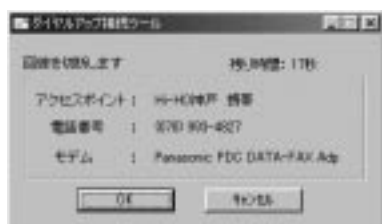
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに終了します。

電子メールを送受信する

メールを自動送受信する

1 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[メール自動送受信]をクリックする。

自動的にOutlook Expressが起動し、メールを受信します。
また、送信トレイに送信用メールがある場合は、そのメールを送信します。

メールの送受信が終了したら、回線の切断を確認する画面が表示されます。

◀ラウンチャーを起動し（→29ページ）、アクセスポイント設定アイコンをダブルタップしても同様の操作をすることができます。
◀相手が話し中の場合は、1分間隔で3回まで接続を試みます。3回とも話し中の場合やその他のエラーが発生した場合は次のアクセスポイントへの接続を開始します。
◀すでに、他の接続が行われている場合は、確認画面で[継続]をクリックしてください。
◀その接続へはじめてつなぐ場合、ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されますので、それぞれを入力して「パスワード保存」にチェックを付け、[接続]をクリックしてください。

お願い

- メールの送受信が完了するまで、キーやスマートポインターは操作しないでください。
- メールの送受信中にエラーメッセージ画面が表示された場合は、「非表示」ボタンをクリックしてください。回線の切断を確認する画面が表示されます。
- Outlook Express以外のメールソフトについては動作を保証しません。

◀アクセスポイントのオプション設定で設定している場合のみ
→前ページ

送信トレイにメールを入れるには
Outlook Expressの[ツール]→[オプション]→[送信]設定で、「メッセージを直ちに送信する」のチェックマークを外しておき、メール作成後、[送信]をクリックしてください。

イラストメールを送信する

イラストメール機能を使って、文字で形作られたイラストサンプルの中から好きなイラストを選んで、電子メールで送ってみましょう。
たくさんのイラストサンプルの中から、用途やそのときの気分に合ったものを選ぶことができます。また、イラストの登録や削除を自由に行い、自分専用のイラスト集を作ることもできます。

◀ 選んだイラストは、いったんクリップボードにコピーして文書に貼り付けることもできます。

イラストメールを送信する

ここでは、選んだイラストを電子メールに挿入して送信するまでの手順について説明します。

1 使用するメールソフトの環境を設定する。

使用するメールソフトで、フォントを「MSゴシック」などの等幅フォントに設定し、送信の形式をテキスト形式に設定してください。
また、[E-メール]ボタンを使ってメールソフトを起動するには（→76ページの手順7）、メールソフトをMAPI対応に設定しておく必要があります。

◀ 字詰めを行う「MS Pゴシック」などを使用すると、イラストがくずれる場合があります。また、HTML形式に設定していると、一部の文字が別の制御コードに変換され、イラストが正しく表示されないことがあります。

MAPI対応の設定
メールソフトによっては、はじめからMAPI対応になっているものもあります。また、MAPI対応にはできないものもあります。
Outlook Express 5は、はじめからMAPI対応になっています。

◀ その他の主なメールソフトについては、イラストメール画面で[ヘルプ]→[イラストメールのヘルプ]をクリックして、「表示フォントの設定方法」と「MAPIの設定方法」をご覧ください。

＜Outlook Express 5を使用する場合の設定方法＞

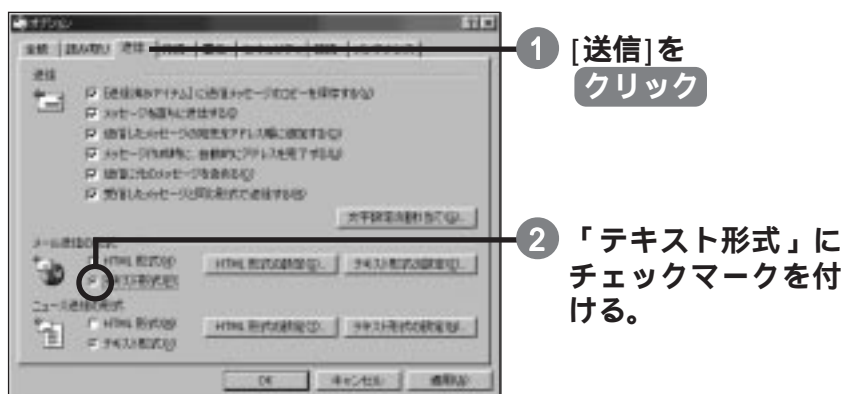
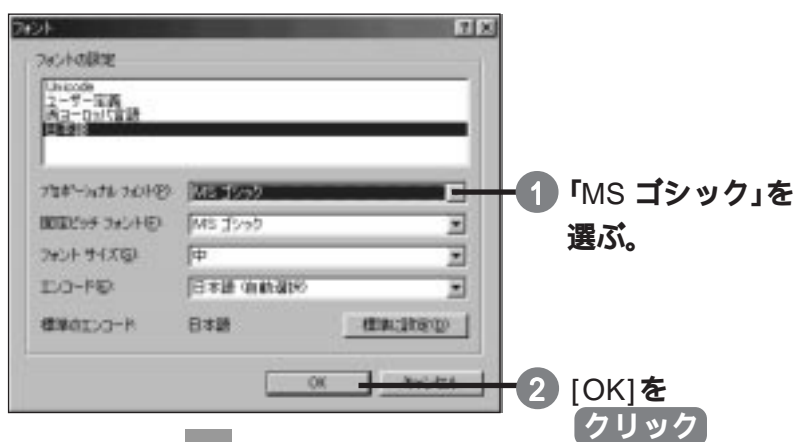
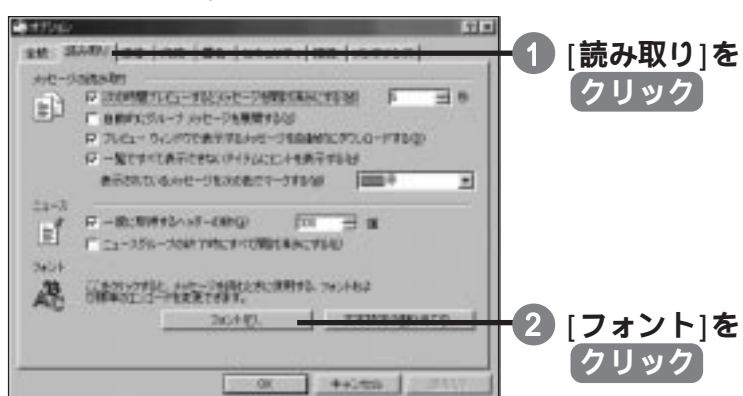
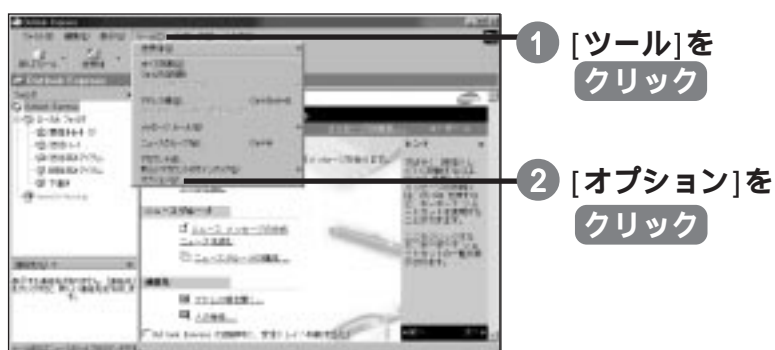
2 エラーメッセージが表示されたら、[表示しない]を クリック

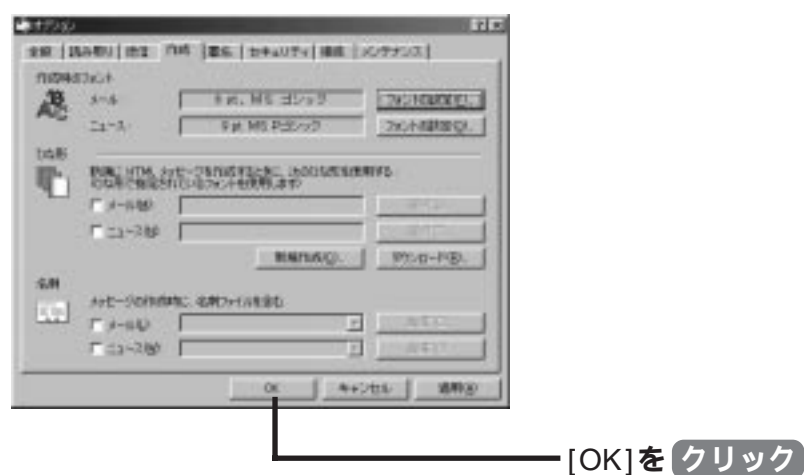
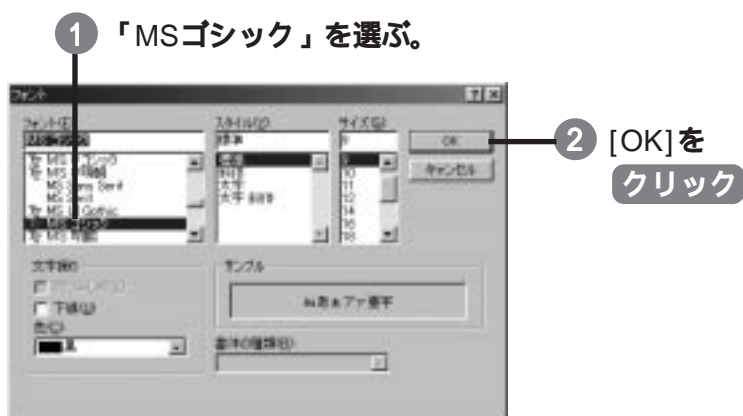
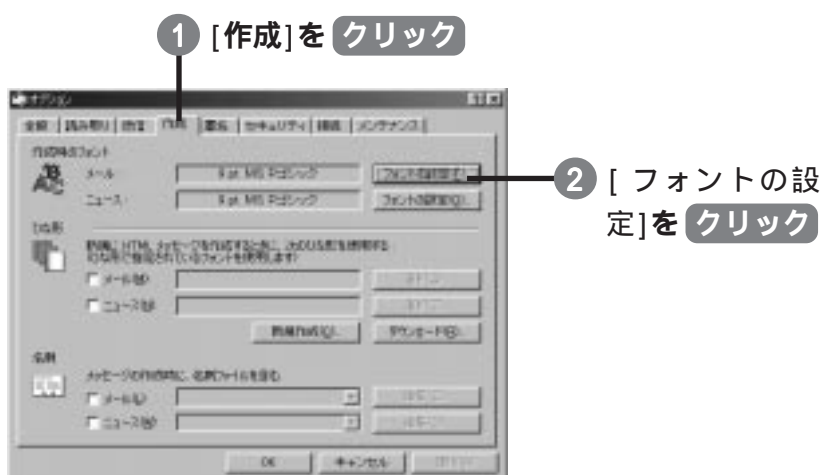
（次ページへ続く）

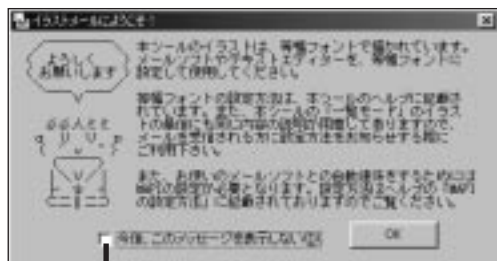
用 語

MAPI (Messaging API)	：電子メッセージングアプリケーションのための標準システムインターフェースのことで、アプリケーションが個別に持っている情報を一元的に管理します。

イラストメールを送信する

（次ページへ続く）

使いかた

コミュニケーション

イラストメールを送信する

2 デスクトップの[イラストメール]アイコンをダブルクリックする。

次回起動時からこの画面を表示したくなければ、ここにチェックマーク✓を付けます。

◀[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[イラストメール]をクリックしても、起動することができます。

3 画面の説明を読んで、[OK]をクリックする。

イラストのジャンルを示す「フィーリングマップ」を切り換えます。

表示中のイラストをクリップボードにコピーします。

電子メールのメッセージ作成画面を起動します。

イラストの候補を表示します。

自分でテキストイラストを作り、登録します。

◀ここでコピーしたイラストは、メールソフトのメッセージ作成画面やワードパッドなどに「貼り付け」や「ペースト」機能を使って挿入することができます。

4 [フィーリングマップ]をクリックして、マップの種類を選ぶ。

マップには、下記の3種類があります。

春夏秋冬：季節にあったイラストを選ぶことができる。
喜怒哀楽：感情や感性にあったイラストを選ぶことができる。
用途別　：「祝福」や「案内」など様々な用途にあったイラストを選ぶことができる。

◀[フィーリングマップ]をクリックするごとに、3種類のマップが順に切り換わります。

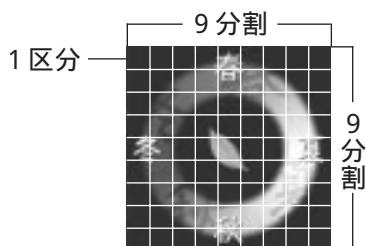
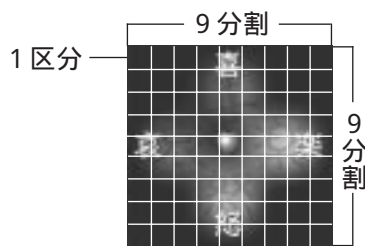
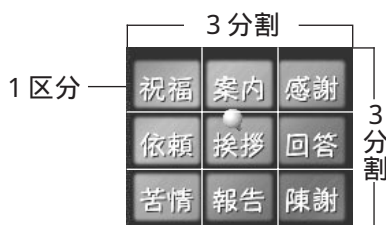
5 フィーリングマップ上をクリックしてイラストを選ぶ。

例えば「春」と表示された周辺をクリックすると、春らしいイラストを選ぶことができ、「夏」と表示された周辺をクリックすると、夏らしいイラストを選ぶことができます。

◀クリックした位置にポインター（、♡、）が移動します。

フィーリングマップの区分について

各区分に対して、複数個のイラストが登録されています。
[次候補]をクリックすると、選んだ区分に登録された次の候補が表示されます。[前候補]をクリックすると一つ前の候補が表示されます。

「春夏秋冬」の場合

「喜怒哀楽」の場合

「祝福」「案内」など用途別の場合

◀ ポインター（ 、 、 ）は、[←]、[→]、[↑]、[↓]で各区分ごとに移動させることもできます。

学習機能について

学習機能とは、使用頻度の高いイラストが優先的に表示されるように、フィーリングモードでの表示順序を入れ替える機能です。一覧モード（→下記）の順番は入れ替えません。学習機能を使用する場合は、イラストメール画面で[設定]→[学習ON]をクリックしてチェックマークを付けてください。工場出荷時には学習ONに設定されています。

＜表示順序を工場出荷時の状態に戻すには＞

イラストメール画面で[設定]→[学習内容のリセット]をクリックしてください。ただし「学習ON」にチェックマークが付いていない状態では、「学習内容のリセット」を選ぶことができません。

一覧モードでイラストを選ぶ方法

表示モードを切り換えてイラストを一覧から選ぶこともできます。

①[表示]→[一覧モード]をクリックする。
　イラストが一覧で表示されます。[次ページ][前ページ]をクリックすると、ページ単位で画面表示が切り換わります。

②好きなイラストをクリックする。または、[←]、[→]、[↑]、[↓]を使って選ぶ。
　選択されたイラストは青色の枠で囲まれます。
　フィーリングモードに戻したい場合は、[表示]→[フィーリングモード]をクリックしてください。

イラストメールを送信する

6 ［設定］をクリックし、「E-メール連携ON」にチェックマーク✓が付いていることを確認する。

工場出荷時には、すでにチェックマークが付けられています。

◀ チェックマークが付いていない場合は、「E-メール連携ON」を選んでチェックマーク✓を付け、確認のメッセージが表示されたら［ON］をクリックしてください。

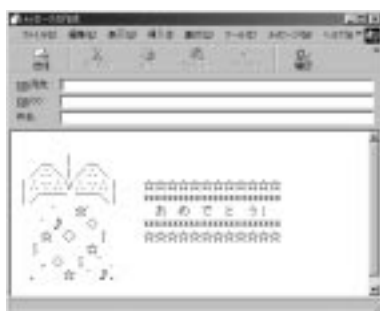
お願い

［E-メール］ボタンを使ってメールメッセージ作成用画面を起動したい場合は、必ず「E-メール連携ON」にチェックマークを付けてください。

7 ［E-メール］をクリックする。

確認のメッセージが表示された場合は、内容を確認のうえ、［はい］をクリックしてください。
選んだイラストが挿入された状態で、メールメッセージ作成用の画面が起動します。

（例）「Outlook Express」を使用する場合

お願い

［E-メール］ボタンを使ってメールメッセージ作成用画面を起動するには、メールソフトをMAPI対応に設定しておいてください。（→71ページ手順*1*）

◀ ［E-メール］ボタンを使用時には、メールメッセージ作成用画面に署名を自動で追加することはできません。

◀ ［コピー］をクリックすると、選んだイラストがクリップボードにコピーされます。2つ以上のイラストをメッセージに挿入する場合や、イラストを文書に貼り付ける場合などにご利用ください。

8 宛先、メッセージ等を書き加えて、メールを送信する。

◀ 送信のしかたなどについて詳しくは63ページをご覧ください。

テキストイラストを挿入した文書を読む

- フォントを「MSゴシック」などの等幅フォントに設定しておく必要があります。字詰めを行う「MS Pゴシック」などを使用すると、イラストがくずれる場合があります。
  イラストサンプルの中に、主なメールソフトの等幅フォントの設定についての説明文を用意しています。（一覧表示モードの最後のほうにあります。）テキストイラストをはじめて読むかたには、メッセージにその説明文を挿入して送ると便利です。内容は[ヘルプ]→[イラストメールのヘルプ]の「表示フォントの設定方法」と同じです。
- 一部のメールソフトやワープロソフト、また携帯電話のメール機能では、連続するスペースを省略するなど自動的に文字列を変換するものがあります。その場合、等幅フォントに設定しても、イラストが正しく表示されないことがあります。

自分専用のテキストイラスト集を作る

自分で作成（変更）したイラストを登録する

1 フィーリングモードまたは一覧モードから元となるイラストを選んで（71ページ手順1〜74ページ手順5）、[登録]をクリックする。

2 イラストを編集する。

他のテキストエディター（メモ帳など）で作成したテキストイラストを登録したい場合には、いったんそのイラストをクリップボードにコピーした後、[貼り付け]をクリックします。

表示されているイラストを削除して、新規にイラストを作成する場合は、[クリア]をクリックします。

◀ 桁数：全角24文字、行数：10行の範囲内で編集してください。
また、半角カタカナ、ローマ数字、丸数字や一部の記号など、通常、電子メールソフトで正しく表示されない文字は使用しないでください。
送信したイラストが正しく表示されない場合があります。

3 イラストが完成したら、[次へ]をクリックする。

◀ 一つ前の画面に戻るには、[戻る]をクリックしてください。
◀ 登録操作を途中で中断して終了するには、[キャンセル]をクリックしてください。

4 「春夏秋冬」のマップ上に登録する。

① フィーリングマップ上の登録したい位置を クリック

② [次へ]を クリック

◀ 表示されているマップに登録しない場合は、[指定しないで次へ]をクリックしてください。

使いかた

コミュニケーション

5 「喜怒哀楽」のマップ上に登録する。

❶ フィーリングマップ上の登録したい位置を クリック

❷ [次へ]を クリック

◀ 表示されているマップに登録しない場合は、[指定しないで次へ]をクリックしてください。

6 用途別のマップ上に登録する。

❶ フィーリングマップ上の登録したい位置を クリック

❷ [次へ]を クリック

◀ 表示されているマップに登録しない場合は、[指定しないで次へ]をクリックしてください。

7 イラストにタイトルなどを付ける。

❶ 「タイトル」と「製作者」を入力する。

❷ [完了]を クリック

◀ 「タイトル」は全角16文字以内、「製作者」は全角8文字以内で入力してください。

◀ 最初、「製作者」にはWindowsのログイン名が表示されています。

フィーリングマップ上の指定した位置に、イラストが登録されます。
一覧モードでは、一番最後の位置に登録されます。

登録されているイラストを削除する

1 フィーリングモードまたは一覧モードから、削除したいイラストを選んだ状態で、[編集]→[イラスト削除]をクリックする。

2 確認メッセージが表示されるので、よければ[はい]をクリックする。

お願い

一度削除したイラストは、元に戻すことはできません。よく確認してから削除してください。

赤外線通信をする

本機の赤外線通信ポートを使うと、赤外線通信機能を持ったほかのコンピューターとケーブルを接続することなく通信することができます。

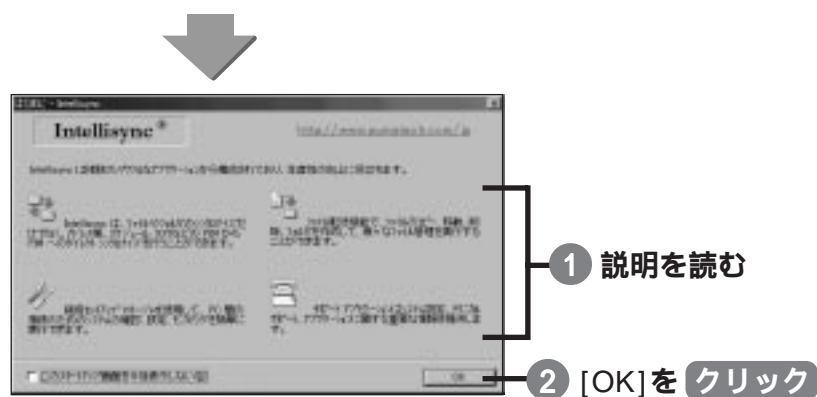
◀ここでは、「Intellisync® for Notebooks」（以降、Intellisyncと表記します）を使って、赤外線通信を行う場合を例にして説明します。

1 互いのコンピューター上で、赤外線通信ポートを使用可能に設定しておく。

- セットアップユーティリティーの「詳細」メニューの「赤外線通信ポート」を「自動」に設定する。（→110ページ）
- 「コントロールパネル」の「赤外線モニタ」の「オプション」で「赤外線通信を使用可能にする」のチェックマークを外す。

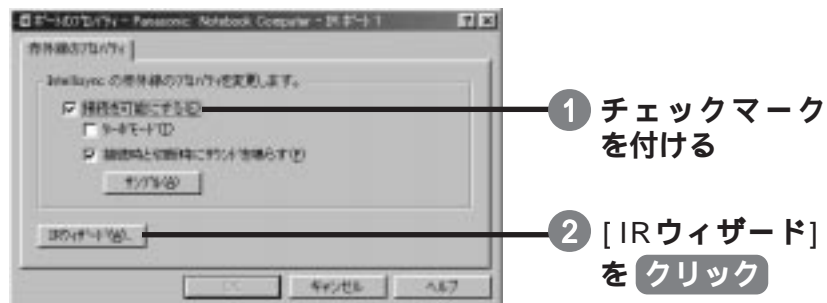
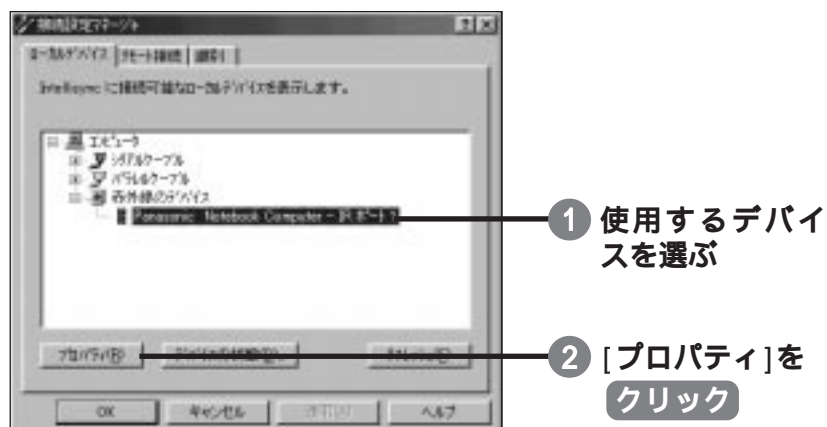
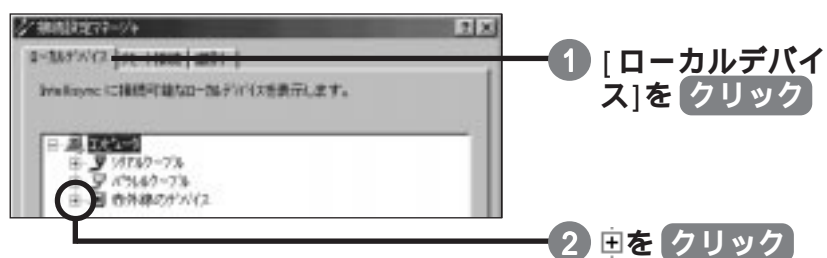
◀工場出荷時にはどちらも、左記の設定になっています。

2 必要に応じて互いのコンピューターのボーレートを設定する。

[スタート]→[プログラム]→[Intellisync]→[Intellisync エージェント]を クリック

「使用許諾同意書」画面が表示されたら、内容を確認し「承諾する」を クリック

◀はじめて起動したときのみ表示されます。

（次ページへ続く）

◀ ターボモードにはチェックマークを付けないでください。通信が途切れたり、送信側のコンピューターが正常に動かなくなったりすることがあります。

[次へ]を クリック し、画面の指示に従って操作し、ボーレートを設定して[完了]を クリック

◀ ボーレートは、2つのコンピューターを比べて小さい方の値に合わせてください。その他の設定は工場出荷状態から変更する必要はありません。

（次ページへ続く）

[OK]を クリック

3 互いのコンピューターを赤外線通信が行えるように設置する。

<設置時に気をつけること>
- お互いのポートが真正面に向きあうように設置する。
- ポート間の距離を20cm～50cmの範囲に設置する。

<以下のような場合、正常に通信できません>
- お互いのポート間に障害物があるとき
- 近くでテレビ、ビデオ、ワイヤレス・ヘッドホン、ストーブなどが動作しているとき
- 直射日光や蛍光燈、白熱灯などの光がポートにあたっているとき

◀ 省電力ユーティリティーソフトウェア「PowerPanel」（→84ページ）による省電力機能を働かせているとき、正常に通信できない場合があります。

4 赤外線通信を行う。

◀ ファイル転送などの操作について詳しくは、ヘルプをご覧ください。

お願い

各機能の画面を開いている状態では、スタンバイおよび休止状態に入らないでください。リジューム後、各機能が正常に動作しなくなります。

5 赤外線通信を終了する。

「ファイル転送」や「シンク」の画面で、[ファイル]→[閉じる]を クリック

◀ Intellisyncエージェントも終了する場合は、メイン画面の右上の ✕ をクリックしてください。

Intellisyncのバックアップディスクを作成するには

[スタート]→[プログラム]→[Intellisync]→[メイクディスク]をクリックしてください。バックアップディスクを作成するには、2HDのフロッピーディスクが10枚必要です。

通信が途切れたり、送信側のコンピューターが正常に動かなくなる場合

複数のファイルをまとめて送信している場合は、分割して送信してみてください。また、1つのファイルであってもファイルの容量が大きい場合は、ファイルを圧縮してから送信してみてください。（ファイルを圧縮するには別途、圧縮用プログラムが必要です。）

省電力機能を使う

外出先などコンセントのない場所では、コンピューターをバッテリーだけで使うことが多くなります。次のようなことに注意して、バッテリーを効率よく使いましょう。

省電力機能のコツ

●使わないときは電源を切る　→取扱説明書『セットアップ編』

● Fn + F1 でディスプレイの明るさを調整（暗く）する
→119ページ

◀省電力ユーティリティープログラム「PowerPanel」では、ディスプレイの明るさを調整することはできません。

● Fn + F10 でスタンバイ状態、または Fn + F7 で休止状態にしてから席を外す
操作を再開するときは、電源スイッチをスライドしてください。
→36ページ

●省電力機能を設定する　→下記
省電力ユーティリティープログラム「PowerPanel™」を設定してください。

◀「電源設定」（[コントロールパネル]→[電源の管理]）の各種タイムアウト設定は使用しないでください。設定内容が正常に動作しない場合があります。
「電源設定」で設定できる各種タイムアウトは、「PowerPanel」で設定できます。

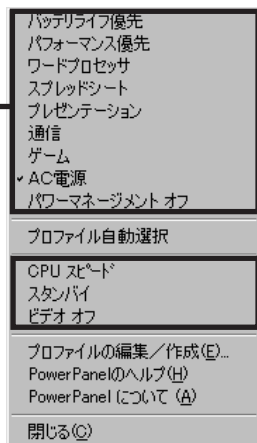
PowerPanel™で省電力設定をする

＜PowerPanelの主な省電力機能＞
・タイムアウト（タイマー）機能
しばらくの間コンピューターを放置したときに自動的にスタンバイ状態に入ったり、LCDやハードディスクドライブの電源を切ったりすることができます。
・CPUスピード変更
CPUスピードを遅くして、電力の消費を抑えることができます。
また、使用するアプリケーションソフトにあわせて、CPUスピードとタイムアウト機能を自動的に設定することもできます。

◀プロファイルの自動選択
→85ページ

省電力機能を使う

PowerPanelメニューの表示

タスクバーの[アイコン]を右ボタンでクリックすると、次のようなポップアップメニューが表示されます。

右記、次ページ

インスタントコマンド
インスタントコマンドは省電力をすぐに働かせたいときに使います。例えば、「ビデオオフ」を選ぶとすぐにLCDの電源が切られます。

プロファイル
PowerPanelは、さまざまな使用状況にあわせた省電力プロファイルを用意しています。各プロファイルごとに、CPUスピード、スタンバイ状態になるまでの時間、LCDやハードディスクの電源を切るまでの時間などが設定されています。バッテリー残量や用途にあわせてプロファイルを1つ選択してください。

バッテリライフ優先
バッテリーパックの長時間稼動を目的とした設定になっています。CPU速度は遅くなります。

パフォーマンス優先
処理速度など、パフォーマンスを優先した設定になっています。

ワードプロセッサ/スプレッドシート/プレゼンテーション/通信/ゲーム
それぞれワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、通信ソフト、ゲームソフトを使う場合に最適な設定になっています。

AC電源
ACアダプターを接続すると自動的にこの設定になります。

パワーマネージメントオフ
省電力機能を使用しない設定です。プロファイルの中で最も電力消費される設定です。

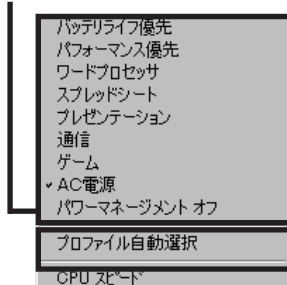
◀電源を入れたとき（再起動したとき）、ACアダプターが接続されている場合は「AC電源」、接続されていない場合は「バッテリライフ優先」になります。

プロファイルの自動選択
ACアダプター使用時とバッテリーパック使用時で、設定を別々に保持することができます。
（例）
バッテリーパックで使用時に、「プロファイル自動選択」にチェックマークを付けておく。
↓
ACアダプターで使用時に、「プロファイル自動選択」のチェックマークを外す。
↓
ACアダプターを外すと、「プロファイル自動選択」にチェックマークが付けられた状態に自動的に戻る。

「閉じる」メニュー
「閉じる」を選ぶとPowerPanelプログラムが終了します。（常駐が解除されます。）
コンピューターを再起動すると、PowerPanelプログラムも、また起動します。

プロファイルの自動選択

起動したアプリケーションを自動判別し、最適なプロファイルに自動的に設定する機能です。例えば、Windows標準のゲームソフト「ソリティア」が起動すると、自動的に「ゲーム」のプロファイル設定で省電力機能が働きます。

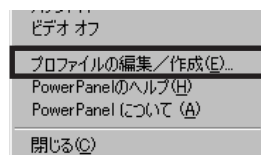
自動選択対象のプロファイル

◀複数起動している場合はアクティブなアプリケーションソフトが優先されます。

お願い

ファイルのダウンロードやデータの送受信を行う場合、「プロファイル自動選択」を選ばないでください。

プロファイルの確認・編集

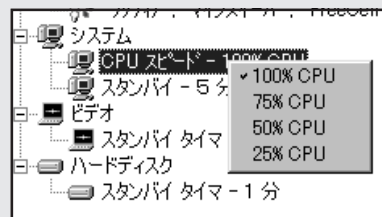
各プロファイルに登録されているCPUスピードやタイムアウト設定を変更したり、各プロファイルに市販のアプリケーションソフトを追加したり削除したりすることができます。

＜プロファイルにアプリケーションソフトを追加する場合＞

1 確認または編集するプロファイルを クリック

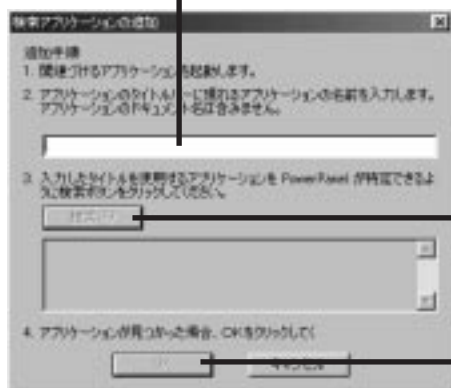
2 ダブルクリック

次ページに続く

◀「ファイル」メニューから「新規作成」を選び、新しいプロファイルを作成することができます。

◀それぞれのプロファイルのCPUスピードやタイムアウト機能の設定を変更することもできます。

使いかた

モバイル

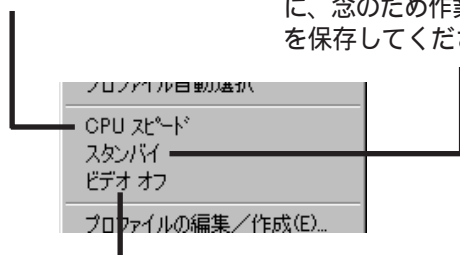
省電力機能を使う

以降画面に従って操作してください。

◀半角、全角は区別されます。正確に入力してください。

◀設定したプロファイルは、いったん、他のプロファイルを選んだ後、「プロファイル自動選択」を選ぶと有効になります。

インスタントコマンドを使う

4段階の速度調節ができます。25 %が最も電力消費を抑えた設定です。

すぐにスタンバイ状態に入ります。スタンバイ状態に入る前に、念のため作業中のファイルを保存してください。

すぐにLCDおよび外部ディスプレイの電源を切ります。

◀CPUスピードを変更すると、現在使用中のプロファイルの設定値も変更されます。

変更した状態を工場出荷状態に戻す場合

①PowerPanelのメニューから[閉じる]を選ぶ。
②[スタート]→[ファイル名を指定して実行]を選ぶ。
③「c:\util\psuite\pcfsav\restore.exe」と入力し、[OK]をクリックする。
④確認のメッセージが表示されるので[OK]をクリックし、もう一度[OK]をクリックする。
⑤[スタート]→[プログラム]→[Phoenix PowerSuite98]→[PowerPanel]→[PowerPanel]を選んで、再度PowerPanelを起動する。

通信機能を使う場合

LAN、モデム、赤外線通信ポート、シリアルコネクターなどを使って通信を行う場合に省電力機能を使うと、データの転送中などにタイムアウト機能が働いてスタンバイ状態になったり、通信が正常に行われない場合があります。通信機能を使う場合、プロファイルはプロファイル自動選択を使わずに手動で「パワーマネージメントオフ」または「通信」を選んでください。

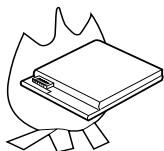
スクリーンセーバーを使う場合

スクリーンセーバーを使用するときは、プロファイルは「パワーマネージメントオフ」を選んでください。ビデオオフやスタンバイのタイムアウト機能が働くとディスプレイが正常に復帰しなかったり、スタンバイや休止状態から正常にリジュームできない場合があります。

バッテリーパックを使う

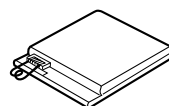
ここでは、バッテリーパックの取り扱いについての注意事項や取り付けかた、充電のしかたなどについて説明します。

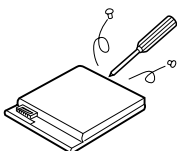
バッテリーパックに関する注意　⚠危険

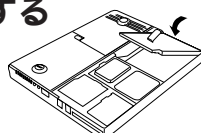
火中に投入したり加熱したりしない

発熱･発火･破裂の原因になります。

ネックレス、ヘアピンなどといっしょに持ち運んだり保管したりしない

発熱･発火･破裂の原因になります。

プラス(＋)とマイナス(－)を金属などで接触させない

発熱･発火･破裂の原因になります。

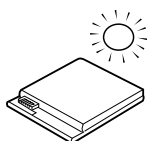
クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解･改造をしたりしない

発熱･発火･破裂の原因になります。

付属の充電式電池は、必ず本機で使用する

<バッテリーパックの例>

CF-L1シリーズ専用の充電式電池です。本機以外に使用すると、発熱・発火・破裂の原因になります。

指定された方法で充電する

取扱説明書に記載された方法で充電しないと、発熱･発火･破裂の原因になります。

火のそばや炎天下など、高温の場所で充電･使用･放置をしない

発熱･発火･破裂の原因になります。

取り扱い上のお願い

●バッテリーパックは一般のごみといっしょに廃棄しないでください。
端子をテープなどで絶縁してから、地方自治体の条例などに従い、廃棄してください。（本機のバッテリーパックは、リチウムイオン蓄電池を使用しています。）

●交換用のバッテリーパックをポケットやカバンに入れて持ち運ぶときは、端子部分がショートするのを防ぐために、ビニール袋に入れることをお薦めします。

●水などで濡らさないでください。端子がさびる原因となります。

●端子部分には触れないでください。端子が汚れると、接触が悪くなったり十分に充電できなかったりすることがあります。

●万一、破損によって電解液が流出し、皮膚や衣服についた場合は、直ちに大量の水で洗い流してください。もし、身体に異常を感じた場合は、医師にご相談ください。

使用温度についての留意点

●使用環境温度5℃～35℃の範囲で操作してください。
使用環境温度が低い場合、バッテリーの稼働時間が短くなります。

●通常の使用時にあたたかくなることがありますが、異常ではありません。

バッテリーパックを使う

取り付けかた/取り外しかた

本機で使用できるバッテリーパックは、付属のバッテリーパックと以下の別売りのバッテリーパックです。
別売りバッテリーパック
・バッテリーパック：　品番 CF-VZSU14J（付属）
　内蔵バッテリーパックとして使用します。
・バッテリーパックアダプターセット：品番 CF-VZSU14PKJ
　バッテリーパックアダプターセットはバッテリーパックとバッテリーアダプターとで構成されています。
　バッテリーアダプターにバッテリーパックをセットしたものを拡張バッテリーと呼びます。

お願い
指定のバッテリーパック以外は使用しないでください。

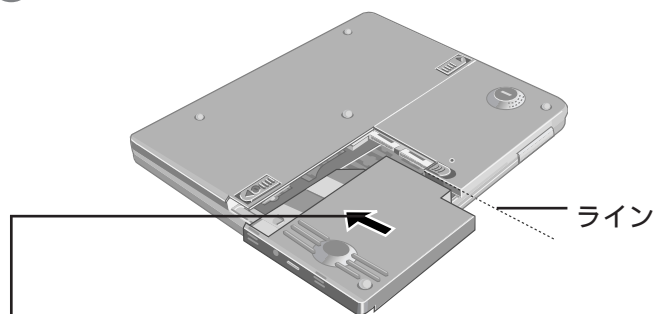
1 操作を終わり、電源が切れたことを確認してACアダプターを取り外す。

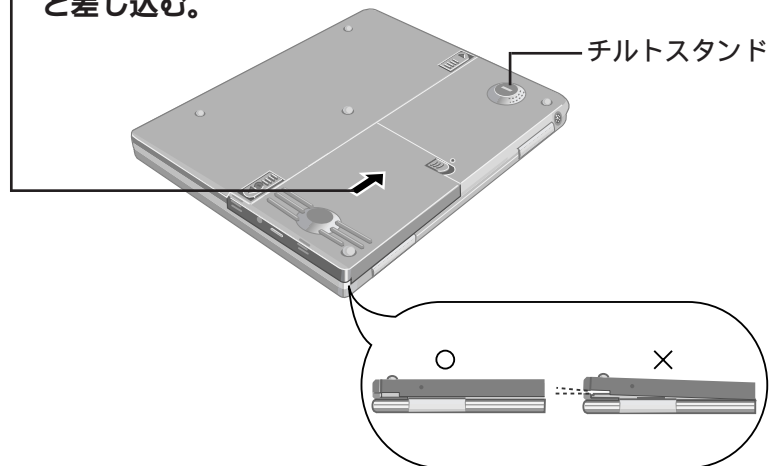
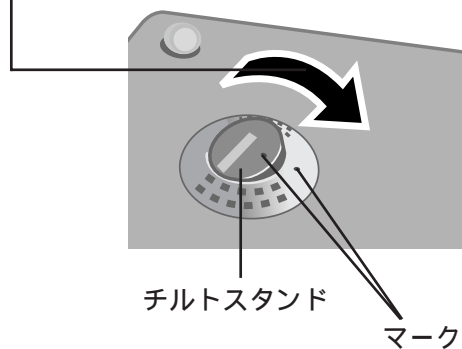
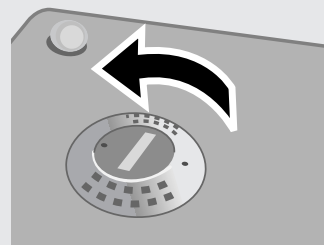
2 本体を裏返す。

3 バッテリーパックを取り付ける／取り外す。
<取り付ける場合>
●バッテリーパック

使いかた　モバイル

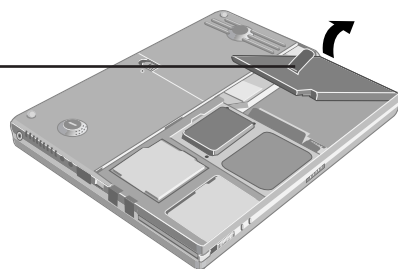
●拡張バッテリー（別売り）

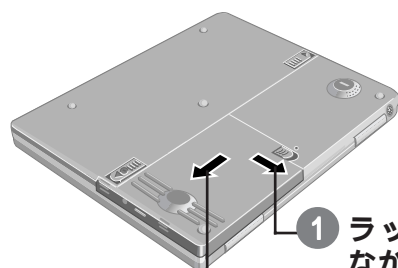
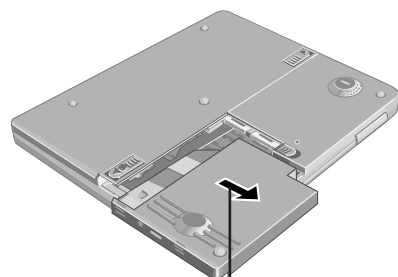
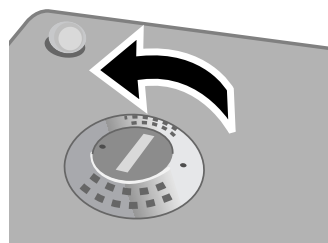
1 CD-ROMドライブを取り外す。(→97ページ)

2 拡張バッテリーをラインに
あわせてスライドする。

3 本体との間にすき間ができないように、奥までしっかり
と差し込む。

4 マークがあうように定規のようなものでチルトスタンド
を回し、高さを調整する。

◀再度CD-ROMドライブを取り付ける場合は、チルトスタンドを回して、高さを元に戻してください。

<取り外す場合>

●バッテリーパック

1. ラッチを外側にスライドしながら、カバーを開ける。
→88ページ

2. 青いタブを持ってバッテリーパックを引き抜く。

3. カバーの端をラインにあわせ、カバーの中央部を軽く押さえながらカバーを閉じる。→88ページ

●拡張バッテリー（別売り）

4. チルトスタンドを回して、高さを元に戻す。

お願い

拡張バッテリーはまっすぐ横に引き抜いてください。

充電のしかた

付属のバッテリーパックは、工場出荷時には充電されていません。
コンピューター本体にバッテリーパックを取り付けた状態でACアダプターを接続すると、自動的に充電が始まります。

◀内蔵バッテリーパックと拡張バッテリーの両方を取り付けている場合は、内蔵バッテリーパックから先に充電されます。

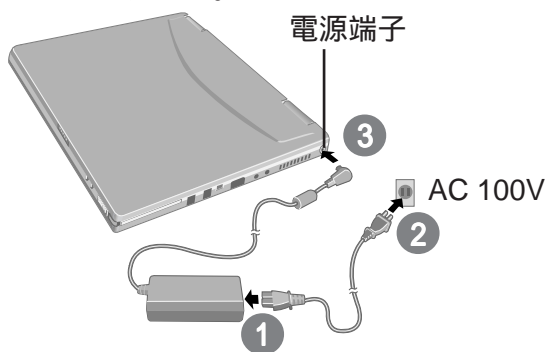
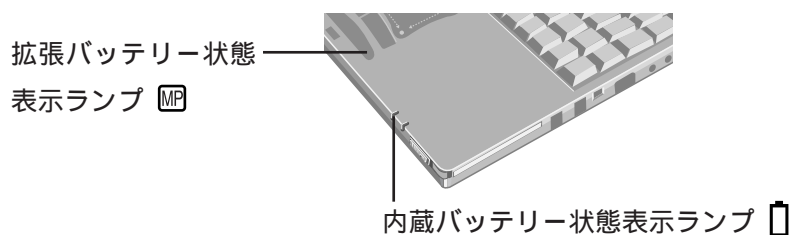
1 ACアダプターを接続する。

◀ACアダプターを取り外す場合は、❸ → ❷ → ❶ の手順で行ってください。

2 充電状態を確認する。

拡張バッテリー状態表示ランプ MP

内蔵バッテリー状態表示ランプ

◀充電を完了するとバッテリー状態表示ランプが緑色に点灯します。

＜充電時間＞

		内蔵バッテリーパック	内蔵+拡張バッテリー
電源	入	約5 時間	約10 時間
	切	約3 時間	約6 時間

＜稼働時間＞

内蔵バッテリーパック	内蔵+拡張バッテリー
約3.5 時間	約7 時間

充電時間
使用条件により長くかかることがあります。（低温の場合など）

稼働時間
左記はCPUスピードが25%でLCDバックライト輝度最低時の稼動時間です。
稼動時間はその他の使用条件によって異なります。

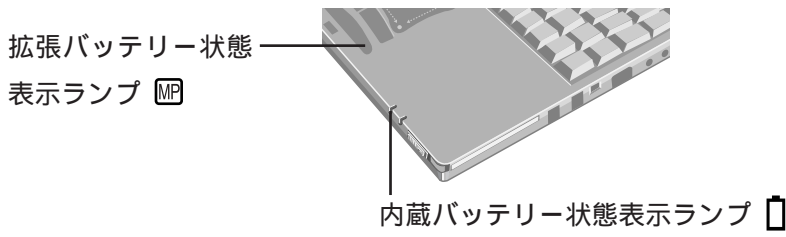
充電についてのお願い

●長期間（約1か月以上）使わない場合は、バッテリーパックの性能維持のため、30 ％ ～ 40 ％程度の充電状態でコンピューターから取り外し、冷暗所に保管してください。
●バッテリーパックを長期間放置していた場合は、使用前に必ず充電してください。この場合、通常の時間で充電が終了しないことがありますが、故障ではありません。
●本機では過充電を防ぐため、満充電に近い状態では再充電できないようになっています。電池残量が90 ％前後になるまで放電してから充電するようにしてください。
●バッテリーパックは消耗品です。バッテリーの駆動時間が著しく短くなり、充電を何度繰り返しても性能が回復しない場合は、バッテリーパックの寿命です。新しいものと交換してください。

（次ページにつづく）

充電についてのお願い（つづき）

- 使用環境温度（5 ℃～35 ℃）の範囲内で充電してください。使用環境温度の範囲外では、また、使用環境温度の範囲内であっても、使用条件によりバッテリーパックの温度が高温あるいは低温になりすぎているときには、充電できない場合があります。（このとき、バッテリー状態表示ランプはオレンジ色に点滅します。）このようなときは、室温を調節したり、しばらくコンピューターの使用を控えるなどしてください。
  バッテリーパックの温度が範囲内に戻ると、自動的に充電が始まります。
- 充電中、バッテリー状態表示ランプが赤色に点滅した場合は、内部の保護回路が働き、充電が中止された可能性があります。このような場合は、いったん、ACアダプターとバッテリーパックを本体から取り外し、再度、取り付けてください。また、このような現象が繰り返し起こる場合は、故障ということが考えられますので、お買い上げの販売店、または「ご相談窓口」にご相談ください。

バッテリー状態表示ランプについて

◀バッテリーパックの状態は内蔵バッテリー状態表示ランプ（▯）で表示されます。
拡張バッテリー装着時には、拡張バッテリーの状態が拡張バッテリー状態表示ランプ（MP）で同様に表示されます。

バッテリー状態表示ランプの状態	充電状態
オレンジ色に点灯	充電中
緑色に点灯	充電完了
赤色に点灯	バッテリー残量なし 充電が必要です。すぐにACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、動作中のプログラムを終了し、Windowsも終了して電源表示ランプ⏻が消えていることを確認してください。
オレンジ色に点滅	充電できない バッテリーパックの温度が使用環境温度の範囲外にあるため、充電できません。充電可能な温度に戻してから、再度、充電を始めてください。
赤色に点滅	バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。再度正しく装着し直してください。それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
消灯	バッテリーパックが装着されていません。あるいはACアダプターが接続されていません。

バッテリー残量の確認

バッテリーのみで使用することが多い場合、こまめに残量確認するようにしてください。バッテリー残量が少なくなったら、ACアダプターを接続してください。
バッテリー残量を確認するには、以下の4つの方法があります。

- キー操作（Fn + F9）で確認する。
- 電源メーターで確認する。
- アラームで確認する。
- バッテリー状態表示ランプで確認する。
- バッテリーモニターで確認する。

◀電源が切れている状態でも、約30 mWの電力を消費します。バッテリーパックの場合、満充電していても約1か月でバッテリー残量がなくなります。

キー操作(Fn+F9)による残量確認

電源が入っている状態で Fn キーを押しながら F9 キーを押している間、画面上にバッテリーの残量を示すアイコンが表示されます。

バッテリー装着時（の一例）

A 78% ──内蔵バッテリーパック
B --% ──拡張バッテリー

バッテリー未装着時

A --%
B --%

◀数値と実際の残量は多少異なる場合があります。

◀本機のバッテリーパックは、残量補正機能を持っています。この機能が働くと、急に残量表示が変化したり、一定のまま変化しなかったりすることがあります。

残量補正機能とは
不正確になった残量表示を正確な値に戻す機能をいいます。
残量表示が不正確になる原因として、バッテリー容量の計測・学習が正しく行われていないことが考えられます。このような場合、一度、満充電→完全放電→満充電の操作を行ってください。（→96ページ）

電源メーターによる残量確認

[コントロールパネル]→[電源の管理]をダブルクリックし、「電源メーター」をクリックして確認することができます。

◀拡張バッテリー装着時にはバッテリー残量は、内蔵バッテリーパックと拡張バッテリーの総残量で表示されます。

使いかた
モバイル

バッテリーパックを使う

アラームによる残量確認

[コントロールパネル]→[電源の管理]をダブルクリックし、「アラーム」をクリックし、アラーム機能により確認することもできます。

＜バッテリ低下アラーム＞

バッテリー容量が一定のレベルに達したら、バッテリーの低下をアラームで知らせるよう設定します。「電源レベルが次に達したらバッテリ低下アラームで知らせる」にチェックマークを付け、%値を設定します。工場出荷時は「10 %」に設定されています。

＜バッテリ切れアラーム＞

バッテリー容量が一定のレベルに達したら、バッテリー切れをアラームで知らせるよう設定します。
「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」にチェックマークを付け、%値を設定します。工場出荷時は「0 %」に設定されています。

また、「アラームの動作」ボタンをクリックすると、「通知方法」と「電源レベル」を設定することができます。

通知方法　「音で知らせる」「メッセージを表示する」から選択します。工場出荷時は「メッセージを表示する」に設定されています。

電源レベル　「アラーム後のコンピュータの動作」を設定する場合は左側の□にチェックマークを付け、「スタンバイ」と「シャットダウン」から選択します。
工場出荷時は、「バッテリ低下アラーム」ではこの機能は設定されていません。「バッテリ切れアラーム」では「スタンバイ」に設定されています。

◀ Fn + F4 や Fn + F5 のキー操作で音量をミュートしている場合、アラームは鳴りません。

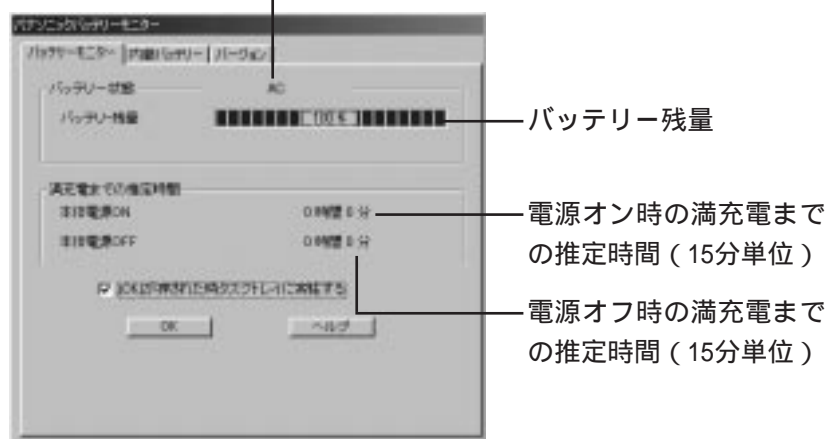
アラームが鳴ったら
充電が必要です。すぐにACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、動作中のプログラムを終了し、Windowsも終了して電源表示ランプ⏻が消えていることを確認してください。

◀「アラーム後のコンピュータの動作」を設定した場合は、「プログラムが応答しない場合でも、スタンバイまたはシャットダウンする」の左側の□にチェックマークを付けておいてください。
この機能により、シャットダウンまたはスタンバイ状態になったときは、ACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、起動およびリジュームできません。

使いかた　モバイル

バッテリーモニターによる残量確認

1 タスクバーのをダブルクリックするか[スタート]-[プログラム]-[Panasonic]-[パナソニックバッテリーモニター]をクリックする。

バッテリーの状態
AC:ACアダプターが接続されているとき
Battery:ACアダプターが接続されていないとき

2 [内蔵バッテリー]をクリックする。

◀拡張バッテリー装着時にはバッテリー残量は、内蔵バッテリーパックと拡張バッテリーの総残量で表示されます。

◀満充電までの推定時間はバッテリーの状態によって異なることがあります。

◀バッテリー残量が約100%未満であっても、[満充電までの推定時間]に[0]と表示されることがあります。

◀拡張バッテリー装着時には[拡張バッテリー]の項目が表示されます。[拡張バッテリー]をクリックすると、拡張バッテリーの状態が表示されます。

バッテリーパックを使う

バッテリー容量を正確に表示させるために

本機のバッテリーパックには、バッテリー容量を計測し、記憶・学習するための機能があります。この機能を正しく働かせて、バッテリー残量を正確に表示させるため、以下の手順に従って、満充電→完全放電→満充電の操作を行ってください。
この操作は、お買い上げ後、一度は行っておいてください。また、長くバッテリーパックをお使いの間には、バッテリーパックの劣化などにより残量が正確に表示されなくなる場合があります。その場合も、再度、この操作を行ってください。

◀内蔵バッテリーパックと別売りの拡張バッテリーの両方を装着しておくことができます。その他の周辺機器はすべて取り外しておいてください。

1 **バッテリーパック装着後、ACアダプターを接続する。**
充電が始まります。

お願い
下記手順2の操作が完了し、バッテリー状態表示ランプが緑色になるまでは、ACアダプターを取り外さないでください。バッテリー容量を正しく計測できなくなります。

2 **内蔵バッテリー状態表示ランプが緑色になったら、放電ツールを実行する。**

 [スタート]→[Windowsの終了]をクリックし、[MS-DOSモードで再起動する]を選んで[OK]をクリックする。

 MS-DOSのプロンプト（C:\WINDOWS>）に続けて、以下のように入力して放電ツールを実行する。
battref /g Enter

 確認のメッセージが表示されたら Y を押す。
この後、以下のように自動的に処理が流れます。

内蔵バッテリー状態表示ランプが消灯する

↓

内蔵バッテリー状態表示ランプが赤点灯する

↓

自動的にコンピューターの電源が切れる
満充電状態で放電ツールを実行した場合、自動的に電源が切れるまでに、内蔵バッテリーパックのみの場合約2.5時間、拡張バッテリー装着時には約5時間かかります。

↓

充電が始まる
内蔵バッテリー状態表示ランプがオレンジ色に点灯したらこの操作は完了です。コンピューターの電源を入れて使用してください。

◀拡張バッテリー装着時には、内蔵バッテリー状態表示ランプ（▯）の後に、拡張バッテリー状態表示ランプ（MP）が点灯します。両方のランプが点灯していることを確認してください。

お願い
- 放電ツール実行後、自動的に電源が切れるまではコンピューターを操作しないでください。
- 充電開始時、バッテリー状態表示ランプがオレンジ色に点滅した場合は、「充電についてのお願い」（→91ページ）をご覧ください。

◀拡張バッテリー装着時には、内蔵バッテリーパックから先に充電され、内蔵バッテリーパックが満充電になったら、拡張バッテリーの充電が始まります。

周辺機器を拡張する

ここでは、CD-ROMドライブ、フロッピーディスクドライブおよび別売りの周辺機器（外部ディスプレイ、プリンターなど）の接続のしかた、RAMモジュールの取り付けかた、PCカードのセットのしかたなどについて説明します。

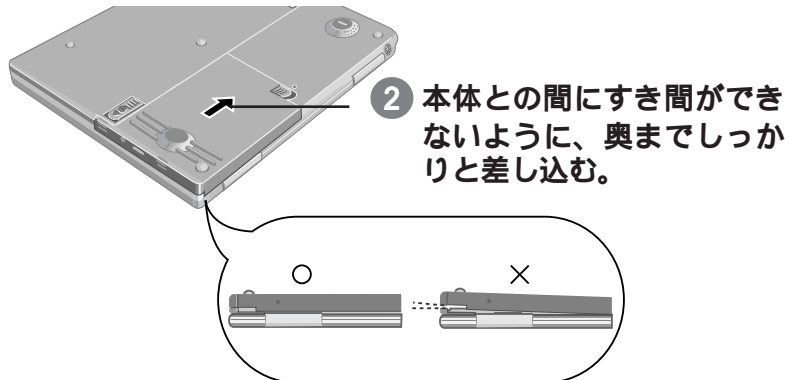
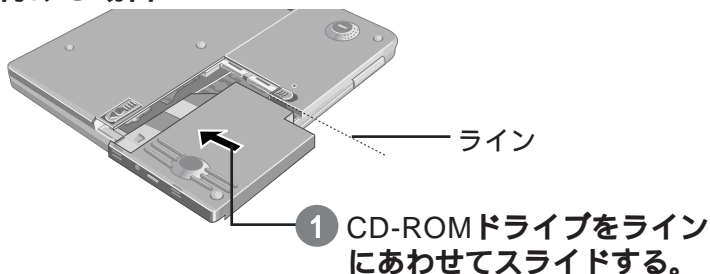
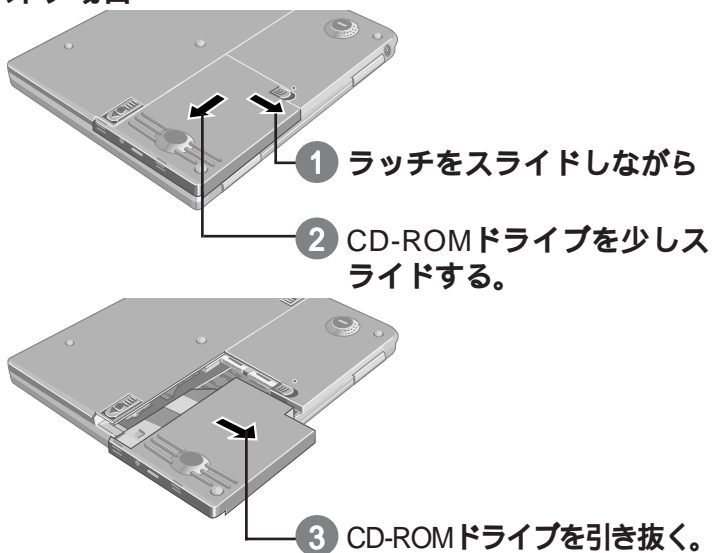
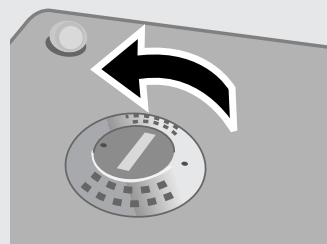
◀各周辺機器の設定・準備などについては各周辺機器に付属の説明書をお読みください。

CD-ROMドライブの取り付け/取り外し

1 操作を終わり、電源が切れたことを確認してACアダプターを取り外す。

2 本体を裏返す。

3 CD-ROMドライブを取り付ける／取り外す。

<取り付ける場合>

<取り外す場合>

◀チルトスタンドを回して高さを元に戻してください。

使いかた

拡張

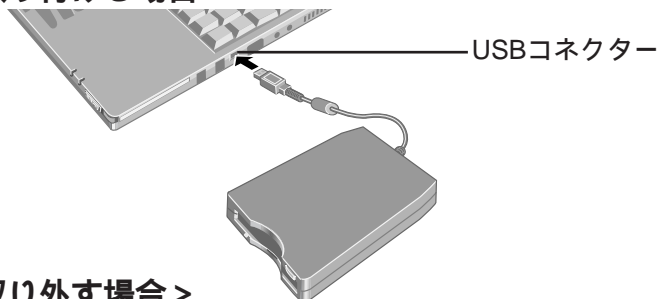
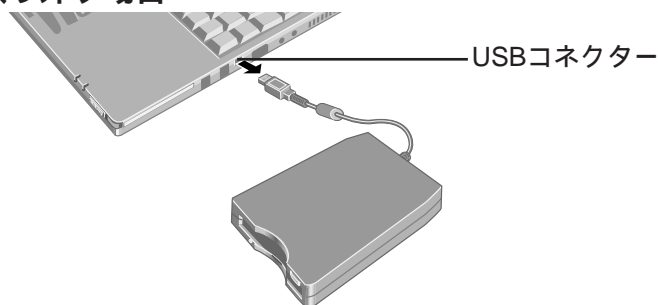
周辺機器を拡張する

USB機器（フロッピーディスクドライブなど）を使う

付属のフロッピーディスクやプリンター、イメージスキャナーなどUSB対応のいろいろな周辺機器を使用することができます。（USB機器の取扱説明書もご覧ください。）

フロッピーディスクドライブの取り付け/取り外し

付属のフロッピーディスクドライブ(外部FDD：CF-VFDU03)をご使用ください。

＜取り付ける場合＞

＜取り外す場合＞

◀ドライバーをインストールする必要はありません。

◀本体の電源を切らなくても取り付け/取り外しができます。

◀フロッピーディスクドライブを取り付けると[マイコンピュータ]に（A:）が表示されます。
セットアップユーティリティーで「レガシーUSB」を「使用する」に設定している場合（→110ページ）、フロッピーディスクドライブを取り付けていなくてもWindows起動時に（A:）が表示されます。
なお、フロッピーディスクドライブを取り外すと、（A:）は表示されなくなります。

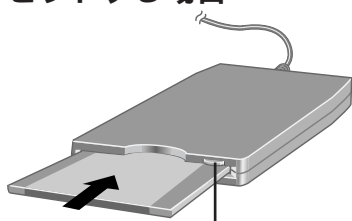
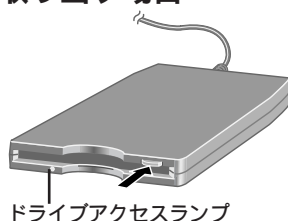
◀MS-DOSモードでお使いの場合は、セットアップユーティリティーで「レガシーUSB」を「使用する」に設定しておいてください。（→110ページ）なお、MS-DOSモード上ではスタンバイ・休止状態に入らないでください。

お願い

- ドライブアクセスランプ点灯中はフロッピーディスクを取り出したり、フロッピーディスクドライブを取り外したりしないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れる恐れがあります。
- フロッピーディスクドライブを持ち運ぶときや保管しておくときには、必ず、フロッピーディスクは取り出してください。

フロッピーディスクのセット／取り出し

＜セットする場合＞

フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで、確実に挿入する。

＜取り出す場合＞

ドライブアクセスランプ

ドライブアクセスランプが点灯していないことを確認した後、取り出しボタンを押す。

使用できるフロッピーディスクの種類と記録容量

フロッピーディスクには「2HD」と「2DD」の２種類があります。それぞれの記憶容量は次のとおりです。

2HD: 1.44 Mバイト/1.2 Mバイト
2DD: 720 Kバイト

用語

読み出し　：フロッピーディスクのデータを本体のメモリー上に送ることを「読み出し」といいます。
書き込み　：メモリー上のデータをフロッピーディスクに送り、記録することを「書き込み」といいます。
フォーマット　：新しいディスクは、磁気的に区画整理する必要があります。この作業を「フォーマット」（初期化）といいます。

その他のUSB機器を使う

機器によっては（ハブに接続するのではなく）本体のUSBコネクターに直接接続しないと動作しない場合があります。

お使いの機種のドライバーをインストールした後、必ず次の操作をしてください。（付属のフロッピーディスクドライブの場合、この操作は必要ありません。）
（この操作をしない場合は、スタンバイ・休止状態からの復帰時に「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示され、以降の操作に支障をきたすことがあります。）

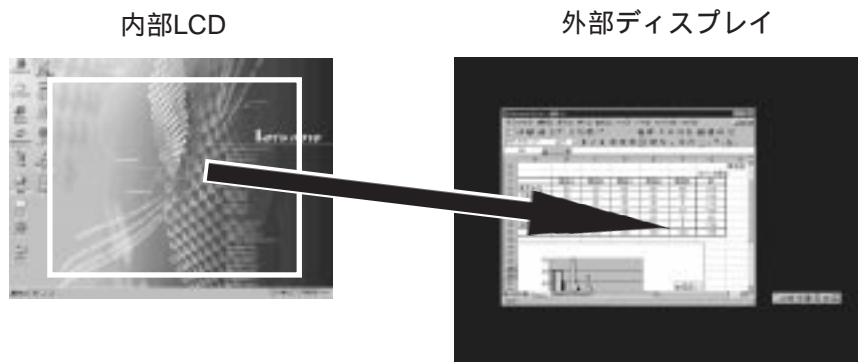
①[スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
②次のように入力する。
　c:\util\usbroot.bat
③[OK]をクリックする。
　以降は、画面のメッセージに従って操作してください。
④[完了]が表示されたら、画面右上の×をクリックする。
⑤[スタート]→[Windowsの終了]からコンピューターを再起動する。
※「ハードウェアの追加ウィザード」が起動した場合は、もう一度ドライバーをインストールしてください。

フロッピーディスクからドライバーをインストールする際に、ハブをお持ちでない場合は、以下の操作をしてください。

①フロッピーディスクドライブを取り付ける。
②[スタート]-[プログラム]-[エクスプローラ]で[(A:)]をクリックし[表示]-[フォルダオプション]-[表示]で「すべてのファイルを表示する」にチェックマークを付ける。
③ハードディスク内にフォルダーを作成し、Aドライブのすべてのファイルをコピーする。
④フロッピーディスクドライブを取り外し、使いたいUSB機器を取り付ける。
⑤ドライバーをインストールする際、「新しいハードウェアの追加ウィザード」で検索場所を選択する画面が表示されたら「検索場所の指定」にチェックマークを付け、③で作成したフォルダー名を入力する。
⑥画面の指示に従ってドライバーをインストールする。

周辺機器を拡張する

デュアルディスプレイモードを使う

別売りの外部ディスプレイを接続している場合（→14ページ）、デュアルディスプレイモードを使うと内部LCDと外部ディスプレイを連続した表示領域として使うことができます。

内部LCD

内部LCDから外部ディスプレイにウィンドウのドラッグ移動ができます。
（上記はサンプル画面です。実際の画面と異なる場合があります。）

◀アプリケーションソフトによっては、デュアルディスプレイモードを使用できない場合があります。

デュアルディスプレイモードを設定する

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[画面]をダブルクリックする。

2 [設定]をクリックする。

3 外部ディスプレイ[2]をクリックする。

4 「このモニタを使用可能にしますか？」で[はい]をクリックし、[OK]をクリックする。

5 画像の領域・色数を設定する。
内部LCDと外部ディスプレイにはそれぞれモニター番号が付けられています。内部LCD[1]と外部ディスプレイ[2]をクリックし、それぞれに対して画面領域・色数を指定してください。

再起動後、デュアルディスプレモードにならない場合
[コントロールパネル]→[画面]→[設定]で外部ディスプレイ[2]を右ボタンでクリックし、「使用可能」メニューにチェックマークを付けてください。

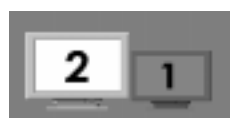
画面領域・色数について
→102ページ

[1]：内部LCD
[2]：外部ディスプレイ

6 拡張表示位置を設定する。

モニター番号をドラッグ＆ドロップし、実際の外部ディスプレイの配置位置にあわせると、操作がしやすくなります。

外部ディスプレイの配置例：

右側に配置する場合　**上側に配置する場合**　**左側に配置する場合**

7 [OK]をクリックする。

モニター番号を確認するには

画面のプロパティのモニター番号をクリックしたままにしておくと、その番号に対応したモニター側に右のように番号が表示されます。

デュアルディスプレイモードを解除する場合

[コントロールパネル]→[画面]→[設定]で外部ディスプレイ[2]をクリックし、「Windowsデスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」のチェックマークを外して[OK]をクリックしてください。

デュアルディスプレイモードを設定すると

- 最大化ボタンをクリックするとどちらか一方のディスプレイに最大表示されます。
- 最大化したウィンドウをもう一方のディスプレイに移動することはできません。
- デュアルディスプレイモードを設定しても、電源を切った状態で外部ディスプレイを取り外し起動すると、デュアルディスプレイモードは自動的に解除されます。

起動アプリケーションソフトが画面に表示されないとき

アプリケーションソフトが外部ディスプレイ（モニター２）にある状態、または外部ディスプレイでそのアプリケーションソフトを終了したあとで、拡張表示位置を変更したりデュアルディスプレイモードを終了したりすると、次回、起動したアプリケーションソフトが画面に表示されない場合があります。

＜拡張表示位置を変更したあと、表示されなくなった場合＞

起動したアプリケーションソフトは変更前の拡張表示位置に表示されています。
いったん、拡張表示位置を変更前の状態に戻してから、アプリケーションソフトを内部LCD（モニター１）に移動したあと、拡張表示位置を変更してください。

＜デュアルディスプレイモードを終了したら、表示されなくなった場合＞

起動したアプリケーションソフトは外部ディスプレイ（モニター２）に表示されています。再度、デュアルディスプレイモードに設定し、アプリケーションソフトを外部ディスプレイ（モニター２）から内部LCD（モニター１）に移動した後、デュアルディスプレイモードを終了してください。

壁紙、アイコン位置がずれるとき

壁紙：　壁紙を設定しなおしてください。
アイコン：アイコンの自動整列を実行してください。

次ページ下部に続く

周辺機器を拡張する

画面領域・色数について

デュアルディスプレイモードで設定できる画面領域・色数の組み合わせは以下のとおりです。

内蔵LCD	外部ディスプレイ 256色		
	640×480	800×600	1024×768
1024×768　256色	○	○	○
1024×768　High Color	○	○	○

内蔵LCD	外部ディスプレイ High Color（16ビット）		
	640×480	800×600	1024×768
1024×768　256色	○	○	○
1024×768　High Color	○	○	○

内蔵LCD	外部ディスプレイ True Color（24ビット）		
	640×480	800×600	1024×768
1024×768　256色	○	○	○
1024×768　High Color	○	○	○

色数について

High Color:　65,536色

True Color:　約1,600万色

◀ホットキーのアイコン（→119ページ）は、外部ディスプレイに表示されます。

◀休止状態に入る場合、処理画面は、デュアルディスプレイモードを設定する直前の表示先に表示されます。休止状態からリジュームするときの処理画面は、セットアップユーティリティーのディスプレイの設定（→109ページ）での表示先に表示されます。

省電力機能を使うとき

省電力ユーティリティーソフトウエア「PowerPanel」の機能により、ディスプレイの電源が切れないように設定してください。この設定をしない場合、正常に表示できない場合があります。

マウスポインターにアニメーションポインターを使うとき

「コントロールパネル」の「デスクトップテーマ」でテーマを変更したときなど、スタンバイや休止状態からリジュームしたときにエラーが発生することがあります。このような場合は、次の手順でマウスポインターを標準のポインターに変更してください。

①「コントロールパネル」の［マウス］をダブルクリックする。

②「ポインタ」タブをクリックする。

③「デザイン」の中から「Windowsスタンダード」を選択する。

④［OK］をクリックする。

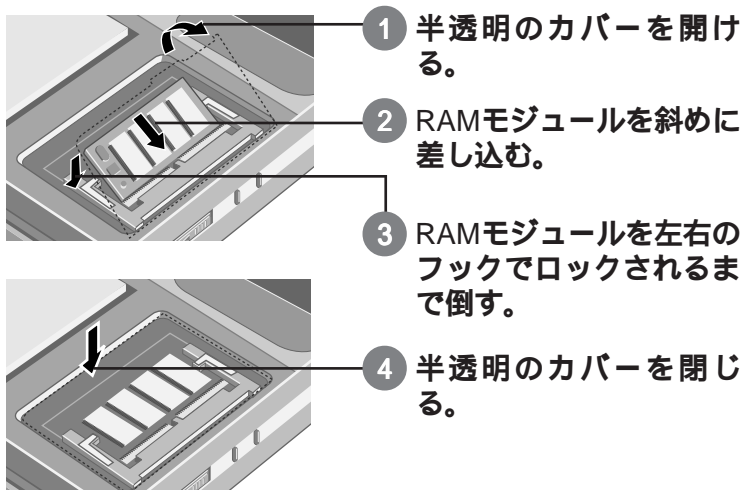
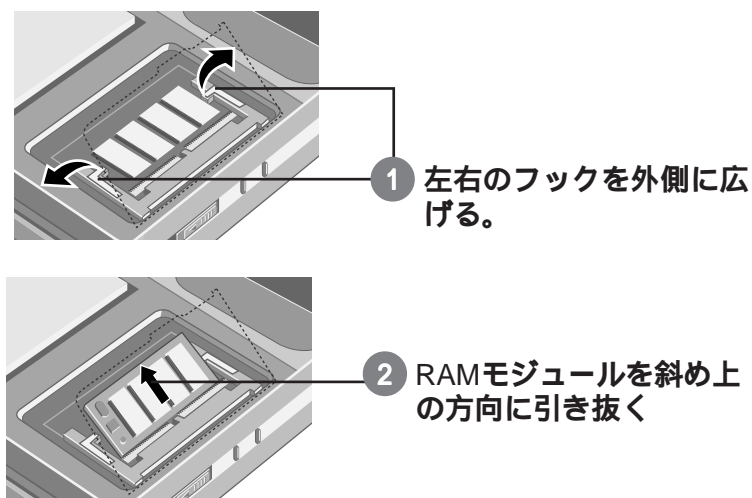
RAMモジュール（カード）を使う

現在のメモリー容量は、セットアップユーティリティーの「メイン」メニュー（→108ページ）で確認することができます。
工場出荷時は、64 M**バイトです。さらに別売りの**RAM**モジュールを増設することによって最大**192 M**バイトまでメモリー容量を拡張することができます。**RAM**モジュールを増設または取り外す場合は、以下の手順に従って操作してください。**

1 **操作を終わり、電源が切れたことを確認する。**

2 **本体を裏返し、カバーを開ける。→88ページ**

3 RAM**モジュールを取り付ける／取り外す。**

<取り付ける場合>

<取り外す場合>

4 **カバーを閉じる。→88ページ**

お願い

下記指定以外のRAM**モジュールを使用すると、正常に動作しないだけでなく故障の原因になる場合があります。**
64 M**バイト** RAM**モジュール**
品番：CF-BAS0064J
128 M**バイト** RAM**モジュール**
品番：CF-BAF0128J

◀RAM**モジュールの取り付け位置**
→14ページ

お願い

スタンバイや休止状態のときは、RAM**モジュールの取り付け・取り外しを行わないでください。機器が破損したり、正常に動作しないことがあります。**

◀**向きと角度に注意して差し込んでください。向きやミゾとの角度を間違うとうまく入りません。**

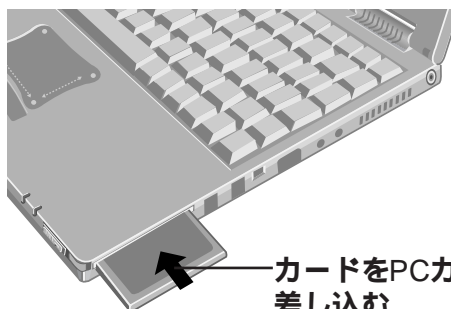
お願い

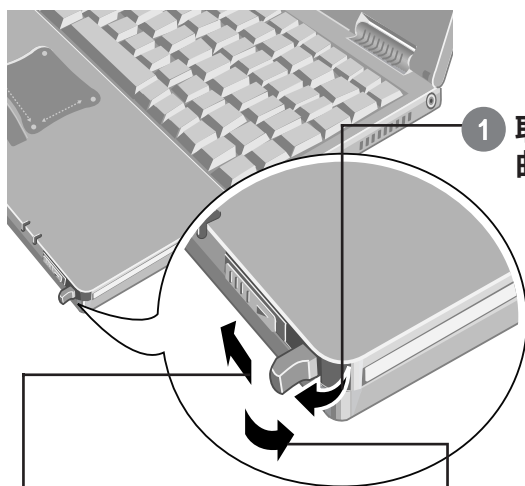
RAM**モジュールは、静電気に対して非常に弱い部品で、人間の体内にたまった静電気により破壊される場合があります。取り付けおよび取り外しのときは、端子などに触れないようにしてください。また、本体内部の部品や端子などにも触れないでください。**

周辺機器を拡張する

PCカードを使う

本機にはPCカード用スロットが１つあります。
PCカードを使うことにより通信機能を利用したり、SCSI機器などの周辺機器を接続することができます。
カードは厚みによってタイプⅠ（3.3mm）、タイプⅡ（5.0mm）、タイプⅢ（10.5mm）の３つの種類に分けられます。
本機で取り付けることができるのは、タイプⅠまたはタイプⅡのカードです。

＜取り付ける場合＞

カードをPCカードスロットにしっかりと差し込む。

＜取り外す場合＞

1 取り出しボタンの折れ曲がり部分を起こす。

2 取り出しボタンをスライドし、カードを取り出す。

3 取り出しボタンの折れ曲がり部分を倒す。

ご使用の前に

- 必ず、PCカードの消費電力を確認してください。PCカードスロットの許容電流（許容電流：3.3 Vで500 mA,5 Vで400 mA）を超えて使用すると、故障の原因となりますのでご注意ください。
- PCカードの操作方法は、PCカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- スタンバイや休止状態時には、取り付け・取り外しは行わないでください。
- 本機はZVカードには対応していません。

お願い

カードを取り出す場合：
「コントロールパネル」の[PCカード(PCMCIA)]をダブルクリックし、「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」画面で取り出すPCカードを選んで、[停止]をクリックしてください。その後、「このデバイスは安全に取り外せます」というメッセージが表示されたら、[OK]をクリックしてください。

CardBusおよびネットワークカードを取り出す場合：
必ず電源を切ってから取り外してください。

必要なときに

セットアップユーティリティーの設定のしかたやオンラインマニュアルの見かたなど、必要に応じてご覧いただきたいことについて説明しています。

もくじ

セットアップユーティリティー 106
起動する 106
キー操作 107
終了する 107
メインメニュー 108
詳細メニュー 110
セキュリティメニュー 111
省電力管理メニュー 115
起動メニュー 116
オンラインマニュアルの見かた 117
キーボードの操作 118
特殊キー 118
キーコンビネーション（ホットキー） 119
起動設定ユーティリティー 120

セットアップユーティリティー

ここでは、動作環境を設定するためのユーティリティー（セットアップユーティリティー）について説明します。

起動する

1 Windowsを終了して再起動する。

[スタート]→[Windowsの終了]をクリックし、[再起動する]を選んで[OK]をクリックする。

2 「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに F2 を押す。

項目

メニュー

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ	
メイン　詳細　セキュリティ　省電力管理　起動　終了	

項目	設定値
BIOS バージョン:	Vx.xxLxx
システム時間:	[xx:xx:xx]
システム日付:	[xxxx/xx/xx]
メモリーサイズ:	xxxxx KB
プライマリーマスター:	xxxxMB
プライマリースレーブ:	CD-ROM
NumLock:	[オフ]
スマートポインター:	[有効]
スピーカー:	[有効]
ディスプレイ:	[外部ディスプレイ]
拡張表示:	[無効]

サブメニュー：無効／有効

項目ヘルプ

スマートポインターを使用するかどうかを設定します。デフォルト設定を実行すると「有効」になります。外部マウスが正常に動作しない場合は、スマートポインターを「無効」にして使用してください。

F1 ヘルプ　↑↓ 項目の選択　F5/F6 値の変更　F9 デフォルトの設定
Esc 終了　←→ メニューの選択　Enter サブメニューの選択　F10 保存して終了

サブメニュー

◀ F2 を押すタイミングが遅いとセットアップユーティリティーは起動しません。その場合、Windowsを終了して再度やり直してください。

◀「パスワードを入力してください」と表示されたら、パスワードを入力してください。
ただし、ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードの両方を設定している場合、ここでユーザーパスワードを入力すると表示されないメニューや項目があります。（→111ページ）

キー操作

下記のキーのうち、画面下側に表示されているものが使用できます。

F1 :一般ヘルプが画面に表示されます

← → :「メイン」「詳細」「セキュリティ」「省電力管理」「起動」「終了」の各メニューを選ぶときに使用します。

↑ ↓ :カーソルが上下に移動します。項目を選ぶときに使用します。

F5 F6 :各項目の設定値を選ぶときに使用します。

Enter : ↑ ↓ で項目を選んだ後に押すと、各設定項目のサブメニュー画面が表示されます。

F9 :各項目の設定値を工場出荷時の値にします。

F10 :設定を保存して終了します。

Esc :「終了」メニューが表示されます。

Tab :日時設定のとき、カーソルの移動に使用します。

終了する

1 ← → で「終了」メニューを選ぶ。

設定を保存して終了
設定を保存しないで終了
デフォルト設定する
設定を戻す
設定を保存する

セットアップユーティリティー起動時の状態、または「設定を保存する」で保存した状態に戻します。

工場出荷時の値にします。

◀ 起動時、パスワードの入力を求められた際にユーザーパスワードを入力した場合、「デフォルト設定する」の項目は表示されません。

2 設定を保存して終了するか、保存せずに終了するかを選び、Enter を押す。

コンピューターが再起動し、Windowsが起動します。

◀ パスワードが有効になっている場合は、Windowsが起動するまでにパスワードの入力が必要です。

メインメニュー

1 ← → で「メイン」メニューを選ぶ。

現在のメモリー容量やBIOSのバージョンなどを確認することができます。

コンピューターに設定されている日付と時刻を確認できます。
また、設定を変更することができます。

BIOS バージョン:	Vx.xxLxx
システム時間:	[xx:xx:xx]
システム日付:	[xxxx/xx/xx]
メモリーサイズ:	xxxxx KB
プライマリーマスター:	xxxxMB
プライマリースレーブ:	CD-ROM
NumLock:	[オフ]
スマートポインター:	[有効]
スピーカー:	[有効]
ディスプレイ:	[外部ディスプレイ]
拡張表示:	[無効]

次ページ

画面をLCDいっぱいに拡張して表示する拡張表示機能の[有効]または[無効]を設定します。

スピーカーの[有効]または[無効]を設定します。

スマートポインターの[有効]または[無効]を設定します。外部マウスが正常に動作しない場合は、[無効]に設定してください。

起動時にテンキー（キー上に青色で印刷された数字など）による入力を[オン]にするか[オフ]にするかを設定します。

CD-ROMドライブが装着されていることを確認することができます。装着されていないときは[なし]と表示されます。

◀ 左記は標準設定（工場出荷状態）の画面例です。

◀ [拡張表示]の設定にかかわらず、Windows起動後は画面は拡張されません。

ディスプレイ

起動時、どのディスプレイに表示するかを[内部LCD][外部ディスプレイ][同時表示]の中から選びます。

◀[外部ディスプレイ]や[同時表示]に設定していても、起動時に外部ディスプレイが接続されていない場合は、内部ＬＣＤ表示となります。

表示可能な解像度・色数

	ディスプレイ設定		
	外部ディスプレイ	内部LCD	同時表示
640×480 16色	○	○*1	○*1
640×480 256色	○	○*1	○*1
640×480 65,536色（High Color）	○	○*1	○*1
640×480 約1,677万色（True Color）	○	○*1*2	○*1*2
800×600 256色	○	○*1	○*1
800×600 65,536色（High Color）	○	○*1	○*1
800×600 約1,677万色（True Color）	○	○*1*2	○*1*2
1024×768 256色	○	○	○
1024×768 65,536色（High Color）	○	○	○
1024×768 約1,677万色（True Color）	○	○*2	○*2

*1 画面の中央に小さく表示されますが、セットアップユーティリティーで「拡張表示」を有効（→前ページ）に設定すると画面いっぱいに表示することができます。（Windows起動後は拡張表示はされません。）その場合、画面が粗くなります。

*2内部LCDには、ディザリング機能により約1,600万色までの表示が可能です。

キー操作による切り換え

Fn ＋ F3 で表示先を切り換えることもできます。

詳しくは→119ページ

画面領域・色数を変更する

1. [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[画面]をダブルクリックする。
2. [画面の領域]または[色]で、画面の解像度・色数を設定する。
3. [OK]をクリックする。
4. 確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作する。
5. 設定が完了したら、[スタート]→[Windowsの終了]から再起動する。

詳細メニュー

1 ← → で「詳細」メニューを選ぶ。

それぞれのポートの設定を行います。

プラグ＆プレイ：	[使用する]
シリアルポート：	[自動]
赤外線通信ポート：	[自動]
パラレルポート：	[自動]
モード：	[ECP]
レガシーUSB：	[使用しない]
内蔵モデム：	[有効]
リングリジューム：	[無効]

◀ 左記は標準設定（工場出荷状態）の画面例です。

スタンバイ状態のとき、内蔵モデムに着信があった場合に電源が入るリングリジューム機能の[有効]または[無効]を設定します。（→114ページ）

◀ 詳細メニューで「内蔵モデム」を[無効]にした場合は設定できません。

レガシーUSB機器を[使用する]か[使用しない]かを設定します。

◀ レガシーUSB機器とは、電源を入れた後、Windowsが起動していない状態でも動作するUSB機器のことです。
本機では付属の外部FDDのみサポートしています。
付属のフロッピーディスクドライブから起動する場合は[有効]に設定してください。

内蔵モデムを[有効]または[無効]に設定します。

パラレルポートのデータ送信方向を[ECP]、[EPP]、[単方向]、[双方向]のいずれかに設定します。

パラレルポートのポート設定を[自動]、[有効]または[無効]に設定します。

◀ パラレルポートを[有効]に設定すると[Base I/O]の項目が表示されます。[378/IRQ7]、[278/IRQ5]、[3BC/IRQ7]のいずれかに設定します。

赤外線通信ポートのポート設定を[自動]、[有効]または[無効]に設定します。

◀ 赤外線通信ポートを[有効]に設定すると[Base I/O]の項目が表示されます。[2F8/IRQ3]、[3E8/IRQ4]、[2E8/IRQ3]、[3F8/IRQ4]のいずれかに設定します。

シリアルポートのポート設定を[自動]、[有効]または[無効]に設定します。

◀ シリアルポートポートを[有効]に設定すると[Base I/O]の項目が表示されます。[2F8/IRQ3]、[3E8/IRQ4]、[2E8/IRQ3]、[3F8/IRQ4]のいずれかに設定します。

[使用する]にすると、各項目の設定値をOS側がより最適と判断する値に自動的に変更することができます。
[使用しない]にすると、各項目の設定値をOS側は変更することができません。

◀通常は[使用する]に設定しておいてください。

セキュリティメニュー

1 ← → で「セキュリティ」メニューを選ぶ。

起動時のパスワードを[有効]または[無効]に設定します。

起動時のパスワード:	[有効]
▶スーパーバイザーパスワード設定:	[Enter]
ユーザーパスワード保護:	[保護しない]
▶ユーザーパスワード設定:	[Enter]

コンピューターの起動およびセットアップユーティリティーの起動をパスワードによって機密保護します。

ユーザーパスワードの変更をできないようにする（保護する）かできるようにする（保護しない）かを設定します。

コンピューターの起動およびセットアップユーティリティーの起動をパスワードによって機密保護します。

◀ セットアップユーティリティー起動時には、[起動時のパスワード]での設定は関係ありません。

◀ 左記は標準設定（工場出荷状態）の画面例です。

◀ スーパーバイザーパスワードが設定されているときのみ設定できます。

セットアップユーティリティーの起動時にユーザーパスワードを入力した場合

下記の設定を行うことができません。
- 詳細メニュー（→前ページ）
- セキュリティメニューの一部（スーパーバイザーパスワード設定・ユーザーパスワード保護）
- 終了メニューの一部（デフォルト設定）

パスワード設定のしかた

1 セットアップユーティリティーの「セキュリティ」メニューを選び[スーパーバイザーパスワード設定]または[ユーザーパスワード設定]を選んで Enter を押す。

◀画面は、スーパーバイザーパスワードを設定する場合を例にしています。
◀ユーザーパスワードはスーパーバイザーパスワードを設定している場合のみ設定できます。

2 パスワードを設定する。
<パスワードを新規に設定する場合>

▸スーパーバイザーパスワード設定	
新しいパスワードを入力してください	[ ]
新しいパスワードを確認してください	[ ]

❶ パスワードを入力して Enter を押す。
❷ 手順❶で入力したパスワードを入力して Enter を押す。

◀入力したパスワードは画面に表示されません。
◀ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードを同じパスワードにした場合、そのパスワードはスーパーバイザーパスワードとして扱われます。

<パスワードを変更する場合>

▸スーパーバイザーパスワード設定	
現在のパスワードを入力してください	[ ]
新しいパスワードを入力してください	[ ]
新しいパスワードを確認してください	[ ]

❶ 設定済みのパスワードを入力して Enter を押す。
❷ 新しいパスワードを入力して Enter を押す。
❸ 手順❷で入力したパスワードを入力して Enter を押す。

お願い
パスワードは忘れないようにしてください。忘れたパスワードを解除する方法はありません。
忘れた場合は、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。

パスワード入力の制限
- 入力可能な文字は、半角の英数字で、最大７文字までです。大文字、小文字の区別はありません。
- Shift や Ctrl およびスペースキーなどの特殊キーとあわせて入力することはできません。
- テンキーによる入力はできません。数字は、キーボード上段の数字キーを使って入力してください。

無断でパスワードを変更されることを避けるために
- セットアップユーティリティーを起動したままコンピューターから離れないでください。
- 「ユーザーパスワード保護」を「保護する」に設定してください。（→前ページ）

<設定済みのパスワードを無効にする場合>

▸スーパーバイザーパスワード設定	
現在のパスワードを入力してください	[ ]
新しいパスワードを入力してください	[ ]
新しいパスワードを確認してください	[ ]

1. 設定済みのパスワードを入力して Enter を押す。
2. 何も入力せずに Enter を押す。
3. 何も入力せずに Enter を押す。

3 「変更が保存されました。」と表示されたら、任意のキーを押す。

パスワードを設定時の起動

以下のようにパスワードの入力を求められますので、設定したパスワードを入力してください。

セットアップユーティリティー起動時： パスワードを入力してください。[ ]

コンピューター起動時 ：

コンピューター起動時のパスワード要求は[起動時のパスワード]が[有効]に設定されていてパスワードを設定している場合に表示されます。上記アイコンが表示されたら、パスワードを入力してください。

パスワードの入力を3回間違えると

- 電源オン時には、電源が切れます。
- スタンバイ状態からのリジューム時には、スタンバイ状態に戻ります。
- 休止状態からのリジューム時には、休止状態に戻ります。

内蔵モデムリングリジューム機能

<内蔵モデムリングリジューム機能とは>
スタンバイ状態のときに電話がかかるとコンピューターの電源が自動的に入る機能のことです。
リングリジューム機能を使用する場合は、「まいと～く FAX V3 Lite」など電話の待ち受け状態を保持できるソフトウェアを起動しておく必要があります。
不在時のファクス自動受信などを活用する際に便利です。

<使用時のお願い>
- 内蔵モデムリングリジューム機能により、長期不在時にもかかわらず電源が入ったままになることを避けるために、省電力ユーティリティーソフトウェア「PowerPanel」を使って、受信完了後、再度スタンバイ状態になるようなプロファイルを新規に作成・設定することをお勧めします。その際「プロファイル自動選択」を選ばないようにしてください。
- 内蔵モデムリングリジューム機能を使用しない場合は、セットアップユーティリティーで「内蔵モデムリングリジューム」を「無効」に設定してください。
- 内蔵モデムリングリジューム機能を使用している場合、電話がつながるまで時間（リジュームで起動する時間相当）がかかります。リジュームを行うには通常の電話呼び出しよりも長く呼び出しを行ってください。
- 内蔵モデムリングリジューム機能を使用する場合、[コントロールパネル]→[電源の管理]→[詳細]の「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」にチェックマークを付けないでください。
- LCDパネルが閉じられている状態で、セットアップユーティリティーの「省電力管理」メニューの「パネルスイッチ」が「サスペンド」や「ハイバーネーション」に設定されていると内蔵モデムリングリジューム機能は働きません。

◀ 休止状態からはリジュームできません。

◀ シリアルモデムやPCMCIAカードモデムのリングリジュームは動作しません。

省電力管理メニュー

1 ← → で「省電力管理」メニューを選ぶ。

電源オン時に、コンピューターの電源スイッチをスライドしたときの動作を[サスペンド][ハイバーネーション][パワーオフ]のいずれかに設定します。（工場出荷時は、[サスペンド]に設定されています。）

パワースイッチ:	[サスペンド]
パネルスイッチ：	[LCD オフ]
Fn+F7/Fn+F10 キー：	[有効]
CD-ROM ドライブ速度：	[高速]

LCDパネルを閉じたときの動作を[LCDオフ][サスペンド][ハイバーネーション]のいずれかに設定します。

CD-ROMドライブの速度を[高速][中速]のいずれかに設定します。CD-ROMの振動が大きい場合やバッテリーでの使用時に消費電力を抑えたい場合などは、[中速]にして使用してください。

Fn ＋ F7 または Fn ＋ F10 キーを押したときの動作を[有効][無効]のいずれかに設定します。

◀ セットアップユーティリティーでは、「スタンバイ」を「サスペンド」、「休止状態」を「ハイバーネーション」と呼んでいます。

パネルスイッチの設定

<サスペンドを選んだ場合>
LCDパネルを閉じると、スタンバイ状態になる。

LCDパネルを開けると、リジュームする。

<ハイバーネーションを選んだ場合>
LCDパネルを閉じると、休止状態になる。

LCDパネルを開けて電源スイッチをスライドしたら、リジュームする。

<LCDオフを選んだ場合>
LCDパネルを閉じると、LCDの電源が切れる。

LCDパネルを開けると、LCDの電源が入る。

◀ LCDパネルを閉じる以外の方法でスタンバイ状態にした場合は、LCDパネルを開いてもリジュームしません。

起動メニュー

1 ← → で「起動」メニューを選ぶ。

システムを起動するドライブの優先順位を設定します。

1. [フロッピードライブ]
2. [ハードディスクドライブ]
3. [CD-ROM ドライブ]

工場出荷時の設定は、[フロッピードライブ]→[ハードディスクドライブ]→[CD-ROMドライブ]の順です。

- 優先順位を1つ上げる場合は、↑↓でデバイスを選択して F6 を押す。
- 優先順位を1つ下げる場合は ↑↓でデバイスを選択して F5 を押す。

オペレーティングシステムを起動するデバイスは、コンピューター起動時にも選択することができます。
電源を入れ、「Press <ESC> to enter Boot First Menu」が表示されているときに Esc を押すと、デバイスの選択画面が表示されます。[起動]メニューの設定を変更すると、選択画面の表示も変更されます。

◀ フロッピーディスクドライブは付属の外部FDDのみサポートしています。セットアップユーティリティーで「レガシーUSB」を「使用する」に設定していないと（→110ページ）フロッピーディスクドライブからの起動はできません。

オンラインマニュアルの見かた

画面で見ることができるオンラインマニュアルとして、以下のものが用意されています。プリンターが接続されていれば、印刷することもできます。ここでは、オンラインマニュアルの見かたについて説明します。

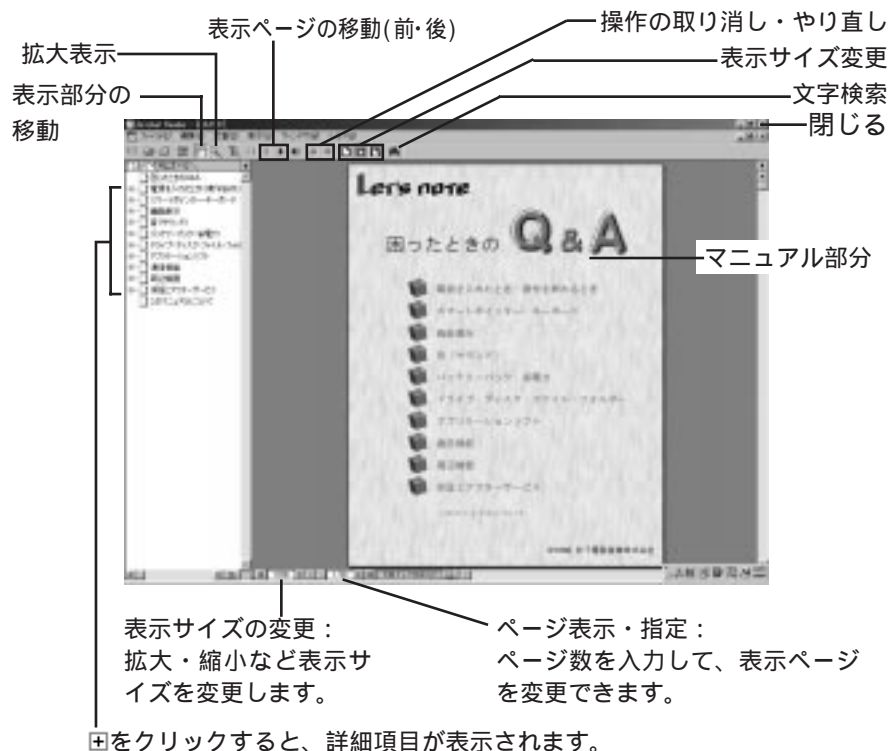
＜困ったときのQ&A＞
　本機が思ったとおりに動かないなど、トラブルが発生したときの対処方法をQ&A方式でまとめています。

＜パソコン・サポートとつきあう方法＞
　初めてのかたを対象に、電話サポート窓口を上手に利用する方法やコンピューターの専門的な用語・略語などについて説明しています。
　（編集：社団法人　日本電子工業振興協会）

＜内蔵モデムコマンド一覧＞
　内蔵モデムのATコマンドについて説明しています。

オンラインマニュアルの起動のしかた

1 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[オンラインマニュアル]をクリックし、見たいマニュアルを選ぶ。

（「困ったときのQ&A」はデスクトップの[困ったときのQ&A]アイコンをダブルクリックしても起動することができます。）

はじめて起動したとき

・「ソフトウェア使用許諾契約書」画面が表示されるので、内容を確認の上、[同意する]をクリックしてください。
・左記以外の方法（エクスプローラなどから、マニュアルのファイルをダブルクリックするなど）ではじめてオンラインマニュアルを起動した場合、エラーメッセージが表示されることがあります。
　その場合は「OK」をクリックしてエラーメッセージ画面を閉じてください。

◀ 下部の「ページ表示・指定」がタスクバーにかくれて見えないときは、ウィンドウを最大表示にしてください。

キーボードの操作

ここでは、そのキー自体に特殊な機能をもつキー（特殊キー）や、Fn キーといっしょに押すことによって特殊な機能が有効になるキー（ホットキー）の使いかたについて説明します。

特殊キー

キー	機　能
Esc、ScrLk	アプリケーションソフトによって機能が異なります。
NumLk	Shift を押しながら押して、テンキーを有効にするかどうかを切り換えます。有効にするとテンキーを使って数字を入力できます。 <NumLkインジケーター点灯時：テンキー有効時> そのまま押す → テンキーモード <NumLkインジケーター消灯時：テンキー無効時> Fn キーを押しながら押す → カーソルキーモード
Pause/Break	プログラムの実行を中断します。続行する場合は、任意のキーを押してください。 Ctrl を押しながら押した場合は、プログラムの実行を中止します。
CapsLock/英数	英数字入力になります。 Shift を押しながら押した場合は、CapsLock状態に入ります。もう一度押すと、解除されます。
Enter	コンピューターに対して、コマンドやデータが入力されます。
Shift	通常、このキーを押しながらアルファベットキーを押すと、大文字入力になります。また、このキーを押しながら数字キーか特殊キーを押すと、キートップの上部に印字されている記号が入力されます。
Ctrl、Alt	このキーを押しながら他のキーを押すと、特殊機能が有効になります。このキーを押しながら他の特殊キーを押した場合、アプリケーションソフトによって機能が異なります。

◀ 実行中のプログラムによっては、中断や中止ができないことがあります。

◀ CapsLock状態では、アルファベットキーを押すと、大文字入力になり、 Shift を押しながらアルファベットキーを押すと小文字入力になります。

キーコンビネーション（ホットキー）

Fn を押しながら下記のキーを押すことによって、特殊機能が有効になります。
この操作を「ホットキー」と呼びます。

キーとアイコン	機　能
Fn ＋ F1	LCDバックライトの輝度を下げます。 キーを押している間、輝度が下がります。
Fn ＋ F2	LCDバックライトの輝度を上げます。 キーを押している間、輝度が上がります。
Fn ＋ F3	画面の表示先を切り換えます。キーを押すごとに（内部LCD→同時表示→外部ディスプレイ）の順に表示先が切り換わります。
Fn ＋ F4	内蔵スピーカーから出る音を消します。 再度押すと元に戻ります。
Fn ＋ F5	内蔵スピーカーの音量を下げます。 キーを押している間、音量が下がります。
Fn ＋ F6	内蔵スピーカーの音量を上げます。 キーを押している間、音量が上がります。
Fn ＋ F7	本機を休止状態にします。
Fn ＋ F9	バッテリーの残量が、画面にアイコン表示されます。 （詳しくは→93ページ）
Fn ＋ F10	本機をスタンバイ状態にします。
Fn ＋ F12	画面全体をクリップボードにコピーします。 Fn ＋ Alt ＋ F12 を押すと選択されているウィンドウのみをコピーできます。

◀ ACアダプターが接続されている状態と接続されていない状態の輝度が別々に記憶されます。

◀ 外部ディスプレイが接続されていない場合でも切り換え処理が行われます。（デュアルディスプレイモード時は無効です。）

◀ Fn ＋ F5 あるいは Fn ＋ F6 が押されると、自動的にスピーカーオンの状態になります。

◀ 「マスタ音量」パネル（→13ページ）でミュートや音量ゼロにしている場合、スピーカーオンでも音は出ません。

◀ アイコンは、セットアップユーティリティーの[ディスプレイ]で設定されている表示先に表示されます。（→108ページ）

ホットキーの操作について

- Fn ＋ F1、Fn ＋ F2、Fn ＋ F4、Fn ＋ F5、Fn ＋ F6 キーを押した場合は、各設定値や動作状態を表すアイコンが表示されます。
- システム起動中、あるいはスタンバイや休止処理を実行中は一部のホットキーは使用できません。
- 高速なシリアル通信中などにホットキーを使用すると、通信エラーになることがあります。通信中はホットキーを使用しないでください。
- 音声再生、録音中にホットキーを使用すると、音がみだれることがあります。
- Fn ＋ F3、Fn ＋ F4 で変更した設定は一時的なものです。再起動後はセットアップユーティリティーで設定されている状態に戻ります。

起動設定ユーティリティー

起動設定ユーティリティーで、起動時の設定を変更したり、休止状態への移行時間および復帰時間を短縮したりすることができます。

1 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[起動設定ユーティリティー]をクリックする。

チェックマークを付けると[起動設定詳細]（下記）のすべての項目にチェックマークがつきます。

チェックマークを付けると休止状態（ハイバーネーション）への移行時間および復帰時間が短縮できます。

2 必要に応じてチェックマークを付ける。

3 詳細な設定を行いたい場合は

❶ [起動設定詳細]を クリック

ファイルの最適化をします。

デスクトップの設定をします。

MS-DOSの設定をします。

ファイルシステムの設定をします。

すべての項目にチェックマークを付けます。

❷ 必要に応じてチェックマークを付ける。

4 [OK]をクリックする。

5 再起動する場合は[OK]を、しない場合は[キャンセル]をクリックする。

再起動すると、次回起動時からここでの各設定が有効になります。

困ったときは

本機を動かそうとして思ったとおりに動かないときの対処方法や再インストールのしかたなどについて説明しています。

もくじ

困ったときのQ&A 122
起動時の問題 122
ディスプレイ画面の問題 123
操作中の問題 124
ドライブの問題 125
周辺機器の問題 126
スタンバイ機能の問題 127
通信時の問題 127
エラーコード一覧 128
DMIビューアー 129
再インストールのしかた 130
再インストールの準備 130
再インストールする 130
休止状態用データ領域の作成 133
Windows 98関連ファイルのインストール 134

困ったときのQ&A

本機を動かそうとして、思ったとおりに動かないことがあります。おかしいな？と思ったら、このページを読んでください。また、「オンラインマニュアル」の「困ったときのQ&A」にはより詳しい情報が記載されています。（→「オンラインマニュアルの見かた」117ページ）
その他、ソフトウェアによる原因も考えられますので、Windowsやアプリケーションソフトなど各ソフトウェアのマニュアルも参照してください。どうしても原因がわからないときは、お買い上げになった販売店または当社ご相談窓口にご相談ください。

起動時の問題

こんなときは	ここをお調べください
操作できない	確認1 • ACアダプターは、本体の電源端子および電源コンセントに差し込まれているか確認してください。 • 十分充電されたバッテリーパックが正しく入っているか確認してください。 • 電源を切った直後は、電源スイッチをスライドしても電源が入らない場合があります。5秒以上待ってから操作してください。 確認2 本体のACアダプターおよびバッテリーパックをすべて外してから再度装着し、再度起動してみてください。 確認3 ハードディスクにアクセス可能かどうか確認し、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。 ＜確認方法＞ ①フロッピーディスクドライブを接続し、「ファーストエイドFD」をドライブにセットする。 ②電源を入れる。 ③セットアップユーティリティーの[詳細]メニューで「レガシーUSB」を[使用する]に設定し、「終了」メニューで「設定を保存して終了」を選んで Enter を押す。 ④確認のメッセージが表示されたら N を押す。 ⑤「A:\>」と表示されたら、「C:」と入力し、 Enter を押す。 • [C:\>]が表示された場合 Windowsを起動するために必要なファイルが壊れている可能性があります。130ページの手順に従って再インストールを行うと、ハードディスクを工場出荷状態に戻すことができます。ただし、作成したデータなどは消えてしまいます。あらかじめご了承ください。 • [C:\>]が表示されない場合 お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
画面上の日付/時刻の表示が違っている	確認1 • コントロールパネルの「日付と時刻」を使って、またはセットアップユーティリティーを起動して正しい日付/時刻を設定してください。 • LAN（ネットワーク）に接続している場合、サーバーの日付や時刻を確認してください。詳しくは、ネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。 確認2 正しく設定してもすぐに表示が違ってくる場合、日付/時刻の情報を保持しているクロックバッテリー（リチウム電池）の残量がない可能性があります。 お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
パスワードを忘れた	お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。

起動時の問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
「Invalid system disk Replace the disk, and then press any key」と表示される	・システムを起動できないフロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにセットされています。フロッピーディスクを取り出してから、何かキーを押してください。 ・フロッピーディスクがセットされていないのに左記メッセージが表示される場合、ハードディスクに何らかの問題が発生していることが考えられます。お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
数字とメッセージが表示される	表示されている番号はエラーコードです。コンピューターに何か問題が発生しています。 「エラーコード一覧」（→128ページ）に従って確認してください。
「Microsoft Scandisk」が起動している	前回終了時に、コンピューターを正しい方法で終了しなかった場合には、次にコンピューターを起動したときにハードディスクのエラーを検出するプログラム「Microsoft Scandisk」が自動的に動作します。その場合は、画面に従って操作してください。 また、コンピューターは必ず正しい方法で（[スタート]→[Windowsの終了]から）終了するようにしてください。
画面に何も表示されない	表示先が外部ディスプレイに設定されている可能性があります。Fn ＋ F3 を押してディスプレイの表示先を切り換えてみてください。
フロッピーディスクドライブから起動できない	セットアップユーティリティーで「レガシーUSB」を[使用する]に設定してください。→110ページ

ディスプレイ画面の問題

こんなときは	ここをお調べください
画面が消えた	確認1 省電力機能によって、ディスプレイの表示が消えることがあります。いずれかのキーを押すと元に戻ります。その際、選択に使うキー（ Enter 、Esc 、Y 、N や数字キーなど）は使わず、動作に影響のないキー（ Ctrl や Shift など）を押してください。 確認2 省電力機能によって、スタンバイ状態に入る（電源表示ランプが緑色点滅する）ことがあります。 その場合、電源スイッチをスライドすると元に戻ります。 確認3 表示先が外部ディスプレイに設定されている可能性があります。Fn ＋ F3 を押してディスプレイの表示先を切り換えてみてください。
残像が残る	同じ画面を長く表示していると、イメージが画面焼きつき、残像となることがあります。これは、異常ではありません。別の画面が表示されてしばらくすると、残像は消えます。
画面に緑、赤、青のドットが残るまたは正しい色が表示されないドットがある	カラー液晶ディスプレイの製造には精度の高い技術が要求されます。ちょっとした環境変化等で点灯しなかったり、常時点灯したりする画素ができますが、これらの画素が0.002%以下（有効画素が99.998%以上）のものは故障ではありません。あらかじめご了承ください。
ゲームの画面が乱れる	[コントロールパネル]→[画面]→[設定]を選び、[詳細]をクリックして[パフォーマンス]の「ハードウェアアクセラレータ」を「なし」に設定してみてください。
画面が正しく表示されない	画面のプロパティで色数等を変更した場合にはWindowsを再起動してみてください。

操作中の問題

こんなときは		ここをお調べください
操作中に動かなくなった		・バッテリーパックを使って操作していたときは、バッテリーの残量がない可能性があります。ACアダプターを接続してください。 ・使っていたアプリケーションソフト上の問題でシステムが止まってしまった可能性があります。以下の手順で操作中のアプリケーションを終了してください。 ① Alt + Ctrl + Del を押す。 ②動作しなくなったアプリケーションを選び、[終了]をクリックする。 ③確認のメッセージが表示されたら[終了]をクリックする。 ・上記の手順を行っても動かない場合は、電源スイッチを4秒以上スライドし続けて電源を切り、再度電源を入れてください。
バッテリー状態表示ランプが赤く点灯している または キー操作による残量表示で0%と表示された		・バッテリー残量がありません。ACアダプターを接続してください。 ・バッテリーパックが正しく接続されていない可能性があります。正しく接続し直してください。
バッテリー状態表示ランプの赤色点灯が長く続く 残量表示が急激に変化する（5%以下に減少する）		学習されているバッテリー容量が実際の容量とずれている場合があります。「バッテリー容量を正確に表示させるために」（→96ページ）に従って操作してください。
バッテリー状態表示ランプが赤く点滅している	確認1 確認2	バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。正しく装着し直してください。 それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
使用中に「ピー･ピー」と音が鳴り始めた		バッテリー残量がわずかです。ACアダプターを接続してください。
充電中にバッテリー状態表示ランプが消灯している	確認1 確認2	ACアダプターとバッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。ACアダプターとバッテリーパックを取り外し、再度正しく装着し直してください。 それでも消灯するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
オンラインマニュアルを表示できない	確認1 確認2	Acrobat Readerをアンインストールしませんでしたか？ アンインストールした場合は、[スタート]→[ファイル名を指定して実行]で「c:\util\reader\setup.exe」を起動し、画面に従ってインストールしてください。 （Acrobat ReaderはAdobe社のホームページhttp://www.adobe.co.jpからダウンロードすることもできます。） 「C:\UTIL\MANUAL」フォルダーに次のファイルがありますか？ ・QA.PDF（困ったときのQ&A） ・SUPPORT.PDF（パソコン・サポートとつきあう方法） ・MODEM.PDF（内蔵モデムコマンド一覧）

ドライブの問題

こんなときは	ここをお調べください
フロッピーディスクドライブ（外部FDD）にアクセスしない	確認1 • フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。 • フロッピーディスクは正しくセットされているか確認してください。 • フロッピーディスクは初期化されているか確認してください。 • ライトプロテクトタブが書き込み禁止の状態になっていないか確認してください。 確認2 フロッピーディスクドライブから起動したい場合や、Command Prompt Onlyでフロッピーディスクドライブを使いたい場合などは、セットアップユーティリティーの「詳細」メニューで「レガシーUSB」を「使用する」に設定してください。「レガシーUSB」が「使用しない」に設定されていると、Windowsを起動しない状態でフロッピーディスクドライブを使用することはできません。
フロッピーディスクが初期化できない	• デスクトップ上の「マイコンピュータ」から[3.5インチFD(A:)]を選んで[ファイル]→[フォーマット]をクリックした後、ディスクの容量やフォーマットの種類を確認してフォーマットしてください。 • 1.2 Mバイトのフロッピーディスクをフォーマットする場合、以下の手順でフォーマットしてください。 ①デスクトップの[スタート]→[プログラム]→[MS-DOSプロンプト]を順にクリックする。 ②次のように入力する。cd \windows\command Enter fmtusbfd -F:1.21 d: Enter ※fmtusbfdコマンドは、Command Prompt OnlyなどWindowsを起動せずに操作している場合や「MS-DOSモードで再起動する」を選んだ場合は使用できません。
ハードディスクドライブにアクセスできない	原因がわからない場合は、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
CDでトラブルが発生した	指定の方法（→16ページ）でCDのクリーニングを行ってください。
CD-ROMドライブのアクセスランプが点灯しない	CDは正しくトレイにセットされていますか？
CDの再生や読み込みができない	CDが変形していたり、傷や汚れが付いていませんか？
突然、MPEG画像が残った青い画面になった	CD-ROMドライブから、MPEGのCDを取り出しませんでしたか？CDをセットして Enter を押してください。
CDが取り出せない	コンピューターの電源が入っていますか？電源が入っていない状態でCDを取り出すには、ゼムクリップを引き伸ばしたものなどをエマージェンシーホールに差し込んでトレイを引き出してください。（→17ページ）
CD-ROMドライブの振動が大きい	• 変形したCDや、ラベルをはったCDを使用していませんか？ • CDドライブ最大速度を低く設定（→115ページ）すれば振動が小さくなる場合があります。

周辺機器の問題

こんなときは	ここをお調べください
割り込み要求（IRQ）、I/Oポートアドレス等、アドレスマップがわからない	「コントロールパネル」の[システム]アイコンをダブルクリックし、[デバイスマネージャ]をクリックし、[コンピュータ]を選んで[プロパティ]をクリックしてください。
プリンターが動かない	確認1 ・ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 ・プリンターの電源が入っているか確認してください。 確認2 ・プリンターがパラレルコネクターに接続されている場合、セットアップユーティリティーで「パラレルポート」が「無効」になっていないことを確認してください。 ・適切なプリンタードライバーが選択されているか確認してください。
マウスが使えない	確認1 マウスケーブルが正しく接続されているか確認してください。 確認2 ・マウスがシリアルコネクターまたはUSBコネクターに接続されている場合はドライバーをインストールする必要があります。（→14ページ） ドライバーをインストールしても動作しない場合： セットアップユーティリティーで「スマートポインター」を「無効」に設定してください。シリアルポートに接続されている場合、「シリアルポート」を「無効」以外に設定してください。 ・インテリマウス™のホイールスクロール機能などを使用する場合は、セットアップユーティリティーで「スマートポインター」を「無効」に設定してください。(→108ページ) 確認3 シリアルインターフェース変換機能をもつPS/2タイプのマウスがマウス/外部キーボード端子に接続されている場合、正常に動作しないことがあります。シリアルコネクターに接続してください。
スマートポインターが使えない	セットアップユーティリティーの「スマートポインター」の設定が「有効」になっているか確認してください。
PCカードが使えない	確認1 カードが正しくセットされているか確認してください。 確認2 適切なドライバープログラムがインストールされているか確認してください。

スタンバイ機能の問題

こんなときは	ここをお調べください
[Windowsの終了]画面で「スタンバイ」が表示されない または スタンバイや休止状態に入れない	以下の手順で「アドバンストパワーマネージメント」を入れ直してください。 ①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[システム]をダブルクリックする。 ②[デバイスマネージャ]をクリックし、「システムデバイス」の中の「アドバンストパワーマネージメントサポート」を選んで、[削除]をクリックする。 ③確認のメッセージが表示されたら、[OK]をクリックし、さらに[はい]をクリックし、コンピューターを再起動する。 ④「コントロールパネル」の[ハードウエアの追加]をダブルクリックする。 ⑤「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面で[次へ]をクリックし、もう一度[次へ]をクリックする。 ・「インストールするデバイスが一覧にありますか」と表示された場合は、「デバイスは一覧にない」にチェックマークを付け、[次へ]をクリックする。 ⑥「はい」を選んで[次へ]をクリックする。 ⑦[次へ]をクリックする。 ⑧[詳細]をクリックして「アドバンストパワーマネージメントサポート」と表示されていることを確認して、[完了]をクリックする。 ⑨[スタート]-[Windowsの終了]から再起動する。

通信時の問題

こんなときは	ここをお調べください
接続できない	確認1 電話回線とモデムが正しく接続されているか確認してください。（→39ページ） 確認2 ・電話回線の種類は正しく設定されているか確認してください。（→40、49ページ） ・通信環境の設定が正しく行われているか確認してください。（→39〜46ページ）
メールの自動送受信ができない	「接続できない」場合の対処方法に従って、確認してください。
メールを自動送受信中、接続が切断される	回線を自動的に切断するように設定している可能性があります。（→69ページ）

エラーコード一覧

ここでは、ハードウェアの不良が発生した場合など、起動時に表示されるエラーコードとその原因・対処について説明します。

エラーコード・メッセージ	原 因・対 処
0211 キーボードエラーです。	外部キーボードが動作していません。外部キーボードを取り外してください。
0251 システムCMOSのチェックサムが正しくありません。－デフォルト値が設定されました。	CMOSデータがアプリケーションによって壊されたか、変更されました。 確認1 セットアップユーティリティーでいったんデフォルト設定にした後、再度、適切な値に設定し直してください。 確認2 それでもエラーになる場合は、CMOSバックアップバッテリーが消耗している可能性がありますので、「ご相談窓口」にご相談ください。
0271 Check date and time settings	システムの日付と時間が正しくありません。セットアップユーティリティーで日付と時間を正しく設定してください。
02B0 起動を3回失敗しました。－デフォルト値が設定されました。	電源を入れてからOSが起動するまでに、3回連続してシステムがシャットダウンされました。セットアップユーティリティーでデフォルト設定にし、日付・時刻を合わせてください。なお、正しくOSを起動すれば表示されることはありません。
02B0 フロッピーディスクAのエラーです。	確認1 ドライブが正しく接続されているか確認してください。 確認2 正しく接続してもエラーになる場合は、ドライブの故障が考えられます。「ご相談窓口」にご相談ください。

下記のエラーコードが表示された場合は、そのメッセージを記録して「ご相談窓口」にご相談ください。

エラーコード・メッセージ	原 因
0200 ハードディスクエラーです。	ハードディスクドライブまたはシステムボードの故障です。
0212 キーボードコントローラエラーです。	システムボードの故障です。
0230 システムRAMエラー。オフセットアドレス：nnnn 0231 シャドウRAMエラー。オフセットアドレス：nnnn 0232 拡張RAMエラー。オフセットアドレス：nnnn	メモリーの故障です。
0250 システムのバッテリがありません。－バッテリを交換して、コンピュータを再起動して下さい。	CMOSバックアップバッテリーが消耗しています。 バッテリーの交換が必要です。
0260 システムタイマーエラーです。	システムボードの故障です。
0270 リアルタイムクロックエラーです。	システムボードの故障です。
02D0 システムキャッシュエラーです。－キャッシュは使用できません。	CPUの故障です。
02F5 DMAのテストが異常終了しました。	システムボードの故障です。

DMIビューアー

本機はDMI(Desktop Management Interface)の規格に準拠しています。
CPUやメモリーをはじめ、本機がサポートしているシステムの情報を知りたいときに使います。

DMIビューアーを起動する

[スタート]-[プログラム]-[Panasonic]-[DMIビューアー]を選ぶ

以下のような画面が表示されます。
項目をクリックすると詳細情報を表示します。

DMIビューアーの終了

情報ファイルを保存する

表示している内容をテキスト形式（.txt）にファイル保存することができます。
DMIビューアーを起動し、保存したい情報を表示します。

1 ●**表示されている項目を保存する場合**
「ファイル」メニューから「表示中のデータを保存」を選ぶ。

●**すべての項目を保存する場合**
「ファイル」メニューから「すべてのデータを保存」を選ぶ。

2 **ファイル名（およびフォルダー）を指定し、[保存]を選ぶ**

再インストールのしかた

ハードディスクの内容が壊れてしまった場合などには、もう一度ハードディスクを工場出荷状態に戻すことができます。

再インストールの準備

1 下記のものを準備する。
- あらかじめ作成しておいたバックアップディスク（ファーストエイドFDなど→『セットアップ編』）
- 「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」（付属）
- 「プロダクトリカバリーCD-ROM 2」（付属）
- フロッピーディスクドライブ（付属）
- CD-ROMドライブ（付属）

◀ 必ず、ライトプロテクトタブを書き込み不可の状態にしておいてください。

2 ハードディスクを圧縮している場合は、Windowsを起動して解除する。

◀ Windowsを起動できない場合などで圧縮を解除できないときは、次ページの手順7で「1.ハードディスク全体を工場出荷状態に戻す。」を選んでください。

3 Windowsを終了して操作を終わり、電源が切れたことを確認する。（→『セットアップ編』）

お願い

必ず、ACアダプターを装着してください。ACアダプターを装着していないと、再インストールは行えません。

4 フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブを取り付ける。

再インストールする

1 コンピューターの電源を入れ、「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに、F2 を押し、セットアップユーティリティーを起動する。（→106ページ）

2 「終了」メニューから「デフォルト設定する」を選んで、Enter を押す。
確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押す。

3 「起動」メニューで「フロッピードライブ」が1番め、「CD-ROMドライブ」が2番め、「ハードディスクドライブ」が3番めになるように F5 、F6 を押して、設定する。

4 ファーストエイド FDおよびプロダクトリカバリーCD-ROM1をそれぞれのドライブにセットする。

5 「終了」メニューから「設定を保存して終了」を選んで、Enter を押す。
確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押し、設定を保存してセットアップユーティリティーを終了する。

6 「再インストールを開始しますか」と表示されたら Y を押す。

7 ＜ハードディスクの内容をすべて工場出荷の状態にする場合＞
[1.ハードディスク全体を工場出荷状態に戻す。]を選ぶ。

◀パーティション設定も行います。

＜ハードディスク(Cドライブ)を工場出荷の状態にする場合＞
[2.Cドライブをフォーマットして、工場出荷状態に戻す。]を選ぶ。
または
[3.Cドライブをクイックフォーマットして、工場出荷状態に戻す。]を選ぶ。

◀パーティション設定は行いません。

◀[3....クイックフォーマットして...]を選んだ場合は、フォーマット時間が約10～15分短縮されます。

8 確認のメッセージが表示されたら Y を押す。
再インストールが始まります。（30分～1時間程度かかります。）

9 「CD-ROMドライブにプロダクトリカバリーCD-ROM2を入れてください」というメッセージが表示されたら、プロダクトリカバリーCD-ROM1を取り出し、プロダクトリカバリーCD-ROM2をセットし、 Enter を押す。

10 「プロダクトリカバリーCD-ROMからのファイルのインストールを完了しました。」というメッセージが表示されたら、ファーストエイドFDがセットされていることを確認して、 R を押す。
コンピューターが再起動されます。

11 「再インストールを完了するため、ファイルを更新します。ファイルをコピーしますか。」と表示されたら、 Y を押す。

12 「ファイルの更新を完了しました。」と表示されたら、プロダクトリカバリーCD-ROM2とファーストエイドFDを取り出し、Alt ＋ Ctrl ＋ Del を押して再起動する。

13 「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに、F2 を押し、セットアップユーティリティーを起動する。
（→106ページ）

14 「終了」メニューから「デフォルト設定する」を選んで、Enter を押す。
確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押す。

困ったときは

再インストールのしかた

15 「終了」メニューから「設定を保存して終了」を選んで、Enter を押す。

確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押し、設定を保存してセットアップユーティリティーを終了する

16 Windows 98のセットアップを行う。（→取扱説明書『セットアップ編』）

＜「アップデートFD」がある場合＞

アップデートFD内のREADME.TXTを参照して操作してください。

17 Office 2000 Personalのセットアップを行う。

付属の右記ソフトウェアパッケージ一式を用意し、「活用ガイド」に従って再インストールを行ってください。

◀バックアップディスク作成時に、「アップデートFD」を作成した場合

◀本機には以下のソフトウェアが付属しています。

Microsoft® Excel 2000
Word 2000
Outlook® 2000
IME2000
Microsoft®/Shogakukan Bookshelf® Basic 2.0

上記ソフトウェアのうち、Bookshelf® Basicは工場出荷時にはインストールされていません。
お使いになる場合は、パッケージに付属の小冊子に従ってインストールを行ってください。

上記ソフトウェアのサポートについては、付属のソフトウェアパッケージの「活用ガイド」をご覧ください。

お願い

Office 2000 Personalのセットアップ終了後、[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[Find Fast]をダブルクリックして[インデックス]の「ログオン時に実行」のチェックマークを外しておいてください。

ハードディスクの「C:\UTIL」フォルダーの各種ドライバーやパナソニック製のソフトウェアを個々に復元したいときは：

「プロダクトリカバリーCD-ROM 2」の「\JA\UTIL」フォルダーにあります。ただし、CD-ROM内のそれらのファイルを使用するときには、更新が必要な場合があります。また、パナソニックPCのホームページに新しい情報が掲載されている場合もありますので、そちらもご覧ください。

休止状態用データ領域の作成

休止状態に入るには、ハードディスク上にメモリーの内容を保存するためのデータ領域を確保しておく必要があります。
工場出荷時には、約204 Mバイトの領域が確保されています。

休止状態用データ領域は、「ファーストエイドFD」のPEDPARTコマンドを使って作成します。
ここでは、PEDPARTコマンドの使用方法について説明します。

◀データ領域は、通常は変更する必要はありませんが、ハードディスクのパーティションを変更したときなどには確保し直す必要があります。

PEDPARTコマンドの使用方法

PEDPARTは「ファーストエイドFD」から起動したMS-DOS環境で実行してください。Windowsの「MS-DOSプロンプト」などから実行すると、正常に起動しません。

「PEDPART」には下記のオプションがあります。コマンドとオプションの間は、１スペース空けて入力してください。

オプション	内容
/RESIZE:[サイズ]	休止状態用データ領域を作成します。[サイズ]にはメインメモリー相当の容量をメガバイト単位で指定します。（メインメモリーの容量以下の値を設定すると休止状態の機能を使用することができません。）
/TOP	ハードディスクの先頭に休止状態用データ領域を設定します。（工場出荷時には先頭に設定されています。）
/?	PEDPARTコマンドの使用方法などを表示します。

お願い

データエリアの作成や削除などを行った後は、すぐに再起動してください。

（例） PEDPART /RESIZE:128 /TOP

メインメモリーが128Mバイト（オンボードメモリー＋64Mバイト RAMモジュール装着時）以下の状態で休止状態に入るために必要な領域を、ハードディスクの先頭に作成します。

PEDPARTコマンドの使用方法

画面表示	原因・対策
パーティションテーブルの内容が不正です。	何らかの理由で、領域の管理情報が存在しません。FDISKコマンドで領域の管理情報を初期化する必要があります。 まず、FDISK /MBRコマンドを実行し、続いてもう一度FDISKコマンドを実行して、存在している「基本MS-DOS領域」を削除してください。 再起動の後、もう一度、PEDPARTコマンドを実行してください。
ハイバーネーション領域のための十分な空きがありません。	休止状態用データ領域を作成するためには、十分な容量を持った空き領域が必要になります。 既存の領域を削除するなどして、空き領域を作成してください。

Windows 98関連ファイルのインストール

工場出荷時にはインストールされていない以下のフォルダーのファイルをインストールしたい場合は、下記の手順に従ってインストールしてください。

\add-ons　\cdsample　\drivers　\tools

インストールするには、ハードディスクのCドライブに十分な空き容量が必要です。

<準備する物>

- **「プロダクトリカバリーCD-ROM 2」(付属)**
- **CD-ROMドライブ(付属)**

1 **コンピューターの電源を入れる。**

2 **「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに、F2 を押し、セットアップユーティリティーを起動する。**

◀ セットアップユーティリティーの起動のしかた→106ページ

3 **「終了」メニューから「デフォルト設定する」を選んで、Enter を押す。**

確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押す。

4 **「起動」メニューで「CD-ROMドライブ」が1番め、「フロッピードライブ」が2番め、「ハードディスクドライブ」が3番めになるように F5 、F6 を押して、設定する。**

5 **プロダクトリカバリーCD-ROM2をCD-ROMドライブにセットする。**

6 **「終了」メニューから「設定を保存して終了」を選ぶ。**

コンピューターが再起動されます。

7 **「A:\>」に続けて以下のように入力する。**

L:\JA\ADDFILE

8 **確認のメッセージが表示されたら Y を押す。**

「c:\win98add」フォルダーにファイルがインストールされます。

9 **インストール完了のメッセージが表示されたらプロダクトリカバリーCD-ROMを取り出して、Alt + Ctrl + Del を押す。**

コンピューターが再起動します。

10 **「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに、F2 を押し、セットアップユーティリティーを起動する。**

◀ セットアップユーティリティーの起動のしかた→106ページ

11 **「終了」メニューから「デフォルト設定する」を選んで、Enter を押す。**

確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押す。

12 **「終了」メニューから「設定を保存して終了」を選んで、Enter を押す。**

コンピューターが再起動されます。

もくじ

ソフトウェア使用許諾書 136
仕様 137
別売り商品 138
さくいん 139
保証とアフターサービス 142

ソフトウェア使用許諾書

この製品にインストールされているソフトウェアについては、「ソフトウェア使用許諾書」の内容を承諾していただくことがご使用の条件になっています。

第1条　**権利**
お客様は、本ソフトウェア（コンピューター本体に内蔵のハードディスク、フロッピーディスク、CD-ROM、マニュアルなどに記録または記載された情報のことをいいます）の使用権を得ることはできますが、著作権がお客様に移転するものではありません。

第2条　**第三者の使用**
お客様は、有償あるいは無償を問わず、本ソフトウェアおよびそのコピーしたものを第三者に譲渡あるいは使用させることはできません。

第3条　**コピーの制限**
本ソフトウェアのコピーは、保管（バックアップ）の目的のためだけに限定されます。

第4条　**使用コンピューター**
本ソフトウェアは、コンピューター1台に対しての使用とし、複数台のコンピューターで使用することはできません。

第5条　**解析、変更または改造**
本ソフトウェアの解析、変更または改造を行わないでください。お客様の解析、変更または改造により、何らかの欠陥が生じたとしても、弊社では一切の保証をいたしません。また解析、変更または改造の結果、万一お客様に損害が生じたとしても弊社および販売店等は責任を負いません。

第6条　**アフターサービス**
お客様が使用中、本ソフトウェアに不具合が発生した場合、弊社窓口まで電話または文書でお問い合わせください。お問い合わせの本ソフトウェアの不具合に関して、弊社が知り得た内容の誤り（バグ）や使用方法の改良など必要な情報をお知らせいたします。

第7条　**免責**
本ソフトウェアに関する弊社の責任は、上記第6条のみとさせていただきます。本ソフトウェアのご使用にあたり生じたお客様の損害および第三者からのお客様に対する請求については、弊社および販売店等はその責任を負いません。また製品に付属されている「保証書」はコンピューター本体（ハードウェア）の保証に限定したものです。

第8条　**その他**
上記第6条のアフターサービスには、ご愛用者登録が必要です。

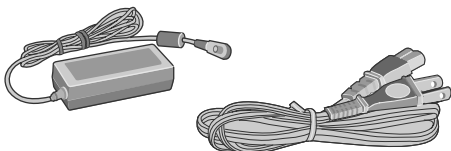
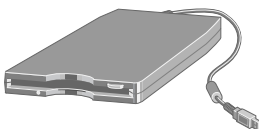
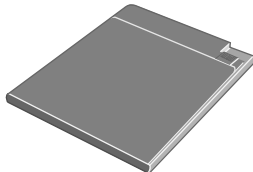
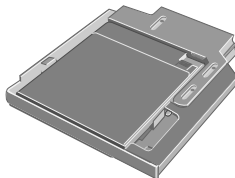
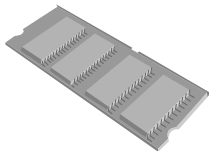
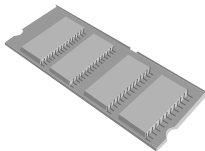
仕様

機種			CF-L1A
CPU			Intel® モバイル Celeron™ プロセッサ 400 MHz
メモリー	メインRAM*1		64 Mバイト(最大192 Mバイト)
	キャッシュ	L1	32 Kバイト
		L2	128 K バイト
	ROM		512 Kバイト
	ビデオメモリー		4 Mバイト
ハードディスクドライブ			6.0 Gバイト*2
CD-ROMドライブ			最大24倍速
表示機能	テキスト表示		80文字×25行
	グラフィック表示		タイプ:13.3 型(TFT) 解像度:1024×768ドット 色数:26万色*3
入力装置	キーボード		総数86キー
	ポインティングデバイス		スマートポインターIII
インターフェース	音声	マイク入力	ミニジャックM3(コンデンサーマイク使用のこと)
		オーディオ出力	ミニジャックM3
	赤外線通信ポート		IrDA1.1準拠(最大転送速度 4 Mbps)
	USBコネクター		4ピン Universal Serial Bus
	モデム端子		本体内蔵 データ: 56 kbps (V.90 & X2両対応) FAX: 14.4 kbps
カードスロット	PCカード専用		タイプIまたはタイプII×1スロット
			Card Busサポート (3.3 V: 500 mA, 5 V: 400 mA)
	RAMモジュール専用		1スロット
オーディオ機能			PCM音源（16ビットステレオ） ステレオスピーカー搭載
時計機能			クロックバッテリーバックアップ 月差±60秒
電源	入力		DC 15.6 V (ACアダプター:入力AC100 V*4, 50 Hz/60 Hz)
	バッテリーパック		10.8 V (Li-ion),3.0 Ah (バッテリーパック)
	消費電力*5		約50 W
バッテリー稼働時間*6			約3.5時間
外形寸法(幅×奥行×高さ)			297 mm×236.5 mm×25.6 mm(前部) / 27.9 mm (後部) (突起部を除く)
質量*7			1.97 kg
使用環境条件			温度:5 ℃～35 ℃ 湿度:30 %RH～80 %RH（結露なきこと）
導入済みソフトウェア			Microsoft® Windows® 98 Second Edition,Intellisync® for Notebooks,Acrobat® Reader,Phoenix Power Panel™,インターネットスターター,ウェブナビゲーター, まいと～く FAX V3 Lite,イラストメール,筆ぐるめ パナソニック版,Microsoft® Excel 2000,Word 2000,Outlook® 2000,IME2000,Internet Explorer5,Microsoft® /Shogakukan Bookshelf® Basic 2.0*8,ドライバー等
フロッピーディスクドライブ			外付け1ドライブ3.5型(1.44 M/1.2 M/720 Kバイト)

*1 シンクロナスDRAMおよびセルフリフレッシュのモジュールに限り使用可能です。

*2 1Gバイト=10^9バイト表記です。

*3 ディザリング機能を使用して約1600万色表示を実現しています。

*4 ACアダプター本体はAC240 Vまで対応、電源コードはAC125 Vまで対応です。

*5 電源オン時、バッテリー充電中の表記です。（電源オフ､バッテリー充電終了時、ACアダプターは約1.5 Wの電力を消費しています。また、電源オフ時のバッテリーの消費電力は約30 mWです。）

*6 CPUスピード25%、LCDバックライト輝度最低時。また使用条件により異なります。

*7 バッテリーパック装着時の平均値です。

*8 CD-ROMに付属しています。使用するにはインストール作業が必要です。

別売り商品

別売り商品の名称と品番は最新のカタログでご確認ください。仕様改善のため、予告なく変更することがあります。

***コンピューター本体に付属の外部FDDとは同時に使用できません。**
外部FDD（別売り商品）に付属の外部FDD用ドライバーディスクは使用しないでください。

さくいん

A～Z

Acrobat® Reader 124
CD-ROMドライブ 14,16,97
CDアクセスランプ 12,16
DMIビューアー 129
Enterキー 118
Hi-HO 42
Intellisync 80
Internet Explorer 50
I/Oポートアドレス 126
IRQ 126
Outlook Express 63,71
PEDPARTコマンド 133
PCカード 104
PCカードスロット 12,104
PowerPanel 83
RAMモジュール 103,138
USB 98,110
USBコネクター 13
URL 51

あ

アクションポイント機能 21
アクションライン機能 22
アクセスポイント 38,44,47,69
エラーコード 128
イラストメール 71
インターネット 38,50
インターネットスターター 42
インテリマウス 14,18
ウェブナビゲーター 55
オーディオ出力端子 13
オートスクロール 19,26
オンラインマニュアル 117
音量 13,119

か

外部FDD 98,125
外部ディスプレイ 14,100,108
外部キーボード端子 14
解像度 109
拡張バッテリー状態表示ランプ 12
環境設定 23,32
輝度 119
キーボード 12,118
キープスクロール機能 18
休止状態 12,36,115,133
休止状態用データ領域 133
クイックラウンチャー 20
コントロールキー Ctrl 118
コンピューターウィルス 9

さ

再インストール 130
周辺機器の接続 97
省電力機能 83
状態表示ランプ 12
シリアルコネクター 14
シリアルポート 110,126
スクロール 18
スタンバイ機能 12,36,83,115
スーパーバイザーパスワード 111,112
スピーカー 12,108
スピーカーボリューム 119
スマートポインター 12,18,20,108
スマートポインター連携 21,22
赤外線通信ポート 13,80,110
接続ID 45
接続パスワード 45
セットアップユーティリティー 106
ソフトウェア使用許諾書 136

た

ダイヤルアップ接続 47
ダイヤルアップネットワーク名 46
通風孔 12
データ保護 9,10
ディスプレイ 11,12,100,108
ディスプレイコネクター 14
デュアルディスプレイモード 100
テンキー 118
電源スイッチ 12,36,115
電源端子 13
電源の管理 83,93
電源表示ランプ 12
電源メーター 93
電子メール 63
電子メールアドレス 45
電話回線の種類 40,43,49
特殊キー 118

な

内蔵バッテリー状態表示ランプ 12

さくいん

内蔵モデム 39,110
内蔵モデムコマンド一覧 117
内蔵モデムリングリジューム 110,114

は

バックアップディスク 130
バッテリー残量 93
バッテリー状態表示ランプ 92
バッテリーパック 87,138
バッテリーパックの取り付け/取り外し 88
バッテリーパックの充電 91
パッド操作モード 29,30,31
パネルスイッチ 12,115
パラレルコネクター 14
パラレルポート 110
パワースイッチ の動作 115
表記上の約束 4
ファーストエイドFD 130
フォーマット 98,125
プロダクトリカバリーCD-ROM1 130
プロダクトリカバリーCD-ROM2 131
フロッピーディスク 10,98
フロッピーディスクドライブ 98,138
フロッピーディスク取り出しボタン 98
プロバイダー 38,42

ま

マイク入力端子 13
まいと〜く FAX V3 Lite 41
マウス 14,18,126
マウス操作モード 29,30,31
マウス端子 14
マウスのプロパティ 26
メールアカウント 42,45
メールの自動送受信 69
メールパスワード 45
メモリー 103,108
モジュラーケーブル 39
モデム 39,47
モデムの選択 47
モデムコネクター 13,39

や

ユーザーパスワード 111,112

ら

ライトプロテクトタブ 10
ラウンチャー 20,29

西暦2000年問題について
本パーソナルコンピューターのハードウェア（BIOSなどのファームウェアを含む）は、西暦2000年問題についての動作確認済みです。
西暦2000年問題については、下記のインターネット上の情報などもご覧ください。

- **松下電器産業株式会社のパソコンの西暦2000年問題情報**
  http://www.pcc.panasonic.co.jp/y2000/（1999年11月現在）
- **マイクロソフト社の西暦2000年問題情報**
  http://www.microsoft.com/japan/year2k/（1999年11月現在）

- **本書の内容に関しましては、事前に予告なしに変更することがあります。**
- **本書の内容の一部またはすべてを無断転載することを禁止します。**
- **落丁、乱丁はお取り替えします。**
- **本書のサンプルで使われている氏名、住所などは架空のものです。**
- **本書のイラストや画面は一部実際と異なる場合があります。**

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

- **本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。**
- **漏洩電流について、この装置は、社団法人　日本電子工業振興協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。**

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ

などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ

お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は…

●修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ!
●その他のお問い合わせは、「テクニカルサポートセンター」へ!

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間:お買い上げ日から本体1年間

（バッテリーパックを除く）

■修理を依頼されるとき

『困ったときのQ&A』（→122ページ）や別紙の『困ったときのチェックシート』に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は
保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。

●保証期間を過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。ただし、パーソナルコンピューターの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。
注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●修理料金の仕組み
修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
技術料 は、診断・故障個所の修理、および部品の交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
部品代 は、修理に使用した部品、および補助材料代です。
出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

・FPANAPC*[1]アクセスについてのご相談は、「Let's note Station」へ！
*[1] パソコン通信NIFTY SERVEのユーザーフォーラムでユーザーどうしによる情報交換などが行われています。
・Let's noteのホームページ*[2]では製品紹介、FAQなど情報掲載やご購入ユーザー様のご愛用者登録を行っております。
*[2] [お気に入り]→[パナソニックお勧めのサイト]→[パナソニックPCのホームページ]にリンクされています。

パナソニックパソコン
テクニカルサポートセンター

0120-873029（パナソニック）

フリーダイヤル（料金無料）

365日／受付9時～20時

ご来店技術相談窓口

Let's note Station

東京都千代田区岩本町3丁目2番4号
（東京建物岩本町ビル3階）
TEL 03-5821-3150

受付日および時間
月曜日～金曜日（祝・祭日を除く）
10時～12時　12時45分～17時

1999年9月1日現在

ナショナル／パナソニック

修理ご相談窓口

修理のご相談は

ナビダイヤル（全国共通番号） ☎ 0570-087-087（パナ 087、パナ 087）

●お客様がおかけになった場所から最寄りの地区の修理ご相談窓口につながります。
呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
●携帯電話・PHSからは最寄りの地区の修理ご相談窓口に直接おかけください。
（ナビダイヤルはご利用頂けません）

北海道地区

地区	所在地	電話番号
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通21丁目左1号	☎(0166)31-6151
帯広	帯広市西19条南1丁目7-11	☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎(0138)48-6631

東北地区

地区	所在地	電話番号
青森	青森市大字八ッ役字矢作1-37	☎(0177)39-9712
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2	☎(018)826-1600
岩手	盛岡市羽場13地割30-3	☎(019)639-5120
宮城	仙台市泉区市名坂字清水端59-2	☎(022)375-2512
山形	山形市流通センター3丁目12-2	☎(023)641-8100
福島	福島県安達郡本宮町字南ノ内65	☎(0243)34-1301

首都圏地区

地区	所在地	電話番号
栃木	宇都宮市御幸町194-20	☎(028)689-2551
群馬	高崎市萩原町沖中205-18	☎(027)352-1109
水戸	水戸市柳河町309-2	☎(029)225-0249
つくば	つくば市花畑2丁目8-1	☎(0298)64-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎(048)729-2102
千葉	千葉市中央区星久喜町172	☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎(03)5450-7431
山梨	甲府市下飯田2丁目1-27	☎(0552)22-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎(045)840-3155
新潟	新潟市東明1丁目8-14	☎(025)286-7725

中部地区

地区	所在地	電話番号
石川	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80	☎(076)294-2683
富山	富山市寺島1298	☎(076)432-8705
福井	福井市開発4丁目112	☎(0776)54-5606
長野	松本市大字笹賀7600-7	☎(0263)58-0073
静岡	静岡市西島765	☎(054)287-9000
名古屋	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎(052)819-0225
岡崎	岡崎市岡町南久保28	☎(0564)55-5719
岐阜	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30	☎(058)323-6010
高山	高山市花岡町3丁目82	☎(0577)33-0613
三重	久居市森町字北谷1920-3	☎(059)255-1380

近畿地区

地区	所在地	電話番号
滋賀	守山市勝部町6丁目2-1	☎(077)582-5021
京都	京都市南区上鳥羽石橋町20-1	☎(075)672-9636
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7	☎(06)6359-6225
奈良	大和郡山市椎木町404-2	☎(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎(0734)75-1311
兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6	☎(078)272-6645

中国地区

地区	所在地	電話番号
鳥取	鳥取市安長295-1	☎(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎(0859)34-2129
松江	松江市西津田2丁目10-19	☎(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎(0855)22-6629
岡山	岡山県都窪郡早島町矢尾807	☎(086)292-1162
広島	広島市西区南観音8丁目13-20	☎(082)295-5011
山口	山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23	☎(0839)86-4050

四国地区

地区	所在地	電話番号
香川	高松市勅使町152-2	☎(087)868-9477
徳島	徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108	☎(0886)98-1125
高知	南国市岡豊町中島331-1	☎(0888)66-3142
愛媛	松山市土居田町750-2	☎(089)971-2144

九州地区

地区	所在地	電話番号
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎(092)593-9036
佐賀	佐賀市本庄町大字本庄896-2	☎(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1949-1	☎(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎(097)556-3815
宮崎	宮崎県宮崎郡清武町下加納366-2	☎(0985)85-6530
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎(096)367-6067
天草	本渡市港町18-11	☎(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎(099)250-5657
大島	名瀬市矢之脇町10-5	☎(0997)53-5101

沖縄地区

地区	所在地	電話番号
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0999

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピューターをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピューター、ディスプレイ、プリンター、ファクシミリおよび複写機などのオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

愛情点検　長年ご使用のコンピューターの点検を！

こんな症状はありませんか	・異常な音やにおいがする ・水や異物が入った

▶ このような症状の時は故障や事故防止のため、電源を切り、電源プラグとバッテリーパックを抜いて、必ず販売店に点検をご依頼ください。

便利メモ	お買い上げ日	年　月　日	品 番*	
おぼえのため記入されると便利です	販売店名	☎（　）　ー	お客様ご相談窓口 ☎（　）　ー	

*保証書に記載されている品番（例：CF-L1A）を記入してください。

松下電器産業株式会社　パーソナルコンピュータ事業部

〒570-0021　大阪府守口市八雲東町一丁目10番12号

FJ1199-1119
DFQM5315ZA